

学术交流レポート

－2017－

桐蔭横浜大学

学 長 挨拶



桐蔭横浜大学
学長 佐藤 宣 践

「学術交流レポート2017」が刊行されて、学術教育活動などの進展が一覧できることになり、有意義なワンステップであると思います。

レポート刊行の意義は、いよいよ大きくなっています。研究と教育を同時に推進していくところに、大学の組織としての独自性、そして主体性があります。教育は、研究の裏打ちを得てこそ真の輝きをもち、若者の精神に深い感動を呼び起こすでしょう。自由な知的土俵である大学においては、好奇心に富む柔軟な若い心に生じる素朴な疑問が端緒となって、時代を超える新しい着想や理論が生み出されることも少なくないのです。大学において教育と研究が支えあって展開されることで、社会に対する大きな貢献ができるのだと思います。このことは、学問が大きく進歩し、その最先端が加速度的な伸びを示している今日、とりわけ重要であり、大学への期待に応え、大学の存在感を一段と大きいものとすることに連なるでしょう。

「学術交流レポート2017」は、単年間の専任教員による学術研究と教育活動をまとめたものです。本学は、法学、医用工学、スポーツ健康政策学の3学部体制となり、また、3つの学術大学院と1つの専門職大学院(法科大学院)がその上に配置されております。こうした進展のなかで、高等教育機関の総合的体制が整備されつつあると自負しております。そこから生まれるところの学術研究教育活動の成果を社会に発信する本レポートが刊行されることで、学の内外にわたり幅広い知的交流の機会が増大し、そのプロセスの中で、研究と教育の間のよき相乗作用が光彩を増すことになれば、まことに幸いです。

学術交流レポート2017 目次

■ 学長挨拶	1	
■ 建学の精神	3	
■ 大学組織図	4	
■ 法学部			
法律学科	5	～ 43
■ 医用工学部			
生命医工学科	44	～ 75
臨床工学科	76	～ 108
■ スポーツ健康政策学部			
スポーツ教育学科	109	～ 129
スポーツテクノロジー学科	130	～ 143
スポーツ健康政策学科	144	～ 168
■ 工学研究科 医用工学専攻・情報・機械工学専攻	169	～ 177
■ スポーツ科学研究科	178	～ 183
■ 法務研究科 法務専攻	184	～ 200
■ 先端医用工学センター	201	～ 201
■ 公開講座・セミナー・シンポジウム・イベント等開催	202	～ 210

建学の精神

社会連帯を基調とした、義務を実行する自由人たれ。

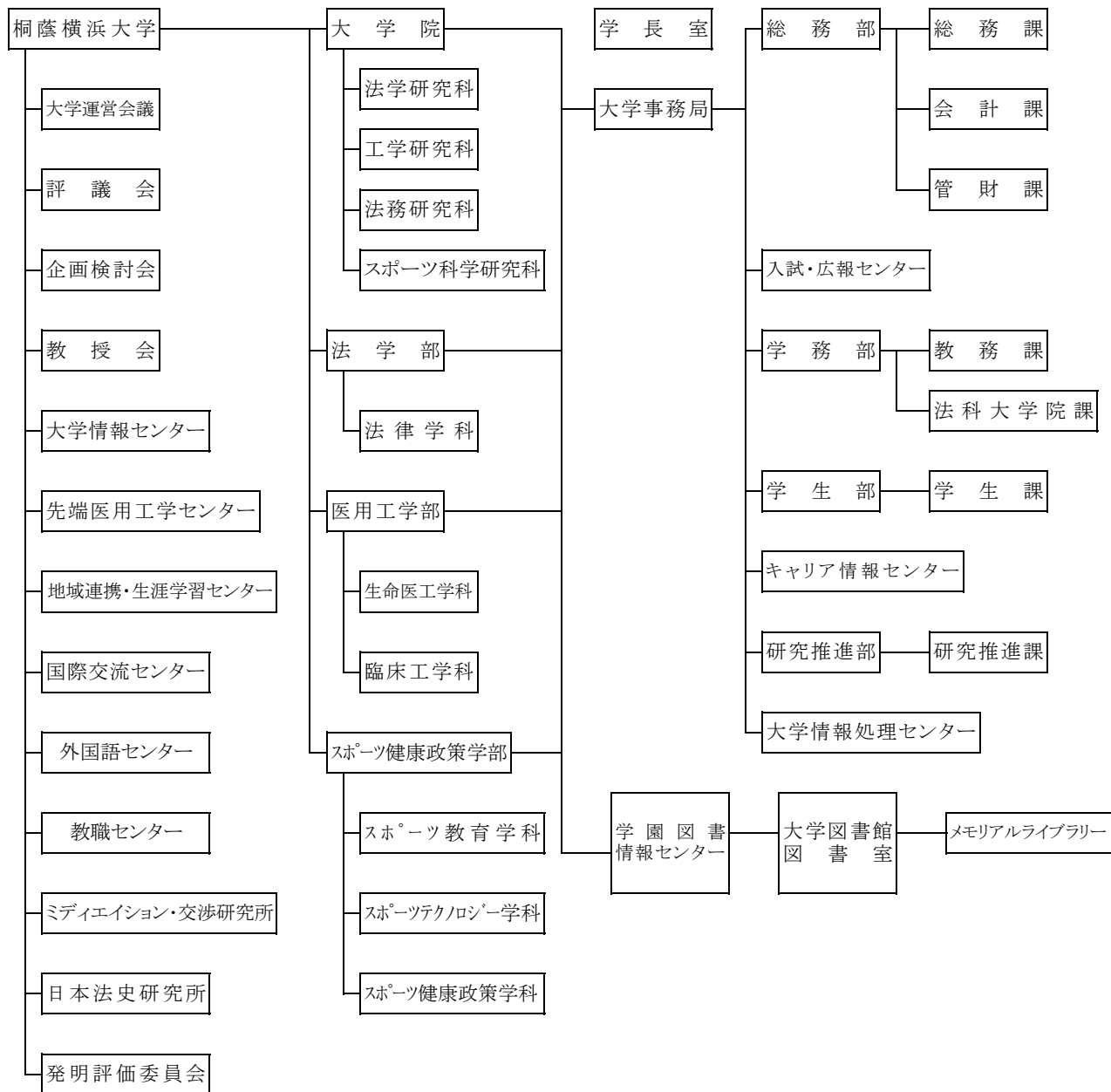
学問に徹し、求学の精神の持主たれ。

道義の精神を高揚し、誇り高き人格者たれ。

国を愛し、民族を愛する国民たれ。

自然を愛し、平和を愛する国際人たれ。

大学組織 2018.4.1現在



法学部 (Faculty of Law)

法律学科 (Department of Law)

麻妻和人 (あさづま かずひと) 教授



出生年 : 1969(昭和44)年
在籍 : 2005(平成17)年4月～
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士前期課程修了
学位 : 法学修士
学位論文 : 捜査の規律に関する一考察 -盗聴-
専門分野 : 刑事訴訟法
前職 : 桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
学内役職等 :
留学 :
資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本刑法学会 日本被害者学会、警察政策学会

阿部 憲二 (あべ けんじ) 教授



出生年：1964(昭和39)年
 在籍：2002(平成14)年9月～
 最終学歴：サンフランシスコ大学教育学部博士課程
 国際化に伴う社会教育学科修了
 学位：教育学博士(Ed.D.)
 学位論文：Achieving High Oral Proficiency Levels in ESL
 専門分野：国際社会病理
 前職：北カリフォルニア大学助教授・マリン郡短期大学講師
 学内役職等：国際交流委員(2012～)
 留学：アリゾナ州立大学(1984.6～1985.5)
 サンフランシスコ大学(修士:1990.6～1991.5、博士:2000.1
 ～2001.12)
 資格：中学1級・高校2級教員免許、英検1級
 上級心理カウンセラー、サイコパス診断資格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Unification of human-Nature spirit on the organic planet earth	単著	2017	European Journal of Academic Essays, 4(4)	Kenji Abe	175-181
A solution to the ISIS problem	単著	2017	European Journal of Academic Essays, 4(4)	Kenji Abe	182-186
What is a serial killer? What is a mass murderer? How do they differ?	単著	2017	European Journal of Academic Essays, 4(4)	Kenji Abe	187-198
The only solution for the human civilization to avoid tuthre apocalypse	単著	2017	European Journal of Academic Essays, 3(3)	Kenji Abe	121-130
Exploitation of mammals as a possible factor of social pathology	単著	2017	European Journal of Academic Essays, 2(7)	Kenji Abe	5-17
A possible environmental pattern to develop psychopathy: Re-examine Cleckley	単著	2017	European Journal of Academic Essays, 2(7)	Kenji Abe	75-82

III 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会等における役職等	
2009年8月～現在	府中刑務所篤志面接員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
府中刑務所	2012年9月～現在	入所者及び満期出所者オリエンテーション担当講師 受刑者心理カウンセリング

内ヶ崎 善英 (うちがさき よしひで) 教授



出生年：1958(昭和33)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学
 学位：法学修士(中央大学)、Master of Laws (N.Y.U.)
 学位論文：勸告的意見の機能について
 専門分野：国際法
 前職：日本学術振興会特別研究員
 学内役職等：法学部学部長(2016～)
 留学資格：New York University, School of Law
 非常勤講師：中央大学法学部
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(2)法学教育におけるアクティブラーニング導入の試み	2012年4月～	<ul style="list-style-type: none"> ・法学部の導入教育におけるアクティブラーニングの導入を模索している。 ・具体的には、リーガルシミュレーションゲームと称して、現実生起しうる仮定の事件を設定し、学生にその事件の当事者となってもらい、当事者であればするであろう主張を展開し、相手方との交渉を行い、最終的には両当事者の妥協点を見つけ出していく。模擬裁判とは異なり、生の形のトラブルからスタートするため法的に再構成されていない紛争の中で話し合いによる解決を模索するところに特色がある。よって、法的知識は必要でなく、相手方の利益を踏まえたうえで両当事者の双方にとって利益をもたらすような解決策を探すために、相互理解を深めていくことが肝要となる。すなわち、対話能力が培われ、自身の主観的な観点から離れ、間主観的な視点からトラブルを考えていく俯瞰的理解力の強化につながっていくことが期待できる。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
国際法学会、世界法学会、国際法理論史研究会、国際法立法研究会

鹿兒嶋 繁雄 (かごしま しげお) 教授



出生年：1950(昭和25)年
在籍：1993(平成5)年4月～
最終学歴：立教大学大学院文学研究科
学位：文学修士
学位論文：ゴート語の現在分詞について
専門分野：ゲルマン語学
前職：成蹊大学工学部非常勤講師
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：中央大学法学部
受賞・表彰：

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本独文学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1975年4月～現在	日本独文学会 会員

笠原毅彦 (かさらは たけひこ) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程満期退学
 学位：法学修士(慶應義塾大学)
 学位論文：法判断権の所在
 専門分野：民事法、法情報学
 前職：常磐大学短期大学部講師
 学内役職等：
 留学：ドイツ連邦共和国ザールラント大学(1984～1986, 1994～1995)
 資格：
 非常勤講師：国土館大学大学院総合知的財産法学科, 早稲田大学法学部

受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
https://nodata.jp/klabo/	2000年4月～現在	授業外での学習促進のための学生間、学生・教員間の議論用オンライン会議室。
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/fj01/	2000年4月～現在	講義内容のWEB上での公開、教材として呈示しながら講義を展開。
2.作成した教科書、教材、参考書		
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/fj01/ https://nodata.jp/klabo/?page_id=466	2000年4月～現在	講義教材ダウンロードサイト。
https://nodata.jp/klabo/?page_id=466	2004年4月～現在	講義資料ダウンロードサイト
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
Cybercampus & Cybercourt	2017年8月	Internationale Summer School: Fortbildung in IT-Recht und Rechtsinformatik

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
<p>内閣府の日本経済再生本部は、2017年6月9日の閣議決定で「未来投資戦略2017」を公表し、裁判手続等のIT化が推進されることになった。同年5月から、内閣官房とその後の裁判手続き等のIT化検討委員会のお手伝いをし、弁護士会・裁判所・学会の仲介に努め、しばらく研究を休止していたサイバーコートの研究を再開した。ドイツ連邦共和国ザールラント大学法情報学研究所主催のサマーセミナーの講師の依頼もあったため、8月・9月の一月半滞在し、ドイツとスペインバルセロナの裁判所のIT化に関して調査した。さらに、11月末、検討委員、内閣官房参事官と通訳を兼ねてドイツを裁判所・法務省等を回り、調査を進めた。</p> <p>それらの成果を、情報ネットワーク法学会、内閣官房日本経済再生本部裁判等のIT化検討委員会、IDF(デジタルフォレンジック学会)研究会(法務・監査)、第一弁護士会業務改善委員会、桐蔭法学会で報告した。</p> <p>直近に研究の中心に据えていた、通信の秘密に関しては、翻訳を2本学会誌と大学紀要に掲載した。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「データ保護規則(Datenschutz-Grundverordnung)と構成国の権利との関係」	単著(翻訳)	2017年6月	桐蔭論叢36号37-45頁		

ドイツ法における「忘れられる権利」及びアクセスプロバイダの責任(翻訳)	単著(翻訳)	2017年6月	情報ネットワーク・ローレビュー16巻163-171頁		
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
Metamorphosis of the Internet	2017年8月	Summer School 2017 - IT Law and Legal Informatics, Uni. Des Saarlandes, Germany			
Cybercampus & Cybercourt	2017年8月	Summer School 2017 - IT Law and Legal Informatics, Uni. Des Saarlandes, Germany			
ドイツ・スペインにおける裁判のICT化	2017年11月	情報ネットワーク法学会報告・パネリスト			
欧州における裁判のICT化	2017年12月	内閣官房日本経済再生本部「裁判手続等のIT化検討会」第2回検討会議			
動き出した裁判手続のICT化	2018年3月	デジタル・フォレンジック研究会法務監査分科会			
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
民事裁判のICT化	2017年5月・2017年7月	内閣官房(参事官の交代のため2回)	早稲田大学		
ドイツ・スペインに於ける裁判のICT化	2017年12月	司法のIT化第二回検討会議(有識者会議)	内閣官房		
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
慶應義塾大学手続法研究所海外渡航補助	2017年8月～2017年9月				
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
特集 紙の聖域に切り込む 戦後初、行政・司法のデジタル改革	2017年8月31日号	日経コンピュータ			
(その他特記事項)					
大学院生論文審査					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本私法学会、比較法学会、慶應法学会、民事訴訟法学会、法とコンピュータ学会、日本経営実務法学会、情報ネットワーク法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1985年 9月～現在	手続法研究所(慶應大学)理事

1999年 4月～現在	私立大学情報教育協会法律学教育FD/IT活用研究委員会委員 2016年よりアドバイザー
2002年 7月～現在	情報ネットワーク法学会設立発起人・役員
2004年10月～現在	私立大学情報教育協会産官学連携サイバーユニバーシティ構想推進会議委員
2006年 9月～現在	Japrico Club (キャンパスツール普及促進組織) 運営委員
2008年4月～現在	名古屋大学法情報研究センター(JaLII)フェロー
2009年 3月～現在	農林水産省沖縄伊江村民泊プロジェクト専門家委員会委員
2013年11月～現在	人工知能学会法情報学国際ワークショッププログラム委員
2014年2月～現在	国立情報学研究所共同研究員

勝 亦 啓 文 (かつまた ひろふみ) 教授



出 生 年 : 1973(昭和48)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程単
 位取得退学
 学 位 : 法学修士
 学 位 論 文 : フランス労働法上の非典型協定
 専 門 分 野 : 労働法
 前 職 : 東京国際大学非常勤講師、青山学院大学非常勤講師
 学 内 役 職 等 : キャリア情報センター長(2014～)
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
地域商店街との連携活動	2011年～	相模大野北口商店会との連携による学生の地域活性化事業への参加
神奈川県警との連携活動	2013年～	神奈川県警本部生活安全総務課との連携による学生防犯活動への参加
2.作成した教科書、教材、参考書		
『社会保障法第5版』(有斐閣、2016)、レジュメ(社会保障法)	2009年～	
『労働法解体新書第3版』(法律文化社、2011)、レジュメ(労働法)	2011年～	
『アクチュアル労働法』(法律文化社、2014)、レジュメ(労働法)	2014年～	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本労働法学会、日独労働法協会

河合 幹雄 (かわい みきお) 教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：京都大学法学部博士後期課程満期退学
 学位：法学修士
 学位論文：アメリカにおける被害者の権利運動
 専門分野：法社会学
 前職：京都大学法学部助手
 学内役職等：副学長(2016～)
 留学：パリ第2大学博士課程
 資格：
 非常勤講師：一橋大学法科大学院・早稲田大学法学部
 受賞・表彰：第六回日本法社会学会奨励賞
 著書「安全神話崩壊のパラドックス」に対して
 日本法社会学会 第六回奨励賞 受賞(2005年5月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
『學士會会報』第888号		「法学教育の見直しとエリートの役割変化」26頁～30頁
4.その他教育活動上特記すべき事項		
日本学術会議特任連携会員		大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 法学教育の参照基準造り

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「調査研究対象との接近と適切な距離—最良の方法とは最高の結果が得られる方法」	共著	2017年12月15日	『法と社会研究 第3号』太田勝造、佐藤岩夫編 信山社	河合幹雄	3～23頁
「“安全神話”の崩壊と法令遵守の厳格化」	共著	2017年12月26日	『激動の平成史』洋泉社	河合幹雄	54～57頁
(学術論文)					
「共謀罪から見えてこない具体的な想定犯罪——司法取引、通信傍受とセットで捜査能力の向上を狙い導入か」	単著	2017年5月30日	WEBRONZA	-	http://webronza.asahi.com/national/articles/201705260005.html
「警察の“予算ルール”の重大な変化は、国民監視強化を意味するのか—“捜査”よりも“監視”に重点ってこと…?」		2017年8月4日	『現代ビジネス』講談社	河合幹雄	

「司法取引導入と司法の文化 — 現場の実態は変わるのか」	単著	2017年12月12日	法学セミナー 2018年1月号 通巻 756号	河合幹雄	52～56頁
「“AV出演強要”何が問題だったのか?有識者委員会メンバーが明かす—(上)女優たちが本当に望んでいたこと(下)なんと総ギヤラの2%という事」	単著	2017年12月28日、29日	『現代ビジネス』講談社	河合幹雄	
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「犯罪・治安対策」	2017年5月15日～19日	人事院公務員研修所平成28年度 初任行政研修 政策課題研究:基調講演	人事院公務員研修所		
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
科学研究費補助金(日本学術振興会)	2016年4月～2021年3月	基盤研究S「超高齢社会における紛争経験と司法政策」研究分担者			
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(55)文科省の天下りスキャンダルに見る有能官僚を”飼い殺す”日本のシステム」	2017年4月18日	『サイゾー』2017年5月号 106～107頁			
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(56)三権分立システムから考えるトランプ大統領の隠された”弱さ”」	2017年5月18日	『サイゾー』2017年6月号 106～107頁			
「共謀罪から見えてこない具体的な想定犯罪—司法取引、通信傍受とセットで捜査能力の向上を狙い導入か」	2017年5月30日	WEBRONZA			
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(57)共謀罪に国民監視の意図はなし!?警察・検察の皮肉なる“真の目的”」	2017年6月18日	「サイゾー」2017年7月号104～105頁			
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(58)国家とヤクザ者が交錯する!金塊事件に見る『警備会社』の歴史」	2017年7月18日	「サイゾー」2017年8月号			
「『暴力団やめたのに…』却下された生活保護」記事内コメント」	2017年7月22日	朝日新聞 静岡版 2017年7月22日 ・ 朝日デジタル2017年7月26日 25面			
「『慶大生集団準強姦容疑で書類送検性知識学ぶ機会”重要”』記事内コメント」	2017年8月10日	朝日新聞 神奈川版 2017年8月10日 23面			
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(59)ピストルズが歌ったIRAから考える世界はいま本当に『テロ時代』か?」	2017年8月18日	「サイゾー」2017年9月号104～105頁			
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(61)電通過労自殺事件から考える「労働災害」適用範囲拡大の歴史」	2017年9月19日	「サイゾー」2017年10月号 104～105頁			

「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (61)電通過労自殺事件から考える『労働災害』 適用範囲拡大の歴史」	2017年10月18日	「サイゾー」2017年11月号 120～121頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (62)山尾志桜里“不倫当選”に見る『不貞行為 と姦通罪』の日本政治史」	2017年11月17日	『サイゾー』2017年12月号 104～105頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (63)“凡庸なる殺人者”白石はなぜかくも異常 な連続殺人を犯したか？」	2017年12月18日	『サイゾー』2018年1月号 104～105頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (64)出演強要問題の裏のAV女優たちの声— —『消してほしい』という切なる願い」	2018年1月18日	『サイゾー』2018年2月号 120～121頁
「『刑法犯 最悪一転減少に 認知件数 増減の 裏に警察方針 県内10年連続減 少年非行減 も原因』内」	2018年1月27日	高知新聞 夕刊 2018年1月27日 1面
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (65)無修正AVはなぜ違法なのか? モザイクな る“参入障壁”と合法AVの謎」	2018年2月19日	『サイゾー』2018年3月号 104～105頁

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本法社会学会、日本法哲学学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1999年1月～現在	法務省矯正局「矯正処遇に関する政策研究会」委員	
2005年5月～現在	日本法社会学会理事	
2010年7月7日～現在	EMA(モバイルコンテンツ審査・運用監視機構)基準策定委員会委員	
2011年5月20日～現在	全国篤志面接委員連盟評議員	
2012年5月1日～現在に至る	日本学術振興会 博士課程教育リーディングプログラム委員会専門委員	
2013年4月9日～現在に至る	公益財団法人矯正協会業務執行役員候補者審議委員会委員	
2013年6月～現在に至る	日本被害者学会理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
河合隼雄財団を創設し評議員就任	2012年5月～現在	

竹内明世（たけうち あきよ）教授



出生年：1969(昭和44)年
在籍：1998(平成10)年4月～
最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
学位：法学修士
学位論文：金融機関の決済システムとその法的諸問題
専門分野：商法、銀行取引法、民法
前職：
学内役職等：
留学資格：
非常勤講師：明治学院大学法科大学院(2006年4月～9月)、横浜国立大学経済学部(2013年10月～2014年3月)、横浜国立大学経営学部(2014年4月～現在)
受賞・表彰：

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本私法学会、金融法学会、日本交通法学会、法文化学会、科学技術社会論学会、臨床法学教育学会

竹村 典良 (たけむら のりよし) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：刑事学的コープテーションの動因・諸相・帰趨(中央大学)
 専門分野：刑事政策、犯罪学、被害者学、刑事法
 前職：中央大学法学部兼任講師
 学内役職等：研究推進部副部長(2014～)
 留学：チュービンゲン大学(ドイツ)(2002年8月～2003年3月)
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：第3回菊田クリミノロジー賞(2002年1月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)双方向学生参加型授業の実践	2005年4月～現在	ゼミと講義形式の授業を融合し、質問応答形式の授業を展開(いわゆるソクラテスマソッドを実践)することによって、学生の授業参加意欲ならびに問題意識を高めている。
(2)授業外における学習促進のための刑事関係施設参観	1993年～現在	刑事政策の実務について資料をもとに学習した上で、刑事施設等を参観し、実務家との間で質疑応答を行い、現状と問題点を学んでいる(横浜刑務所、府中刑務所、網走刑務所、美祢社会復帰促進センター、島根あさひ社会復帰促進センター、久里浜少年院、東京少年鑑別所、横浜少年鑑別所、旭川保護観察所沼田就業支援センター)。また、旧施設を移築した監獄博物館を見学し、刑務所をはじめとする刑事施設の歴史を学んでいる(博物館網走監獄、月形権戸博物館、旧釧路集治監)。
(3)ゼミ論文集の編纂	2005年～現在	ゼミにおけるグループ研究、個別研究の集大成として、毎年度末にゼミ論文集『犯罪と社会正義』を編纂している。

II 研究活動

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
科学技術の発達と社会の発展による環境・エコ犯罪に関する調査研究	2015年4月～2019年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
Société Internationale de Criminologie、European Society of Criminology、American Society of Criminology、Australian and New Zealand Society of Criminology、Academy of Criminal Justice Sciences、日本刑法学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年1月～現在	Asian Journal of Criminology 編集委員

出口 雄一 (でぐち ゆういち) 教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2004(平成18)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学
 学位：法学修士
 学位論文：占領期司法改革における法継受とA・C・オペラー
 専門分野：日本法制史、日本近現代史、法文化論
 前職：桐蔭横浜大学法学部非常勤講師
 学内役職等：法学研究科専攻長(2016～)
 留学：
 資格：
 非常勤講師：慶應義塾大学法学部
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
第二次世界大戦後の占領期におけるアメリカ法継受と戦後法制改革の実証研究 GHQ法律スタッフの法思想の分析と「占領管理体制」の法的構造についての研究 近現代日本における刑事司法制度の変遷と国民の司法参加に関する研究 戦時・戦後初期の日本における法及び法学のあり方と「戦時体制」及び「戦後体制」の実証研究					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『戦後法制改革と占領管理体制』	単著	2017年5月31日	慶應義塾大学出版会	-	520頁
『戦時期の労働と生活』 戦時期の生活と「遵法運動」(第8章)	共著	2018年3月9日	法政大学出版局	法政大学大原社会科学研究所／榎一江編著	245-272頁
『概説 日本法制史』	共編著	2018年3月30日	弘文堂	出口雄一・神野潔・十川陽一・山本英貴編著	526頁
(学術論文)					
「東アジアの戦争と「国境」のゆらぎ——戦後70年と明治150年(その2)」	単著	2018年3月25日	『桐蔭法学』24巻2号	-	75-102頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所		共同発表者名	
天川晃先生と戦後体制論	2018年3月17日	占領・戦後史研究会第1回研究会(二松學舎大学)			

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
科学研究費補助金基盤研究(C):「戦後体制」の形成過程に関する近現代法史の観点からの実証的再検討	2017年4月～2020年3月	日本学術振興会

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
法制史学会、法文化学会、日本法社会学会、日本法哲学会、同時代史学会、占領・戦後史研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2003年12月～現在	占領・戦後史研究会事務局
2013年4月～現在	法文化学会理事
2014年4月～現在	法文化学会事務局

西 謙 二 (にし けんじ) 教授



出生年：1948(昭和23)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：一橋大学法学部
 学位：
 学位論文：
 専門分野：民法学、民事訴訟学、倒産法学
 前職：福岡高等裁判所判事
 学内役職等：
 留学：シュツトガルト地方裁判所等・ドイツ連邦共和国
 (1983年11月)
 資格：弁護士
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「調査官判例解説」(平成4年7月17日第二小法廷判決)	単著	1992年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	305頁
「調査官判例解説」(平成4年12月5日第三法廷判決)	単著	1992年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	552頁
「調査官判例解説」(平成5年1月19日第三小法廷判決)	単著	1993年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	1頁
「調査官判例解説」(平成5年3月16日第三小法廷判決)	単著	1993年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	433頁
「調査官判例解説」(平成6年2月8日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	163頁
「調査官判例解説」(平成6年3月22日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	264頁
「調査官判例解説」(平成6年4月26日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	334頁
「調査官判例解説」(平成6年10月25日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	521頁
「調査官判例解説」(平成7年2月21日第三小法廷判決)	単著	1995年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	85頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
民事訴訟法学会

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
1990年4月～1995年3月	最高裁判所調査官(民事系)
2002年4月～2003年3月	東京高等裁判所判事(民事系)
2003年4月～2008年3月	東京地方裁判所判事(民事系)
2010年1月～2013年6月	福岡高等裁判所判事(民事系)

原 千砂子 (はら ちさこ) 教授



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：国際基督教大学大学院比較文化研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：
 専門分野：政治思想史
 前職：長崎大学商科短期大学部助教授
 学内役職等：法律学科学科長(2016～)
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)英語の多読指導	2005年4月～現在	平易なgraded readingsを用いて、短時間に多量の英語をインプットすることにより、英語理解力の向上を狙った学習方法を、授業内に導入している。
(2)「日米法文化比較」の講義を英語で実施	2010年4月～現在	日本との比較に基づいてアメリカの社会・歴史と法との関わりを英語で講義。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)新規科目「ジェンダー論」を担当	2009年9月～現在	社会学、歴史学、心理学、生物学、政治学等の知見を広く用いながら、人間社会のジェンダー的構成についての理解を深めるための授業。学説史の説明に留まることなく、学生一人ひとりのジェンダー規範を問い直すことを目指し、学生の高い評価を得ている。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
〔総説・論説〕					
「再生産における女性主体と暴力」	共著	2018年3月1日	中央大学社会科学研究所シンポジウム「ジェンダー・暴力・デモクラシー」報告書	原千砂子	17-22頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所		共同発表者名	
「再生産における女性主体と暴力」	2018年2月3日	中央大学社会科学研究所シンポジウム「ジェンダー・暴力・デモクラシー」 中央大学駿河台記念館		原千砂子	

○その他
(その他特記事項)
法学研究科修士論文審査

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
アメリカ学会、日本政治学会、政治思想学会、初期アメリカ学会

升 信 夫 (ます のぶお) 教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：1997(平成9)年4月～
最終学歴：東京大学大学院法学政治学研究科博士課程
学位：法学博士
学位論文：J. S. ミルの自由主義思想
専門分野：欧州政治思想史
前職：立教大学文学部非常勤講師
学内役職等：法学研究科長、学務部部长 (2016～)
留学：ドイツ・チュービンゲン大学(2000年9月～2001年3月)
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略

1. 「有限/無限」に係わり、無限の知見可能性について、捉える視座のあり方が政治認識にどのような差異を生ずるかを検討する。その際、素材としては、幕末から明治期を扱う。横井小楠から熊本バンドの系列、徳富蘇峰を一つの対象とし、これと比較して、中江兆民を置き、更に清沢満之を検討する。
2. 鹿児島研究会に向けて、「攘夷」の意味が極めて多様であること、また幕末での政治判断を検討する。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本政治学会

森 保 憲 (もり やすのり) 教授



出 生 年 : 1961(昭和36)年
在 籍 : 2003(平成15)年4月～
最 終 学 歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
学 位 : 法学修士
学 位 論 文 : フランス第5共和制における「違憲審査制」
専 門 分 野 : 憲法
前 職 : 青森中央学院大学経営法学部専任講師
学 内 役 職 等 :
留 学 : ドイツ チュービンゲン大学(2008年9月～2009年3月)
資 格 :
非 常 勤 講 師 :
受 賞 ・ 表 彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、法文化学会、青森法学会、全国憲法研究会、憲法理論研究会、ドイツ憲法判例研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2013年4月～	ドイツ憲法判例研究会運営委員

谷田部 玲 生 (やたべ れいお) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程教育研究科教育専攻社会科コース修了
 学位：教育学修士(筑波大学)
 学位論文：
 専門分野：教科教育学(社会科教育・公民教育)
 前職：国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部総括研究官
 学内役職等
 留学：
 資格：中学校教諭一級普通免許状(社会)、高等学校教諭一級普通免許状(社会)
 非常勤講師：東京学芸大学、東洋英和女学院大学
 受賞・表彰：日本教育研究連合会表彰(2010年12月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
「小学社会」(日本文教出版)	2015年4月より供給	
「中学社会」(日本文教出版)	2016年4月より供給	
「高等学校 現代社会」(第一学習社)	2013年4月より供給	執筆者代表
「高等学校 新現代社会」(第一学習社)	2013年4月より供給	執筆者代表
「高等学校 政治・経済」(第一学習社)	2013年4月より供給	

II 研究活動

○その他		
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
毎年数回主に調査のために外国出張		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本社会科教育学会、全国社会科教育学会、日本公民教育学会、中等社会科教育学会、社会系教科教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1998年4月～現在	日本社会科教育学会幹事
2000年4月～現在	日本社会科教育学会評議員
2002年6月～現在	全国高等学校NIE研究会顧問
2005年4月～現在	全国社会科教育学会理事
2014年4月～現在	中等社会科教育学会理事
2018年4月～現在	日本公民教育学会事務局

(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
「教科書・教材のデジタル化に関する調査研究(その2)」社会科部会部会長	2013～2017年度	公益財団法人教科書研究センター
教科書研究センター調査研究企画委員会委員	2014年4月～現在	公益財団法人教科書研究センター

山口 裕博 (やまぐち やすひろ) 教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程民事法専攻
 学位：博士(法学)
 学位論文：芸術と法—英米法を中心とする学際的研究—
 専門分野：英米法、民法
 前職：女子美術大学芸術学部助教授
 学内役職等：
 留学：ウィスコンシン大学ロースクール客員研究員(アメリカ合衆国)
 資格：
 非常勤講師：国立音楽大学音楽学部、女子美術大学芸術学部
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義科目における受講生の理解を深め、知識を定着させるための授業の実践		講義科目の授業において、双方向型の授業を展開させ、受講生の理解度を深めるため、毎時間ごとに授業内容を確認する小テストを実施し、次の授業時に解説をすることで知識を定着させるとともに、授業内容に連続性を持たせる工夫を行った。

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
比較契約法の領域における研究としては、伝統的な文言中心的な契約解釈から柔軟な契約手法の採用への途を辿るかに見えたイギリス最高裁が旧来的な立場に立ち返る現状分析と黙示的条項法理、信義則法理との関係について検討した。芸術法領域においては、国立音楽大学における日本音楽著作権協会(JASARAC)寄附講座で「法律としての音楽著作権を学ぶ」を担当し、著作物で保護される著作権と著作物が化体された動産についての所有権との重疊的保護の解明を手始めに、著作権保護法制が所有権的構成から脱却を余儀なくされている法状況を明らかにし、その具体策としてカナダ法で展開されている著作物利用者の権利の検討を行った。著作権の所有権的構成については、著作権法の基礎論の視点から更に検討を加えていきたい。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「法律としての音楽著作権法を学ぶ」	単著	2018年3月20日	音楽著作権入門:日本音楽著作権協会(JASARAC)寄附講座報告書	国立音楽大学	31-43頁
(学術論文)					
音楽大学の授業における音楽著作物の利用と演奏権	単著	2017年6月	桐蔭論叢第36号		7-14頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
比較法学会、日米法学会、信託法学会、日本EU学会、日本私法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2016年11月～現在	一般社団法人平井澄子記念音楽振興会専務理事

秋田知子（あきた ともこ）准教授



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：文書提出命令の改正と文書管理のあり方～特に企業法務部門における訴訟管理対策への指針として
 専門分野：民事法
 前職：桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)裁判法 I	2007年9月1日～	初学者向けに穴埋め式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
(4)民事訴訟法	2014年～	初学者向けに○×形式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
(5)民事執行保全法	2015年～	初学者向けに○×形式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(2)英語A-1、A-2で使用した教材	2013年4月～	2009年～2013年まで使用していた本学大学生向けテキストを改訂し出版した。

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略
2000年に発足した権利保護保険(弁護士保険)制度の現在の状況と課題について検討を行った。
○その他

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本交渉学会、日本民事訴訟法学会

韓 寧 (かん ねい) 准教授



出生年：1974(昭和49)年
 在籍：2007(平成19)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学博士
 学位論文：中国における調停に関する理論及び実証的な検討一日・米法との比較の視点から
 専門分野：紛争処理法、比較法、中国法
 前職：北京法務局
 学内役職等：
 留学：群馬大学社会情報学研究科修士課程、中央大学法学研究科博士後期課程
 資格：中国弁護士
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略		
①日中両国における弁護士費用に関する研究、②日中両国における裁判員制度に関する研究に取り組んでおりました。		
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
世界訴訟法学大会出席	2017年11月7日～2017年11月11日	天津大学(中国)
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
草野先生の古稀記念出版に寄せて—『和解技術論』に関する随想	2018年3月10日	豊田愛祥、太田勝造、林圭介、斎藤輝夫編『和解は未来を創る』(信山社 2018年)509頁～513頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
仲裁ADR法学会、民事訴訟法学会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2007年4月～現在	中央大学日本比較法研究所嘱託研究員

高瀬 武志(たかせ たけし) 准教授



出生年：1986(昭和61)年
 在籍：2014年(平成26)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻博士前期課程修了
 学位：体育学修士
 学位論文：武道思想における死生観に関する研究
 専門分野：武道学・日本思想史・死生学・剣道
 前職：桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部助手
 学内役職等：大学剣道部監督・高校男子剣道部コーチ・法学部体育科主任・入試広報委員・学務委員・スポーツ施設委員・桐蔭学園もえぎの寮管理人
 留学：
 資格：剣道錬士六段・中学校・高等学校教諭1種免許(保健体育)
 非常勤講師：東京都市大学・文教大学
 受賞・表彰：神奈川県スポーツ優秀選手表彰・神奈川文化賞スポーツ賞・筑波大学体育専門学群長賞・桐蔭横浜大学法学部エクセレントティーチャー賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
体育実技科目におけるアクティブ・ラーニングの導入と三者共学システムの構築	2017年～	体育実技(剣道)におけるアクティブ・ラーニング型授業を行い、経験者、未経験者、教員の三者共学システムの構築
2.作成した教科書、教材、参考書		
大学生から学ぶ 体育実技剣道	2017年	体育実技の剣道における基礎的な技術の解説を写真を交えて詳細に解説している。
『あそび』で覚える剣道の初歩！！	2017年	剣道の基礎的練習に入る前段階の導入として剣道の動きを取り入れた遊びを紹介し、詳細に解説している。
大学で学び、桐蔭で学ぶ	2017年	大学で何を学ぶか、大学生としての生活について、桐蔭学園について、桐蔭横浜大学について、桐蔭での学習と研究についてをフレッシュマンゼミにおけるテキストとして使用。
大日本帝国剣道形・日本剣道形 テキスト	2017年	剣道形における基礎と習得上の技術的ポイントや文化性や精神性に関する理論について詳細を解説し、写真つきの手順紹介で視角的にも技術的理解を深められるように工夫された教科書。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
綾瀬市中体連剣道講習会 講師	2016年～	綾瀬市中体連主催の剣道講習会に講師として参加し中学生に剣道の基礎的技術や伝統を指導している。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
福島県相馬市への被災地支援 剣道講習会	2014年～	福島県立相馬高校において被災地支援の一環として講習会を開催し、地元の子供たちとの触れ合いを大切にしている。

地域貢献活動として、NPO法人わくわく教室と提携して、わくわく剣道教室を開催	2016年～	NPO法人わくわく教室と提携して、わくわく剣道教室を毎週1回の頻度で開催し、学生指導員も配属し、地域貢献と学生の深い学びを得られるように指導している。
地域貢献活動として、近隣小学校においてボランティア剣道教室を開催	2016年～	鴨志田第一小学校において、ボランティア剣道教室を毎月1回の頻度で学生と共に開催、指導している。

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略

武士道思想における死生観について文献学的手法を用いて研究をすすめている。
 剣道指導について実践的経験的手法において研究をすすめている。
 体育実技科目におけるアクティブ・ラーニングの導入と三者共学(経験者・未経験者・教員)システムの構築へむけた研究をすすめている。
 地域連携型教育としてサービスマーケティングを取り入れた課外活動における教育法の研究をすすめている。
 被災地支援を通じた学生における意識調査や指導体験を通じた人間教育への研究もすすめている。
 体育実技科目の授業におけるタブレット端末を活用してのアクティブラーニング型授業の推進。
 地域や教育委員会など学外組織との連携による学生への「深い学び」の環境、システム構築。
 武道、武士道に関する教材開発と研究。

○著書・論文等

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『あそび』で覚える剣道の初歩！！	単著	2017年	三恵社		
大学生から学ぶ体育実技 剣道	単著	2017年	三恵社		
桐蔭の蔭－大学剣道部における経験的指導－	単著	2017年	∞ブックス		
大学で学び、桐蔭で学ぶ	単著	2017年	桐蔭学園印刷所		
大日本帝国剣道形・日本剣道形テキスト	単著	2017年	桐蔭学園印刷所		
『あそび』で覚える剣道の初歩！！	単著	2017年	三恵社		I－39頁
(学術論文)					
体育実技「剣道」におけるアクティブラーニング型授業の模索－有段者・経験者・未経験者が共に学び合える授業展開を目指して－	単著	2017年6月	大学体育 第109号	高瀬武志	pp.70－73
部活動における現状とレベルアップに向けた取り組み－高校剣道部と大学剣道部との連携－	単著	2017年6月	桐蔭論叢36号特集II論文	高瀬武志	pp.59－64
「形剣道」における新しい授業展開への模索－アクティブラーニング型授業と「守破離」の修行段階別指導を導入して－	単著	2017年12月	大学体育 第110号	高瀬武志	pp.34－37
武士道思想における死生観に関する一考察－戦国期の天下人の神格化を中心に－	単著	2017年12月	桐蔭論叢37号一般研究論文	高瀬武志	pp.83－91

大学体育と地域活動の連携―指導経験からの模索―	単著	2017年12月	桐蔭論叢37号特集II 論文	高瀬武志	pp.69-74
部活動における現状とレベルアップに向けた取り組み―高校剣道部と大学剣道部との連携―	単著	2017年6月	桐蔭論叢第36号	高瀬武志	pp. 59-64
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
(発表)					
「スポーツ貧血・貧血への対策」に関する学生の現状と意識改革について	単著	2017年10月	医療ガバナンス学会	高瀬武志	
教育の現場から暴力をなくすために―法教育の視点からの考察―	単著	2017年12月	医療ガバナンス学会	高瀬武志	
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
わくわく教室 剣道 主任講師	2017年	NPO法人わくわく教室	あざみ野第一小学校		

IV芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
第62回春季神奈川県学生剣道選手権大会	2017年6月	防衛大学校体育館	女子個人戦:優勝(江頭) 女子団体戦:第三位 男子団体戦:第三位
秋季神奈川県学生剣道選手権大会	2017年9月	神奈川県	男子団体戦:準優勝 女子団体戦:第三位
第12回全日本学生オープン剣道大会	2017年12月	広島県	男子三段以上の部:ベスト16(小清水) 男子二段以下の部:準優勝(石井)
第1回ホーチミン市剣道オープン大会	2018年2月	ベトナム国・ホーチミン市	国際女子団体戦:優勝 国際男女混合三段以上の部:準優勝(牛込)

谷 脇 真 渡 (たにわき まさと) 准教授



出生年：1974(昭和49)年
在籍：2005(平成17)年4月～
最終学歴：桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程
学位：修士(法学)
学位論文：抽象的事実の錯誤における「符合の実質化」とその限界
専門分野：刑法
前職：桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部
受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
刑法Ⅰ・Ⅱ	2007年～現在	講義用レジュメの作成および授業での活用 双方向授業の実践 スマート・キャンパスの活用
社会科学特別講義Ⅲ	2015年～現在	テーマについて学生の理解を促進させるためのパワーポイントや映像教材の活用 スマート・キャンパスの活用

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略
1.平成29年11月29日最高裁大法廷判決を契機として、強制わいせつ罪の成立に性的意図は必要か否かについての研究に取り組み、その成果を桐蔭法学研究会において報告した。 2.引き続き、故意と錯誤およびこれに関連する問題点についても研究し、さらに発展させていきたい。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会

長濱博文(ながはま ひろふみ) 准教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2017(平成29)年4月～
 最終学歴：九州大学大学院人間環境学府発達社会システム専攻博士
 後期課程修了
 学位：博士(教育学)
 学位論文：「フィリピンの統合科目における価値教育に関する研究」(博士論文)

専門分野：比較国際教育学、教職論、ユネスコ価値教育
 前職：目白大学人間学部子ども学科准教授
 学内役職等：教職センター委員、教職課程委員、桐蔭論叢編集委員、桐蔭学園英語村副村長、入試広報委員
 留学：サンディエゴ州立大学大学院(米国)(2009年12月～2010年12月)
 資格：(剣道 三段)
 (書道 四段)

非常勤講師：創価大学教育学部
 受賞・表彰：

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
生命の教育を推進する思想としての社会構成主義の可能性	2017年7月2日	日本道德教育学会第89回大会(於:千葉大学)	
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
『平成27-29年度科学研究費基盤研究(C)』 研究代表者	2015年4月～2018年3月 (2019年3月まで延長)	日本学術振興会、「自己肯定感を促進する地域的ナラティブ形成に関する国際比較研究」	
『平成27-29年度科学研究費基盤研究(B)』 研究分担者	2015年4月～2018年3月	日本学術振興会、「アジアにおける大学入試の多様化と高大接続プログラムの標準化に関する国際比較研究」 [研究代表者 小川佳万 教授、他分担者12名]	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
第6回ホリスティック教育アジア太平洋国際会議(於:同志社大学), [The 6th Roundtable Meeting of The Asia-Pacific Network for Holistic Education: International Conference, 26-29 March, 2018] での発表	2018年3月26日～29日	同志社大学	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本比較教育学会、日本国際理解教育学会、日本道徳教育学会、日本グローバル教育学会、ホリスティック教育協会、日本カリキュラム学会、日本道徳教育方法学会、大学教育学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2015年4月～	日本グローバル教育学会 理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
釜石市諸学校における「いのちの教育」の授業実践の参与観察	2018年3月～	釜石市教育委員会

茂木 洋平 (もぎ ようへい) 准教授



出生年：1981年10月
在籍：2012年4月～
最終学歴：東北大学大学院法学研究科後期博士課程修了
学位：博士(法学)
学位論文：Affirmative Actionの正当化法理 ～アメリカの判例と学説を中心に～
専門分野：憲法
前職：熊本学園大学経済学部リーガル・エコノミクス学科助教
学内役職等：
留學：
資格：
非常勤講師：横浜市立大学(2013年4月～2018年3月)
 関東学院大学法科大学院(2016年4月～2019年3月)

受賞・表彰：東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)研究部門

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略

2017年度については、審査基準の観点から、Affirmative Action(以下、AA)と判断形成機関の裁量との関係について包括的な研究を行った。この成果について、熊本公法研究会で報告し、桐蔭法学に掲載した(「アメリカ合衆国裁判所における厳格審査と敬讓(1)-高等教育機関による人種区分と司法審査基準」桐蔭法学24巻2号1-72頁(2017)。次号に後半部分を掲載予定)。

また、AAが合憲である要件について、時間的制約が重視されている。この問題について包括的に研究を実施し、紀要に成果を公表予定である。さらに、現在、アジア系アメリカ人をめぐるAAの問題について研究を進めている。AAを論じる際、マイノリティと非マイノリティという枠組みで議論が進められがちだが、AAの対象となるマイノリティとして主として論じられてきたのは黒人とヒスパニックであり、アジア系はAAの対象から外されてきた。日本の業績はAAの問題をマイノリティと非マイノリティという枠組みで捉えており、マイノリティの下位グループ(アジア系アメリカ人)について検討していない。下位グループを巡るAAの問題を考察することで、新しい視点からAAの問題に取り組む予定である。

以上は憲法に関わる研究成果である。これとは別に、本年度は行政法学の領域の問題についても研究を進めていく予定である。2018年8月には行政法の判例研究会、2019年2月には行政法の研究会(空き家をめぐる法的問題について報告予定)を主催する予定である。法学部の柱となる地方公務員コースとの関連で、行政法の領域の研究を進めることは非常に重要だと考える。

2017年度については、審査基準の観点から、Affirmative Action(以下、AA)と判断形成機関の裁量との関係について包括的な研究を行った。この成果について、熊本公法研究会で報告し、桐蔭法学に掲載した(「アメリカ合衆国裁判所における厳格審査と敬讓(1)-高等教育機関による人種区分と司法審査基準」桐蔭法学24巻2号1-72頁(2017)。次号に後半部分を掲載予定)。

また、AAが合憲である要件について、時間的制約が重視されている。この問題について包括的に研究を実施し、紀要に成果を公表予定である。さらに、現在、アジア系アメリカ人をめぐるAAの問題について研究を進めている。AAを論じる際、マイノリティと非マイノリティという枠組みで議論が進められがちだが、AAの対象となるマイノリティとして主として論じられてきたのは黒人とヒスパニックであり、アジア系はAAの対象から外されてきた。日本の業績はAAの問題をマイノリティと非マイノリティという枠組みで捉えており、マイノリティの下位グループ(アジア系アメリカ人)について検討していない。下位グループを巡るAAの問題を考察することで、新しい視点からAAの問題に取り組む予定である。

以上は憲法に関わる研究成果である。これとは別に、本年度は行政法学の領域の問題についても研究を進めていく予定である。2018年8月には行政法の判例研究会、2019年2月には行政法の研究会(空き家をめぐる法的問題について報告予定)を主催する予定である。法学部の柱となる地方公務員コースとの関連で、行政法の領域の研究を進めることは非常に重要だと考える。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Fisher v. University of Texas, 136 S. Ct. 2198 (2016) : 大学の入学者選抜における人種の使用は、目的審査では大学の判断を敬譲するが、手段審査では敬譲しない厳格審査(strict scrutiny)の下で、合憲だとされた事例	単著	2017年10月	アメリカ法2017-1		106-11頁
アメリカ合衆国裁判所における厳格審査と敬譲(1)-高等教育機関による人種区分と司法審査基準	単著	2018年3月	桐蔭法学24巻2号		1-72頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
敬譲と厳格審査-アメリカ合衆国裁判所における司法審査基準	2017年12月	熊本公法研究会	熊本大学		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会 憲法理論研究会 全国憲法研究会 日米法学会 東北大学公法判例研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2016年5月～2018年5月	憲法理論研究会会計監査
2016年10月～	憲法理論研究会 叢書編集委員

箭野 章五郎(やの しょうごろう) 専任講師



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2015年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程修了
 学位：博士(法学)
 学位論文：「刑事責任能力の研究」
 専門分野：刑事法
 前職：獨協大学法科大学院特任助教
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：明治学院大学法学部、中央大学法学部
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
刑事責任能力についての研究を継続して行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
責任能力制度の理解と事前責任論	単著	2017年4月	日本刑法学会刑法雑誌56巻2号		1-17頁
責任能力の意義と責任非難の構造について	単著	2017年9月27日	刑事法学の未来:長井圓先生古稀記念論文集		77-93頁
妄想性障害に罹患していた被告人についての責任能力の具体的判断(判批)	単著	2018年6月26日	法学新報125巻1・2号		185-202頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「妄想性障害に罹患していた被告人についての責任能力の具体的判断」	2017年12月16日	第367回中央大学刑事判例研究会(中央大学市ヶ谷校舎)			
○その他					
(その他特記事項)					
2016年度総合起案演習 刑事系 I (刑法)問題作成と解説 中央大学エクステンションセンター法職事務室発行					
2017年度総合起案演習 刑事系 I (刑法)問題作成と解説 中央大学エクステンションセンター法職事務室発行					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
日本刑法学会 , 日本犯罪社会学会	
2017年4月～現在	日本医科大学多摩永山病院倫理委員会 倫理委員

浅岡 慶太 (あさおか けいた) 助教



出生年 : 1974(昭和49)年
在籍 : 2001(平成13)年4月～
最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
学位 : 法学修士
学位論文 : 若者から少年へ—ドイツ少年刑法の歴史的前提
専門分野 : ヨーロッパ近代法史
前職 :
学内役職等 :
留学 : チュービンゲン大学(ドイツ)(2004年7月～2005年3月)
資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日独法学会
青森法学会

村上 秀明 (むらかみ ひであき) 特任教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育科学研究科運動生化学専攻修了
 学位：体育学修士、農学修士
 学位論文：運動誘発性喘息(EIA)の成因について—chemical mediatorを中心として—(体育学)
 光合成細菌の肥料化について(農学)
 専門分野：公衆衛生学、健康科学、生理学、体育学
 前職：東京工業大学工学部助手, 国立身体障害者リハビリテーション研究所研究員, 国立小児病院アレルギー科研究員
 学内役職等：
 留学籍：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1) 体育実技(担当種目:バドミントン) 1) 優れた教育方法の実践例 ・オリジナルの出席カード(授業毎に内容・問題点の確認ができる) ・グループ学習によるオリジナルノート作成など 2) マルチメディア機器を活用した授業方法 ・ビデオ分析による指導 ・パソコンの動作分析ソフトを用いた問題点の確認と指導 3) 学生の授業以外における学習促進のための取り組み ・毎回、グループ毎の指導案作成 4) 学生や教員同士での授業評価等 ・半期毎に最初と最後にオリジナルの授業アンケート(学生用) ・教員は、最初に到達目標に対しての概要を提出し、最後に教員用アンケートに答え、教員相互の評価をする	2005年4月～現在	健康体力づくり・生活文化としてのスポーツについて理解を深め、自ら進んで楽しむための理論と実践を経験させている。特に、ラケット種目のバドミントンは個人技術の習得が重要となり、ゲーム(シングルス・ダブルス)を楽しむ為に中級者と初級者の交流もはかり、グループ学習を通して、集団と個人の有り方について再確認させている。内容は、基礎練習と試合を中心に授業の楽しみ方を適宜グループを変え、考えさせる。又、安全管理やマナーを習得させ、ビデオ解析による技術向上や万歩計による自己の健康・体力づくりの検討も行っている。特に、毎時間、反省・感想・意見を全員に書かせ、次回にフィードバックさせている。又、オリジナルのドリル練習方法や対戦表作成等を行い、常に授業に工夫を持たせている。
(2) 健康の科学 1) 優れた教育方法の実践例 ・オリジナルの出席カード(授業毎に内容・問題点の確認ができる) ・グループ学習によるオリジナルノート作成など 2) マルチメディア機器を活用した授業方法 ・ビデオ・CD・DVDによる授業 ・グループ学習での個人のデータやまとめをパソコンの入力し、分析ソフトを用いて、問題点の確認と指導 3) 学生の授業以外における学習促進のための取り組み ・3回に1回、メールにてレポート・資料の提出 4) 学生や教員同士での授業評価等 ・半期毎に最初と最後にオリジナルの授業アンケート(学生用) ・教員は、最初に到達目標に対しての概要を提出し、オリジナルの自己点検アンケートに答え、評価をする。	2005年4月～現在	この授業では、自ら監修した教科書「健康科学」を中心に「健康とは何か」について、オリジナルの資料やパワーポイントを用い授業を行っている。復習をかねての小テストによる確認、オリジナルの出席カード提出による学生とのコミュニケーションを図り、双方向の授業を行い、授業の充実を図っている。後半は、グループ学習による学生同士の活性化を図っている。

2.作成した教科書、教材、参考書		
教科書 (1)健康科学と運動実践 学術図書出版社(共著・監修)	2005年4月～	実技と理論の両方の授業で使用できるよう工夫した教科書で、健康と運動に関する新しい知見を取り入れている。
(2)健康科学 (改訂版) 道和本院(共著・監修)	2005年4月～	「健康とは何か」について、多角的に考察を行っている教科書である。主な項目は、生命と健康・健康生活の実践・健康指標と生活習慣病の予防・現代生活とメンタルヘルス・人体の構造と機能・トレーニング処方・環境への適応・運動スポーツへの心理的適応・検査値の読み方・性の科学・健康と寿命で健康についてトータル的にとらえた新しい教科書となっている。
(3)生理学 化学同人(共著)	2016年4月～	「生理学とは何か」について、健康スポーツ関係を初めて学ぶ人のための教科書である。主な項目は、細胞、神経系、筋、骨格、心臓、血管系、呼吸器系、腎臓、消化と吸収、自律神経系、脳、内分泌系、代謝生理、血液及び生体防御、性・生殖で生理学についてトータル的にとらえた新しい教科書となっている。
教材 (4)プロジェクト・ノート(ゼミ用) (単著)学内印刷による非売品	2005年4月～	学生生活を充実させるためのゼミノートで、自発的实践をサポートするための資料やマニュアルが中心。具体的な事例が多く記載されていて、主な内容は生活表の記入・自己分析・ストレス対処法・行動療法(学習・生活習慣など)等である。尚、毎年改訂し、工夫している。
(4)その他、作成した教材は多数		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1)内部疾患と処方(免疫を中心として)	2005年4月～(毎年1回)	国立身体障害者リハビリテーションセンター

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略			
<ul style="list-style-type: none"> 健康・生活に関する調査研究(肥満・ダイエット・メタボリックシンドローム) 体温調節に関する研究(特に発育発達・老化に伴う抹消部体温調節反応の変化) 青年期(大学生)における運動と行動変容に関する研究 離島などにおける健康活動等に関する研究 気功などの呼吸法に関する生理学的研究 			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
正課体育の授業における気功呼吸法の授業効果	2017年9月17日	日本体力医学会第72回大会、 松山大学	村上秀明、田中幸夫、石濱慎司

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「内部疾患の運動処方(アレルギーを中心に)」	2018年2月27日	国立障害者リハビリテーションセンター学院研修会	国立障害者リハビリテーションセンター

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本発育発達学会、日本運動生理学会、日本体育学会、日本疲労学会、日本ウェルネス学会

医用工学部 (Faculty of Biomedical Engineering)

生命医工学科 (Department of Medical Technology)

小寺 洋 (こでら よう) 教授



出生年 : 1962(昭和37)年
在籍 : 1988(昭和63)年4月～
最終学歴 : 東京工業大学理学部
学位 : 理学博士
学位論文 : Chemical modification of proteins and biological substances with polyethylene glycols.
専門分野 : 生物化学、タンパク質工学
前職 :
学内役職等 : 研究推進部部長(2014～)
研究推進部副部長(～2011)
留学 :
資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学生の授業外による学習促進のための取組	2005年～現在	・毎回授業の最初15分程度を割り、前回の講義内容を中心に小テストを課している。・基礎学力が不十分な学生に関してはIndecafeへ誘導して個別指導を行わせている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)市販教科書からの引用により作成したプリント	2005年～現在	参考のため配布している。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Aberrant Light-Induced Depression Is Associated with Impaired Sensorimotor Gating in Mice”	共著	2017年12月15日	World Journal of Neuroscience Vol.8 1-9, 2018, DOI: 10.4236/wjns.2018.81001	Toshiaki Haga, Kenichi Mitsui, Junichi Toei, Mareki Ohtsuji, Yo Kodera , Kenichi Osada, Hiroyuki Nishimura	
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Epistatic interaction between fcgr2b and Slam family genes in susceptibility to defective foreign protein-induced”	2017年12月12日～14日	The 46th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology Sendai International Center	Hiroyuki Nishimura, Masaomi Obata, Mareki Ohtsuji, Yo Kodera , Toshiyuki Takai, Katsuko Sudo, Sachiko Hirose		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本生化学会、日本免疫学会

齋藤 潔 (さいとう きよし) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1990(平成2)年3月～
 最終学歴：筑波大学大学院博士課程
 学位：理学博士、学術修士(環境)
 学位論文：Synthesis and Applications of Hemin Copolymer as Polymer Reagents
 専門分野：有機化学、高分子化学、機能性高分子化学、環境科学
 前職：通産省工業技術院製品科学研究所博士研究員(非常勤)
 学内役職等：学生部長(2010～2013)
 留学：
 資格：(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員
 非常勤講師：
 受賞・表彰：松籟科学技術振興財団研究助成(1996)、日本環境教育学会浦野環境教育奨励金(2000)、第9回コカ・コーラ環境教育賞奨励賞(2002)、(公益社団法人)日本化学会 化学教育賞(2015)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
I.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
学生実験、講義、演習の内容の関連付け、講義内への演示・参加型実験プログラムの組み込みの実施と改善	1993年度～現在	同一学期に開講される学生実験、講義、演習で担当科目を完全に内容を一致させるようにし、重要な概念が繰り返し学生に伝わるよう配慮した。レポート作製についても、実験時間や演習で、個別に指導するようにした。生命環境システム工学科の2年次の有機化学I,II,および、今年度生命医工、電子情報工学科2年次の有機化学I,II,において、学生の状況に合わせた実験プログラムを立ち上げ、講義時間に組み込んだ。
なんでも相談室、インディーカフェ 企画	1999年度～現在	オフィスパワーを学生に公開し、講義の補講、実験レポートの作成に関する個人相談を受け付けている。
高校生に対する課題研究指導	1996年度～現在	桐蔭高校、県内工業高校の生徒に対する課題研究の指導を行っているテーマは地球環境、導電性ポリマーなどである。
ブレインストーミングによる討論や、演習、発表などを講義の中で実施	2005年～現在	環境調和化学において国際的な環境問題を取り上げ、さらに、キャリア研究ではかだいについての小論文をまとめるための演習としてブレインストーミングを実施した 地域の小学生に対する、環境教育プログラムの開発と継続的な実践を行っている。
課外学習としてプロジェクト研究の単位化とその指導	2002年～現在	各研究室でのテーマの認定と、日本化学会普及交流委員会の化学普及活動と連携して出前実験教室を実施し、現在までに学会より250枚の感謝状が学生に「授与された。
文部省サイエンス・ボランティア(現文部科学省)、(社)日本ネイチャーゲーム協会初級指導員、環境庁こどもエコクラブ(現環境省)の環境教育活動	1995年度～現在	日本化学会の化学普及行事の企画、実施を委員として行っている。
(8) 公益社団法人 日本化学会 教育・普及部門 普及交流委員会委員、及び実験体験小委員会委員長	2012年～現在	(7)の活動を継続している。また、東日本大震災の被災地からの依頼で気仙沼、石巻、南相馬の仮設や小学校、幼稚園、図書館で実験教室を行った。

2.作成した教科書、教材、参考書		
(学内版教科書) 応用化学実験、機能化学工学実験、生命・環境システム実験テキスト電子情報工学科1,2年実験テキスト	1992年度～現在	2年次、3年次の有機化学系学生実験のテキストを作成し、配布している。
有機化学、反応有機化学、有機合成化学、理論有機化学問題集、有機化学I,II、生命医工学科有機化学I,II、高分子化学	1993年度～現在	2年次、3年次の有機化学系講義の副読本(問題集)を作成し、配布している。
生物有機化学、環境科学資料、環境調和化学、生物無機化学、大学院環境調和学特論	1993年～現在	講義資料を編集してテキストとして配布している。
課題研究及び化学普及活動用テキスト、資料	1995年度～現在	「化学は地球を救う」、「導電性ポリマーをつくってみよう」、「あやしい化学実験ノート」、「おもしろ理科教室テキスト」、「ミニ地球をつくらう」などの資料を作成し、配布した。
生命医工学科用の有機化学基礎、有機化学I, II, 高分子化学(生体高分子)	2010年～現在	臨床検査技師を目指す学生や生命科学志向の学生向けの内容に全面改定した教科書を作成して配布している。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
自己点検評価	1994年度～現在	年2回学生に対する担当講義のアンケートに基づき大学自己点検評価委員会に報告している。アンケートの結果について積極的に次年度の授業改善のために利用している。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
公益社団法人 日本化学会 教育・普及部門普及交流委員会委員、及び実験体験小委員会委員長	2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018年	本学の学生を出前実験教室のTAとしての活動に参加させて、その活動に対する日本化学会会長からの感謝状の授与が継続している。また、東日本大震災の被災地からの依頼で気仙沼、石巻、南相馬の仮設や小学校、幼稚園、図書館で実験教室を行った。

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
黄色ブドウ球菌の産生する色素の単離とその機能、および光反応特性 ポリアニリンを用いる活性酸素の発生とその応用 新規ポリアニリン電極の作製に関する研究 活性酸素発生装置を用いる生体内での反応のモデル反応系の構築 植物由来生理活性物質の活性酸素との反応挙動					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「高分子との出会い」のための実験体験	単著	2018年1月	高分子学会「高分子」	齋藤 潔	19-20頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(国内学会発表)					
「白色LEDによる <i>Staphylococcus aureus</i> の発育抑制効果機序」	2017年7月14日	第27回日本光線力学学会学術集会 京都大学医学部芝蘭会館	金沢浩平, 蓮沼裕也, 大城真奈, 高橋篤史, 齋藤潔, 池上和志, 徳岡由一		
<i>Staphylococcus aureus</i> が産生するカロテノイド色素と光細菌殺細胞現象との関係	2017年10月17日	日本化学会第7回CSJ化学フェスタ、東京	大城真奈・西村知泰・荻 春風・齋藤 潔・蓮沼裕也。		

「白色LED光照射による <i>Staphylococcus aureus</i> の発育抑制に対するカロテノイド系化合物の影響」	2018年2月11日	第29回日本臨床微生物学会 総会 岐阜国際会議場	金沢浩平, 蓮沼裕也, 高橋篤史, 大城真奈, 齋藤潔, 角田拓也, 池 上和志, 徳岡由一
「 <i>Staphylococcus aureus</i> に対する白色LED光照射による発育抑制が分裂時間に与える影響」	2018年2月11日	第29回日本臨床微生物学会 総会 岐阜国際会議場	高橋篤史, 蓮沼裕也, 金沢浩平, 大城真奈, 齋藤潔, 池上和志, 徳 岡由一
Bacterial photo-inactivation phenomenon of <i>Staphylococcus</i> .	2018年3月21日	日本化学会第 98 春季年会、 千葉	Haruka Ogi, Yuya Hasunuma, Kiyoshi Saito
Research on correlation between the carotenoid pigments produced by <i>Staphylococcus aureus</i> and the bacterial photo-inactivation phenomenon (II)	2018年3月21日	日本化学会第 98 春季年会、 千葉	Tomoya Nishimura, Kiyoshi Saito , Yuya Hasunuma
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
わくわく実験教室	2011年、2012年、2013年、 2014年、2015年、2016年、 2017年	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社 団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協 会、一般社団法人日本化学工業協会の4団体で構成)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本化学会、日本化学会生体機能関連化学部会、有機合成化学協会、高分子学会、民族自然史研究会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本環境教育学会、植物化学調節学会、子ども環境学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
1995年～現在	文部科学省専門教育課サイエンス・ボランティア登録	
1996年～現在	(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員	
2011年4月～現在	公益社団法人日本化学会教育・普及部門普及交流委員会 実験体験小委員会委員長	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
科学技術館 夏休み子ども化学実験ショー、 わくわく実験教室! やってみよう不思議な化学 実験PART II! デンプンのりで手品!?	2017年8月5日、6日	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社 団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協 会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
南相馬市立中央図書館 南相馬市教育委員 会共催 わくわく実験教室やってみよう不思議な化学 実験! 砂糖水で手品!?	2017年8月8日、9日	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社 団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協 会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
桐蔭横浜大学おもしろ理科教室 わくわく実験教室! やってみよう不思議な化学 実験PART II! デンプンのりで手品!?	2017年8月	桐蔭横浜大学 夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社 団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協 会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
荒川区東日暮里ふれあい館、荒川区西日暮 里ふれあい館 わくわく実験教室! やってみよう不思議な化学 実験PART II! デンプンのりで手品!?	2017年8月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社 団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協 会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
江戸川区立小松川小学校 わくわく実験教室! やってみよう不思議な化学 実験PART II! デンプンのりで手品!?	2017年8月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社 団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協 会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)

町田市立南成瀬小学校 わくわく実験教室! やってみよう不思議な化学 実験PART II! デンプンのりで手品!?	2017年9月	夢! 化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社 団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協 会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
化学の日 実験教室イベント はまぎん こども 宇宙科学館 わくわく実験教室! やってみよう不思議な化学 実験PART II! デンプンのりで手品!?	2017年10月29日、11月12 日	夢! 化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社 団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協 会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
道灌山幼稚園、 「水性サインペンのヒミツ?」(遊びも含むクロ マトグラフィーの実験)	2018年1月	夢! 化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社 団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協 会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)

徳岡 由一 (とくおか よしかず) 教授



出生年：1965(昭和40)年
 在籍：2001(平成13)年4月～
 最終学歴：東京理科大学大学院理工学研究科工業化学専攻修士課程
 学位：博士(工学)
 学位論文：界面活性剤水溶液による香料の可溶化
 専門分野：生体材料工学、光治療工学、薬物送達学
 前職：エステー化学株式会社 研究開発部主任研究員
 学内役職等：医用工学部 生命医工学科 学科長
 留資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：平成11年度日本油化学会進歩賞「界面活性剤水溶液による香料の可溶化と揮発制御に関する研究」

2003年度材料技術研究協会技術賞「癌の光線力学的療法用新規メタルハライドランプ」

第11回日本油化学会エディター賞「Oxidation Decomposition of Unsaturated Fatty Acids by Singlet Oxygen in Phospholipid Bilayer Membranes」

2009年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「ラメラ構造を有するメソポーラス・アパタイトの面間隔制御」

SPACC-17 Poster Award, "Synthesis of oxovanadium(IV) complexes from hydroxyazine-type heterocycles and their apoptosis-inducing activity against leukemia cells"

Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010 Presents Poster Session Award, "Effect of 18-crown-6 on protoporphyrin IX accumulation in cultivated cancer cells"

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
(3) バイオマテリアル学(生命医工学科3年)の授業で「血液検査学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2011年～	血液学の基礎および凝固系の説明にりようする。網羅的に記載されており、国家試験のみならず、将来、臨床現場でも十分に利用できる。
(4) 生命医工学セミナーⅡ(生命医工学科3年)の授業で「臨床化学検査学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2011年～	臨床化学に関する測定原理、測定方法等が網羅的に記載されており、国家試験のみならず、将来、臨床現場でも十分に利用できる。
(1) 化学(生命医工学科1年生)の授業で「化学の基礎」(岩波書店)を参考書として使用	2013年～	高校での化学の復習と書あるいは大学での化学の入門書として最適である。
(2) 化学(生命医工学科1年生)の授業で「化学(臨床検査学講座)」(医師役出版)を教科書として使用	2013年～	臨床検査技師養成のための必要最小限の内容が網羅された書籍である。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Chemical properties and protein adsorptions on ozone/UV-treated poly(ethylene terephthalate) film surfaces.	共著	2017	Colloid and Polymer Science, 295 (3)	Yoshihito Sakurai, Norimichi Kawashima, and Yoshikazu Tokuoka	413-420
Accumulation of Porphyrins in Propionibacterium acnes by 5-aminolevulinic acid and its esters.	共著	2017	Photodiagnosis and Photodynamic Therapy, 19	Arisa Ogata, Yuya Hasunuma, Emii Kikuchi, Takuya Ishii, Masahiro Ishizuka, and Yoshikazu Tokuoka	167-169
Generation and Decomposition of Ozone Gas by Ozone and Ozoneless Mercury Bulbs Excited by Microwave.	共著	2017	桐蔭論叢, 36	Kusumoto Naoki, Kiga Nanami, Hiraoka Shigemi, Kawashima Norimichi, and Tokuoka Yoshikazu	187-191
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
横浜市内の複数施設で分離された基質拡張型 βラクタマーゼ産生 Escherichia coli の分子疫学調査	2017年4月	第65回日本化学療法学会学術集会	除村 萌, 蓮沼裕也, 石松 尚, 日吉望美, 徳岡由一		
都市部街路の夏季の暑熱環境と植栽による緩和効果	2017年5月	日本芝草学会2017年度春季大会	松平瑞紀, 徳岡由一, 佐藤忠継, 上野芳裕, 原田周平, 一木誠, 飯島健太郎		
市販食肉由来の第三世代セファロスポリン系薬耐性 Escherichia coli の分子疫学解析	2017年6月	第66回日本医学検査学会	蓮沼裕也, 日吉望美, 田中雅也, 徳岡由一		
健康人、食肉、臨床患者から分離された CPFX 耐性大腸菌のキノロン耐性遺伝子解析	2017年6月	第66回日本医学検査学会	蓮沼裕也, 陳子晴, 檜島莉香, 除村萌, 日吉望美, 石松尚, 角田拓也, 徳岡由一		
「市販食肉由来の第三世代セファロスポリン系薬耐性 Escherichia coli の分子疫学解析」	2017年6月17日	第66回日本医学検査学会幕張メッセ	日吉望美, 蓮沼裕也, 除村萌, 徳岡由一		
「健康人、食肉、臨床患者から分離された CPFX 耐性大腸菌のキノロン耐性遺伝子解析」	2017年6月17日	第66回日本医学検査学会幕張メッセ	陳子晴, 蓮沼裕也, 檜島莉香, 日吉望美, 徳岡由一		
高速液体クロマトグラフィーを用いた β-ラクタマーゼ産生菌の迅速な検出	2017年7月	第29回臨床微生物迅速診断研究会総会	檜島莉香, 蓮沼裕也, 角田拓也, 石松尚, 永田明義, 徳岡由一		

「HPLCを用いた迅速なβラクタマーゼ検出法の検討」	2017年7月1日	第29回臨床微生物迅速診断研究会 コラッセ福島	檜島莉香, 蓮沼裕也, 徳岡由一
「5-アミノレブリン酸によるプロトポルフィリンIXの生成に対する没食子酸エビガロカテキンの添加効果」	2017年7月14日	第27回日本光線力学学会学術集会 京都大学医学部芝蘭会館	石井佳澄, 蓮沼裕也, 徳岡由一
「白色LEDによるStaphylococcus aureusの発育抑制効果機序」	2017年7月14日	第27回日本光線力学学会学術集会 京都大学医学部芝蘭会館	金沢浩平, 蓮沼裕也, 大城真奈, 高橋篤史, 齋藤潔, 池上和志, 徳岡由一
「酸化チタンを塗布したプラスチック表面における抗菌効果」	2017年8月24日	第12回臨床検査学教育学会学術大会 埼玉県立大学	石渡遥, 池上和志, 徳岡由一, 蓮沼裕也
「臨床検査センターおよび市販食肉から分離されたCTX-M-55産生Escherichia coliの次世代シーケンス解析」	2018年2月11日	第29回日本臨床微生物学会総会 岐阜国際会議場	蓮沼裕也, 石松尚, 除村萌, 日吉望美, 角田拓也, 徳岡由一
「国産および外国産市販鶏肉における第三世代セファロスポリン系薬耐性Escherichia coliの薬剤耐性プラスミド遺伝子について」	2018年2月11日	第29回日本臨床微生物学会総会 岐阜国際会議場	日吉望美, 蓮沼裕也, 田中雅也, 徳岡由一
「神奈川県内で臨床分離されたCeftazidime耐性基質拡張型β-ラクタマーゼ産生Escherichia coliの分子疫学調査」	2018年2月11日	第29回日本臨床微生物学会総会 岐阜国際会議場	除村萌, 蓮沼裕也, 石松尚, 角田拓也, 徳岡由一
「白色LED照射によるStaphylococcus aureusの発育抑制に対するカロテノイド系化合物の影響」	2018年2月11日	第29回日本臨床微生物学会総会 岐阜国際会議場	金沢浩平, 蓮沼裕也, 高橋篤史, 大城真奈, 齋藤潔, 角田拓也, 池上和志, 徳岡由一
「Staphylococcus aureusに対する白色LED照射による発育抑制が分裂時間に与える影響」	2018年2月11日	第29回日本臨床微生物学会総会 岐阜国際会議場	高橋篤史, 蓮沼裕也, 金沢浩平, 大城真奈, 齋藤潔, 池上和志, 徳岡由一
「HPLCを用いたβ-ラクタマーゼによるCAZおよびCTX分解能の二葉同時検出の試み」	2018年2月11日	第29回日本臨床微生物学会総会 岐阜国際会議場	檜島莉香, 蓮沼裕也, 佐藤楓, 角田拓也, 石松尚, 徳岡由一
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
可溶化とマイクロエマルジョン	2017年6月	第18回日本油化学会フレッシュマンセミナー(界面科学と界面活性剤)	東京理科大学森戸記念館(新宿区)
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金(日本学術振興会)	2016年4月1日～2019年3月31日(3年間)	「LED白色光を用いた新規殺菌法の開発」(研究代表)	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
色材サロンの「桐蔭横浜大学 医用工学部 生命医工学科」	2017	色材, 90(5) 191-192	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	日本油化学会、材料技術研究協会、日本光線力学学会、日本光医学・光生物学会、日本バイオマテリアル学会、色材協会、ポルフィリン-ALA学会、日本化学療法学会、日本臨床微生物学会
------------	--

任期、活動期間等	学会等における役職等
2003年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」編集委員会委員
2007年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」副編集委員長
2008年4月～現在に至る	色材協会編集委員会委員(現在に至る)
2008年4月～現在に至る	色材協会関東支部審議委員(現在に至る)

西村 裕之 (にしむら ひろゆき) 教授



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工研究科博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：Chemical Modification of enzymes with polyethylene glycol. A new technique to render exogenous enzymes non-immunoreactive, non-immunogenic and stable in the circulation.
 専門分野：分子生物学、免疫工学
 前職：順天堂大学医学部助教授
 学内役職等：工学研究科長(2014～)
 留学：Hospital for Joint Diseases, Beth Israel Medical Center New York N.Y., USA 研究員
 資格：
 非常勤講師：順天堂大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)英語教材を用いた専門科目教育	2008年4月12日～	学部担当科目、「臨床免疫学」および「分子生物学I」および「分子生物学II」の講義において、英語教材を取り入れる。毎回の授業内容を要約する英文(A4版1枚相当)を、授業の終わりに課題として、学生に与える。学生には、内容を平易な日本語で記述することが科せられる。およそ12回の講義を通じて、学生は専門科目の内容を学ぶと同時に、英文の読解能力を培うことができる。学生はよく努力してよい成果をあげている。
(2)演習を中心とする大学院専門科目教育	2008年4月12日～	大学院の専門科目「バイオインフォマティクス」では、遺伝統計学の基礎と、ゲノム情報処理の初歩を実習を通じて学ばせる。遺伝統計学では、遺伝連鎖解析の方法の基礎を扱った上で、LINKAGE Softwareを用いた疾患家系を対象とする遺伝連鎖解析の実習を行う。ゲノム情報処理の基礎では、Perlを用いた文字列情報の処理について、演習する。理論的観点よりも、実際にDNAを扱ういわゆるwet領域の研究者の立場から、実地で役に立つバイオインフォマティクスを教えるプログラムを構築しているところに特徴がある。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	编者・共著者名	該当頁
「膵臓癌細胞のアポトーシス誘導に関する基礎研究」	共著	2017年8月1日	超音波29巻4号	佐藤 貴亮, 西村 裕之, 萩原 啓実, 吉田 薫, 竹内 真一	16～19頁

(学術論文)					
“Aberrant Light-Induced Depression Is Associated with Impaired Sensorimotor Gating in Mice”	共著	2017年12月15日	World Journal of Neuroscience Vol.8 1-9, 2018, DOI: 10.4236/wjns.2018.81001	Toshiaki Haga , Kenichi Mitsui, Junichi Toei, Mareki Ohtsuji , Yo Kodera, Kenichi Osada, Hiroyuki Nishimura	
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名	
「ループス腎炎の発症におけるIgG Fc receptor II B欠損の役割に関する細胞レベルでの解析」		2017年4月22日	第61回 日本リウマチ学会総会・学術集会 福岡国際会議場	広瀬 幸子, 林 青順, 大辻 希樹, 天野 浩文, 西村 裕之	
「抗CD11b投与によるFcγR II B欠損マウスに自然発症する関節炎の抑制効果」		2017年4月22日	第61回 日本リウマチ学会総会・学術集会 福岡国際会議場	大辻 希樹, 林 青順, 天野 浩文, 岡崎 英規, 西村 裕之 , 広瀬 幸子	
“ROLE OF INHIBITORY IGG FC RECEPTOR IIB ON B CELLS AND MONOCYTES IN YAA-RELATED MURINE”		2017年6月14日～17日	EULAR 2017(欧州リウマチ学会議) Madrid(Reino de España)	S. Hirose, L. Qingshun, M. Ohtsuji, H. Nishimura , H. Amano, S. J. Verbeek	
“Independent effect of inhibitory IgG Fc receptor IIB on B cells and monocytes on Yaa-induced murine”		2017年12月12日～14日	The 46th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology Sendai International Center	Sachiko Hirose, Qingshun Lin, Mareki Ohtsuji, Hirofumi Amano, Hidehiro Fukuyama, Hiroyuki Nishimura , Sjeef Verbeek	
“Epistatic interaction between fcgr2b and Slam family genes in susceptibility to defective foreign protein-induced”		2017年12月12日～14日	The 46th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology Sendai International Center	Hiroyuki Nishimura , Masaomi Obata, Mareki Ohtsuji , Yo Kodera , Toshiyuki Takai, Katsuko Sudo, Sachiko Hirose	
“Inhibitory effect of the blocking of monocyte recruitment from the blood on spontaneously occurring”		2017年12月12日～14日	The 46th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology Sendai International Center	Mareki Ohtsuji, Qingshun Lin, Hirofumi Amano , Hideo Yagita , Kazuko Takahashi , Hideki Okazaki , Hiroyuki Nishimura , Hirose Sachiko	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本免疫学会、日本分子生物学会、日本癌学会、日本生化学会、日本臨床免疫学会、日本リウマチ学会

萩原 啓実 (はぎわら ひろみ) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：Studies on Endothelial Cells(東京工業大学1984)
 専門分野：生物化学、分子生物学、細胞生理学、骨代謝学
 前職：東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター助教授
 学内役職等：工学研究科長, 先端医用工学センター長(2018～)
 医用工学部長, 工学研究科長, 医用工学部生命・環境システム工学科長, 医用工学部生命医工学科長、先端医用工学センター長(～2017)
 留学：米国バンダービルト大学医学部(1987年4月～1988年6月)
 資格：高等学校教諭二級普通免許状(教科名生物)
 非常勤講師：筑波大学
 受賞・表彰：手島科学奨励賞(1984年)、三越医学賞(1990年)、東京高血圧研究会奨励賞(1991年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)対話型授業の実施	2005年4月～	教員が一方向的に話をする授業ではなく、学生に手と頭を使わせる対話型の授業を試みている。
(2)ビジュアルな教育	2005年4月～	授業の関連事項をまとめ、プロジェクターなどの機器を利用して解説する。さらに、関連するビデオ教材を用いてビジュアルに教育を行う。 毎年学生からの授業評価は高評価を受けている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)手製の教材の利用	2005年4月～	現在までに担当している講義はほとんど全てを市販の教科書を使用せずに実施してきた。このため教材は手製のプリントをほぼ毎回配布している。

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
ポリフェノールによるヒトがん細胞の増殖制御, 骨形成を制御する因子の探索, 遺伝子KOマウスの表現型の解析					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「膵臓癌細胞のアポトーシス誘導に関する基礎研究」	共著	2017年8月1日	超音波29巻4号	佐藤 貴亮, 西村 裕之, 萩原 啓実, 吉田 薫, 竹内 真一	16～19頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“4-Hydroxyderricin Inhibits Osteoclast Formation with Attenuation of Expression of RANKL mRNA”	2017年5月14日	ECTS 2017 44th European Calcified Tissue Society Congress Salzburg, Austria	Hiromi HAGIWARA , Kyoko NAKATA, Reiko AIDA, Kaoru YOSHIDA, Hitoshi MIYAZAKI
“Apigenin-mediated Up-regulation of miR-34a-5p May Contribute to the Anti-cancer Effects of Apigenin”	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Yokohama, Japan	Rieko AIDA, Yupho OBATA, Keitaro HAGIWARA, Kyoko NAKATA, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
“Environmental Effect on Culture Cells”	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Yokohama, Japan	Koki ABE, Takashi KAMIMOTO, Satoru SUZUKI, Tomoharu FUJITA, Isao TANAKA, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「平成29年度海外発表促進助成」	2017年6月5日	公益財団法人 日本科学協会 ザルツブルグ・オーストリア	萩原啓実
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
トリクロロエチレン代謝産物の骨関連細胞に与える影響に関する研究	2016年5月～2017年4月	株式会社ネモト・サイエンス	
細胞増殖の最適環境に関する研究	2017年4月～2018年3月	清水建設株式会社	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
ECTS 2017 44th European Calcified Tissue Society Congress	2017年5月13日～5月16日	Salzburg, Austria	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本生化学会, 日本分子生物学会, 日本骨代謝学会, 米国骨代謝学会, 日本心血管内分泌代謝学会, 日本血管生物医学会, 日本動物細胞工学会, 日本抗加齢医学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1994年～現在	日本血管生物医学会評議員
1999年～現在	日本心血管内分泌代謝学会評議員
2004年～現在	老人病研究所客員研究員
2005年～現在	筑波大学北アフリカ研究センター客員共同研究員
2006年～現在	桐蔭学園理事, 評議員
2011年7月～現在	日本臨床検査学教育協議会評議員

森 永 茂 生 (もりなが しげお) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1989(平成元)年4月～
 最終学歴：東京都立大学大学院博士課程
 学位：理学博士
 学位論文：A Study of Insoluble Organic Matter (Kerogen) in Recent Sediments by Chemical Degradation-Gas Chromatography/Mass Spectrometry
 専門分野：環境化学、分析化学、有機地球化学
 前職：桐蔭学園工業高等専門学校講師
 学内役職等：学務部副部長(2014～)
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：とうきゅう環境浄化財団研究助成A類N0.177(1994-1996)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
工学ワークショップ I テキスト(前期)	2010年～2018年	生命医工学科の工学ワークショップ I 担当のテーマに関するテキストを作成した。
工学ワークショップ II テキスト(後期)	2010年～2018年	生命医工学科および臨床工学科の工学ワークショップ II 担当のテーマに関するテキストを作成した。
生命医工学実験 I (前期)	2010年～2018年	生命医工学科コースの学生に対する、生命医工学実験 I 担当のテーマに関するテキストを作成した。
生命医工学実験 III (前期)	2010年～2018年	生命医工学科コースの学生に対する、生命医工学実験 III 担当のテーマに関するテキストを作成した。

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略
<p>トランス脂肪酸の過剰摂取が、心臓疾患に繋がることから、世界的にも懸念されている中、どのようにしてそれらを分離するか等の検討がなされている。包接化合物の一つである、シクロデキストリン(CD)は、α-CD、β-CDおよびγ-CDが知られており、それらによる飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸およびトランス脂肪酸の包接化合物は、白色沈殿を生じることで、その組合せや濃度などの条件の違いにより、分離することが可能であるかどうかの検討をしている。さらに、日本人の脂肪酸摂取量が、食の欧米化により、やや多くなっていることがわかっているが、シクロデキストリンによる脂肪酸の摂取制御を目的に、人工腸液をもとに脂肪酸等の摂取制御を検討している。また、近年、医療現場において、本来身体が持つべき免疫機能が発揮できない易感染宿主が増え、通常病原性を示さない弱毒菌でも感染症を患うケースが増えている。よって、MRSAやVRE感染症を未然に防ぐための院内感染対策が各医療機関で義務づけられている。そのような中、酸化チタン光触媒を用いた、滅菌や殺菌に関する試みがされている。そこで、酸化チタン光触媒を用いたその詳細を検討している。</p>

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、日本地球化学会、日本有機地球化学会、日本腐植物質学会、日本環境化学会、日本水環境学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年4月～	日本芝草学会24年度査読委員

米坂知昭 (よねさか ともあき) 教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：2009(平成21)年1月～
最終学歴：桐蔭横浜大学大学院 工学研究科 医用工学専攻
学位：博士(工学)
学位論文：フィセチンの脂質代謝と糖代謝に及ぼす効果に関する研究
専門分野：臨床検査学、病院経営特論
前職：済生会横浜市東部病院
学内役職等：医用工学部学部長(2018～)
留学：
資格：臨床検査技師
非常勤講師：
受賞・表彰：神奈川県公衆衛生表彰、厚生労働大臣表彰、日韓交流功

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略

超音波診断装置を用いた頸部における甲状腺及び頸動脈の疫学的解析調査。甲状腺ホルモンの病態生理学的解析における問題点や今後の展望についての研究

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本臨床衛生検査技師会・神奈川県臨床衛生検査技師会・日本薬理学会・分子生物学会・日本医療機器学会

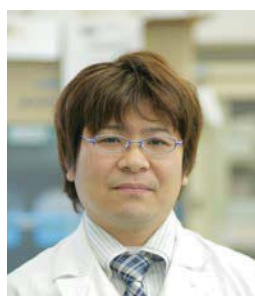
任期、活動期間等

2016年4月～現在

学会等における役職等

日本ワンヘルスサイエンス学会理事

大 辻 希 樹 (おおつじ まれき) 准教授



出 生 年 : 1972(昭和47)年
 在 籍 籍 : 2009(平成21)年4月～
 最 終 学 歴 : 放送大学 教養学部
 学 位 位 : 博士(医学)
 学 位 論 文 : IL-6 signal blockade ameliorates the enhanced
 専 門 分 野 : 病理学、臨床病理学、免疫学、免疫遺伝学
 前 職 職 : 順天堂大学 医学部 病理・腫瘍学講座 助手
 学 内 役 職 等 :
 留 学 学 : 熊本大学 医学部 免疫学講座(国内) 2003.4月-2004.3
 資 格 : 臨床検査技師
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
臨床医学、病理学、免疫学の知識をもとに、病態の発症機序を教授する	2010年より現在	内因、外因、環境要因が炎症(免疫)を惹起したときに、細胞内でおこる変化を病理学の観点から教授し、その結果として病態の進行過程を理解させる。(年次ごとに改定)
2.作成した教科書、教材、参考書		
病理学、臨床病理学、医学総論	2010年より現在	正常と異常の状態を、ミクロ的マクロ的に対比させた。内容に解剖学を含んでいることから、身体の中で起こる事象についても理解することができるように工夫した。(年次ごとに改定)
生命医工学セミナーⅣ(病理学実習)	2011年より現在	組織学、細胞学、病理技術学について、教科書に載っていない内容も加味した。(年次ごとに改定)
国試でしかれるシリーズ(解剖学、組織学、病理学、免疫学、移植免疫学)	2012年より現在	臨床検査技師国家試験対策用資料集 国家試験の頻出範囲に的を絞った参考書。(年次ごとに改定)

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Influence of estrogen on the progression of kidney injury in murine IgA nephropathy”	共著	2017年6月1日	<i>Juntendo medical journal</i> 63(3), 178-185, 2017	ATIKEMU KELIMU, YUSUKE SUZUKI, MAREKI OTSUJI, SATOSHI HORIKOSHI, YASUHIKO TOMINO	
“Role of inhibitory igg fc receptor iib on b cells and monocytes in yaa-related murine lupus”	共著	2017年6月20日	<i>Annals of the Rheumatic Diseases</i> 76	Sachiko Hirose, Lin QINGSHUN, Mareki OHTSUJI, SJ Verbeek	141.2-141

“Aberrant Light-Induced Depression Is Associated with Impaired Sensorimotor Gating in Mice”	共著	2017年12月15日	World Journal of Neuroscience Vol.8 1-9, 2018, DOI: 10.4236/wjns.2018.81001	Toshiaki Haga , Kenichi Mitsui, Junichi Toei, Mareki Ohtsuji , Yo Kodera, Kenichi Osada, Hiroyuki Nishimura	
“Anti-CD11b antibody treatment suppresses the osteoclast generation, inflammatory cell infiltration, and autoantibody production in arthritis-prone Fc γ RIIB-deficient mice”	共著	2018年2月20日	Arthritis Research & Therapy 2018 Feb 8;20(1):25. doi: 10.1186/s13075-018-1523-1.	Mareki Ohtsuji , Qingshun Lin, Hideki Okazaki , Kazuko Takahashi , Hirofumi Amano, Sachiko Hirose	
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「ループス腎炎の発症におけるIgG Fc receptor II B欠損の役割に関する細胞レベルでの解析」	2017年4月22日	第61回 日本リウマチ学会総会・学術集会 福岡国際会議場	広瀬 幸子, 林 青順, 大辻 希樹 , 天野 浩文, 西村 裕之		
「抗CD11b投与によるFc γ R II B欠損マウスに自然発症する関節炎の抑制効果」	2017年4月22日	第61回 日本リウマチ学会総会・学術集会 福岡国際会議場	大辻 希樹 , 林 青順, 天野 浩文, 岡崎 英規, 西村 裕之, 広瀬 幸子		
“ROLE OF INHIBITORY IGG FC RECEPTOR IIB ON B CELLS AND MONOCYTES IN YAA-RELATED MURINE”	2017年6月14日～17日	EULAR 2017(欧州リウマチ学会) Madrid(Reino de España)	S. Hirose, L. Qingshun, M. Ohtsuji , H. Nishimura , H. Amano, S. J. Verbeek		
“Independent effect of inhibitory IgG Fc receptor IIB on B cells and monocytes on Yaa-induced murine”	2017年12月12日～14日	The 46th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology Sendai International Center	Sachiko Hirose, Qingshun Lin, Mareki Ohtsuji , Hirofumi Amano, Hidehiro Fukuyama, Hiroyuki Nishimura, SjeF Verbeek		
“Epistatic interaction between fcgr2b and Slam family genes in susceptibility to defective foreign proteininduced”	2017年12月12日～14日	The 46th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology Sendai International Center	Hiroyuki Nishimura , Masaomi Obata, Mareki Ohtsuji , Yo Kodera , Toshiyuki Takai, Katsuko Sudo, Sachiko Hirose		
“Inhibitory effect of the blocking of monocyte recruitment from the blood on spontaneously occurring”	2017年12月12日～14日	The 46th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology Sendai International Center	Mareki Ohtsuji , Qingshun Lin, Hirofumi Amano , Hideo Yagita , Kazuko Takahashi , Hideki Okazaki , Hiroyuki Nishimura , Hirose Sachiko		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本免疫学会、アメリカ免疫学会、日本病理学会、日本リウマチ学会、日本臨床衛生検査技師会 神奈川県臨床検査技師会、東京都臨床検査技師会

吉田 薫 (よしだ かおる) 准教授



出生年：1970(昭和45)年
 在籍：2004(平成16)年6月～
 最終学歴：東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士課程修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：ニシン精子活性化タンパク質による精子活性化機構の生理生化学的研究
 専門分野：生殖生物学、生化学、細胞生物学
 前職：科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業「内分泌かく乱物質」岩本チーム研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○著書・論文等					
"Knockout of Murine Mamld1 Impairs Testicular Growth and Daily Sperm Production but Permits Normal Postnatal Androgen Production and Fertility"	共著	2017年6月16日	Int. J. Mol. Sci. 18(6)	Mami Miyado, Kaoru Yoshida , Kenji Miyado, Momori Katsumi, Kazuki Saito, Shigeru Nakamura, Tsutomu Ogata, Maki Fukami	1300頁
「膵臓癌細胞のアポトーシス誘導に関する基礎研究」	共著	2017年8月1日	超音波29巻4号	佐藤 貴亮, 西村 裕之, 萩原 啓実, 吉田 薫 , 竹内 真一	16～19頁
"Relationship between Semenogelins bound to human sperm and other semen parameters and pregnancy outcomes"	共著	2017年8月8日	Basic and Clinical Andrology 27(15)	Yamasaki K, Yoshida K , Yoshiike M, Shimada K, Nishiyama H, Takamizawa S, Yanagida K, Iwamoto T	
"Regulatory mechanisms of sperm flagellar motility by metachronal and synchronous sliding of doublet microtubules"	共著	2017年10月4日	Molecular Human Reproduction 23(12)	Gen L Takei, Masakatsu Fujinoki, Kaoru Yoshida , Sumio Ishijima	
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
"Hydrogen molecule treatment has no effect on human sperm DNA fragmentation"	2017年3月30日～4月2日	The 7th Congress of the Asia Pacific Initiative on Reproduction (ASPIRE 2017) Kuala Lumpur Convention Centre, Kuala Lumpur, Malaysia	Nakata, K, Yoshida, K , Yoshida, M, Yamashita, N		
"4-Hydroxyderricin Inhibits Osteoclast Formation with Attenuation of Expression of RANKL mRNA"	2017年5月14日	ECTS 2017 44th European Calcified Tissue Society Congress Salzburg, Austria	Hiromi HAGIWARA, Kyoko NAKATA, Reiko AIDA, Kaoru YOSHIDA , Hitoshi MIYAZAKI		

「精液研究から分かってきた子宮の免疫機構」	2017年6月2日～3日	第58回日本卵子学会学術集会 沖縄コンベンションセンター	河野 菜摘子, 今泉 明音, 吉田 薫, 吉田 学, 齊藤 英和, 宮戸 健二
“Hydrogen treatment is safety for human sperm nuclei”	2017年7月2日～7月5日	The 33rd Annual Meeting of European Society of Human Reproduction and Embryology (ESHRE 2017) Palexpo, Geneva, Switzerland	Nakata, K, Yoshida, K , Yoshida, M, Yamashita, N
“Sperm chemotaxis is regulated by Ca ²⁺ efflux via plasma membrane Ca ²⁺ -ATPase”	2017年7月16日～7月21日	Gordon Research Conference: Fertilization and the Activation of Development Holderness School, Plymouth, NH, USA	Yoshida, K. , Shiba, K., Sakamoto, A., Ikenaga, J, Matsunaga, S, Inaba, K, Yoshida, M.
「受精における精漿の役割」シンポジウム2「基礎と臨床から見た男性不妊治療の展望」招待講演	2017年7月19日～7月21日	第35回日本受精着床学会総会・学術講演会 米子コンベンションセンター BigShip	吉田 薫
“Transmembrane signal transduction underlying herring sperm-activating proteins (HSAPs) dependent activation of herring sperm motility”	2017年9月4日～9月7日	6th International Workshop on the Biology of Fish Gametes Hotel Clarion, České Budějovice, Czech Republic	Yoshida, K. , Yoshida, M.
“Sperm chemotaxis is mediated by calcium efflux via plasma membrane-type calcium pump”	2017年9月4日～9月7日	6th International Workshop on the Biology of Fish Gametes Hotel Clarion, České Budějovice, Czech Republic	Yoshida, K. , Shiba, K., Ikenaga, J., Inaba, K., Yoshida, M.
「精子走化性は細胞膜型カルシウムATPアーゼによるカルシウムイオン排出によって引き起こされる」	2017年9月21日～9月23日	日本動物学会第88回大会 富山県民会館	吉田 薫, 柴小菊, 池永潤平, 吉田 学
“Apigenin-mediated Up-regulation of miR-34a-5p May Contribute to the Anti-cancer Effects of Apigenin”	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Yokohama, Japan	Rieko AIDA, Yupho OBATA, Keitaro HAGIWARA, Kyoko NAKATA, Kaoru YOSHIDA , Hiromi HAGIWARA
“Environmental Effect on Culture Cells”	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Yokohama, Japan	Koki ABE, Takashi KAMIMOTO, Satoru SUZUKI, Tomoharu FUJITA, Isao TANAKA, Kaoru YOSHIDA , Hiromi HAGIWARA
「Mamld1遺伝子欠損は精巣サイズ減少と一日精子産生数減少を招く」	2017年12月6日～12月9日	第40回日本分子生物学会年会、第90回日本生化学会大会合同大会 神戸ポートアイランド	宮戸 真美, 吉田 薫, 宮戸 健二, 勝見 桃理, 齊藤 和毅, 中村 繁, 緒方 勤, 深見 真紀
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金	2015年度～2017年度	基盤研究B、受精における精子機能調節の分子機構の解析15H04398、研究分担者	

AMED	2017年度～2019年度	成育疾患克服等総合研究事業、最適なART選択に寄与する精子の質検査法確立と、精子の質を保全する技術の開発に関する研究JP17gk0110027、研究分担者
------	---------------	---

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本動物学会、日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本生殖医学会、日本アンドロロジー学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年10月～現在	日本動物学会男女共同参画委員
2016年10月～2018年9月	日本動物学会関東支部委員

大 沼 健 太 郎(おおぬま けんたろう) 専任講師



出 生 年 : 1974(昭和49)年
 在 籍 : 2016(平成28)年2月～
 最 終 学 歴 : 東京電機大学大学院先端科学技術研究科先端技術創生
 専攻
 学 位 : 博士(工学)
 学 位 論 文 : Extended-Timed-Automata外科手術モデルの構築とScrub
 Nurse Robot用リアルタイム視覚認識システムの開発に関する研究
 専 門 分 野 : 医用電子工学、医用システム、人工臓器
 前 職 : 国立循環器病研究センター研究所人工臓器部 特任研究
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 東京電機大学ME会奨励賞(2016年3月)
 第36回人工心臓と補助循環懇話会 若手賞(2008年3月)
 丹羽保次郎賞(2008年3月)
 SICE SI2005ベストセッション賞(連名)(2005年12月)
 バリアフリーシステム開発財団奨励賞(2003年5月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
履修者の理解度に応じた追加資料の配布	2016年4月～	必要に応じて前回講義時の質問事項、演習の出来を反映した追加資料の作成・配布
物理系科目の演示	2016年4月～	以前より行われてきた演示実験を引き継いで実施、ほかに身の回りの物品等による簡易な演示で随時視覚的に板書を補足
パワーポイント、動画の併用	2017年4月～	一部の講義において、おもに視覚的理解を補足するためPCプレゼンテーションにおいて動画、アニメーションを活用
2.作成した教科書、教材、参考書		
プリントの作成	2016年4月～	担当講義では演習、小テスト、補足資料等のプリントを適宜作成、配布
パワーポイント資料の作成	2017年4月～	講義内容の理解をを助けるため、アニメーションや動画を用いたスライドを作成

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略
<ul style="list-style-type: none"> ・自律的人工心臓制御に関する研究 生物の適応性・恒常性を表す数理モデルを応用した血液ポンプ流量制御において、デバイス側の指標(モータ駆動電流)のみを用いて脱血時の吸い付きを自己調節的に解除する制御法を提案し、基礎検証を行った。さらなる挙動の検証に向けて模擬循環装置構成の改良予定である。 ・循環器系シミュレータの開発 人工心臓制御への応用をめざした電気等価回路による血行動態のPCシミュレータを構築した。現在まで簡易なモデルながら、動物実験における補助人工心臓制御の報告と類似した血行動態の変化を再現可能であった。今後、生体に見られる挙動と比較しモデル拡張を検討する。 ・その他 模擬循環装置に関する研究開発において人工弁形状に関する検討を開始した。また、心拍の引き込み減少に関する解析を開始した。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Novel temporary left ventricular assist system with hydrodynamically levitated bearing pump for bridge to decision: initial preclinical assessment in a goat model.	共著	2017年9月	J Artif Organs	Kishimoto S, Takewa Y, Tsukiya T, Mizuno T, Date K, Sumikura H, Fujii Y, Ohnuma K , Togo K, Katagiri N, Naito N, Kishimoto Y, Nakamura Y, Nishimura M, Tatsumi E.	online first
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
空気圧駆動型補助人工心臓用ポータブル駆動装置の開発	2017年9月	日本人工臓器学会大会(55), (東京都)	築谷朋典、住倉博仁、 大沼健太郎 、本間章彦、小嶋孝一、巽英介		
補助人工心臓用性能評価試験装置の開発	2017年9月	LIFE2017(ライフサポート学会大会(33)), (東京都)	関拓哉、住倉博仁、 大沼健太郎 、築谷朋典、巽英介、片野一夫、小嶋孝一、向林宏、本間章彦		
探索手法を用いた自律的な補助人工心臓制御— 駆動電流を入力指標としたアルゴリズムの検討 —	2017年9月	LIFE2017(ライフサポート学会大会(33)), (東京都)	大沼健太郎 、住倉博仁、本間章彦、築谷朋典、巽英介		
体外設置型補助人工心臓用小型空気圧駆動装置の開発	2017年10月	日本機械学会・バイオフィロニア講演会(28), (徳島市)	築谷朋典、住倉博仁、本間章彦、 大沼健太郎 、巽英介		
周期性音刺激に対する自己心拍引き込み現象に関する探索的検討	2018年3月	ライフサポート学会フロンティア講演会(27), (東京都)	田中雪里、 大沼健太郎		
補助人工心臓評価用模擬循環装置のための人工弁の試作	2018年3月	ライフサポート学会フロンティア講演会(27), (東京都)	亀井汐音、 大沼健太郎 、住倉博仁、築谷朋典、巽英介、加藤仁美、片野一夫、小嶋孝一、向林宏、本間章彦		
○その他					
(特許申請等)					
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)		
灌流ポンプ	2017年2月16日	特開2017-35323	株式会社イワキ他(住倉博仁、 大沼健太郎 、巽英介、妙中義之、小嶋孝一、向林宏、浜田 茂、本間章彦)		
(産学協同研究)					
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称			
補助人工心臓用耐久試験装置の開発	2010年4月～現在	株式会社イワキ			
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
生物的適応アルゴリズムによる自律的人工心臓制御の開発と臨床的課題への応用	2017年4月～2020年3月(予定)	科学研究費補助金・基盤研究(C), (代表)			
急性心腎症候群の早期腎不全治療を目的としたカテーテル式補助循環装置の実用化研究	2016年4月～2020年3月(予定)	科学研究費補助金・基盤研究(B), (分担)			

(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
補助人工心臓の安全性を向上 循環器病研究センターなど	2012年2月1日～現在	日経新聞Web刊, URL: http://www.nikkei.com/article/DGXNASGG0600S_Z10C12A2TJM000/?at=ALL
補助人工心臓用耐久試験装置誕生秘話(前編)	2014年10月～現在	株式会社イワキHP, URL: http://www.iwakupumps.jp/interview_laboheart_1
補助人工心臓用耐久試験装置誕生秘話(後編)	2014年10月～現在	株式会社イワキHP, URL: http://www.iwakupumps.jp/interview_laboheart_2

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本人工臓器学会、ライフサポート学会、IEEE (EMBS)、日本生体医工学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2017年5月～現在	ライフサポート学会評議員

澤 口 能 一 (さわぐち よしかず) 専任講師(2018年度 新任教員)



出生年：1983(昭和58)年
 在籍：2018(平成30)年4月～
 最終学歴：帝京大学大学院 薬学研究科 博士課程修了

学位：博士(薬学)
 学位論文：新生血管を標的とした免疫療法の開発
 ～抗関節リウマチおよび抗肥満効果～

専門分野：薬剤学、免疫学、医用工学
 前職：日本薬科大学 臨床薬剤学分野 助教
 学内役職等：講師

留学：
 資格：薬剤師

非常勤講師：
 受賞・表彰：第49回日本薬学会関東支部会 優秀研究発表賞(2005年)

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
脳梗塞などの血管閉塞性疾患に対する新規予防法開発の一環として、超音波によるヒト血漿血栓の形成阻害効果を検証した。また、得られた研究成果を学会等で発表し、学術雑誌への投稿した。 日本脳神経超音波学会の学会雑誌『Neurosonology』へ投稿した論文が最優秀論文賞を受賞した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
超音波およびマイクロバブル併用のin vitroにおける血栓溶解増強効果の定量的評価。	共著	2017年	日本工業出版社 超音波TECHNO	王 作軍, 横山昌幸, 中田典生, 澤口能一	72-77
(学術論文)					
Identification of protease specificity using biotin-labeled substrates.	共著	2017年	Open Biochem	Hiroyuki Yamamoto, Syota Saito, Yoshikazu Sawaguchi , Michio Kimura.	27-35
An In Vitro Assay for Sonothrombolysis Based on The Spectrophotometric Measurement of Clot Thickness.	共著	2017年	J. Ultrasound Med.	Zuojun Wang, Yoshikazu Sawaguchi , Hideo Hirose, Kazumasa Ohara, Shinichiro Sakamoto, Hidetaka Mitsumura, Takeki Ogawa, Yasuyuki Iguchi, Masayuki Yokoyama	681-698
Ultrasound acceleration of rt-PA thrombolysis depends on acoustic intensity.	共著	2017年	Biol. Pharm. Bull.	Yoshikazu Sawaguchi , Zuojun Wang. Ultrasound acceleration of rt-PA thrombolysis depends on acoustic intensity.	97-103

Basis examination for development of prevention of vascular occlusion by ultrasound.	共著	2017年	Neurosonology	Yoshikazu Sawaguchi, Zuojun Wang, Souma Itou, Ran Kikuchi, Hiroyuki Yamamoto, Ken Tachibana, Takanori Nakajima, Norio Nakata	4-7
--	----	-------	---------------	--	-----

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演

研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
非侵襲的超音波による血栓成長抑制メカニズムの検討	2017年9月30日	日本栓子検出と治療学会(ステーションコンファレンス東京/東京都千代田区)	須田 千佳穂, 山本 博之, 王 作軍, 菊池 蘭, 伊藤 創馬, 立花 研, 中島 孝則, 中田 典生, 澤口 能一

○その他

(表彰・受賞)

賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
最優秀論文賞	2017年6月	第12回日本脳神経超音波学会	澤口能一

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本薬学会、日本脳神経超音波学会、日本栓子検出と治療学会

清水 智美 (しみず ともみ) 専任講師



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2010(平成22)年4月～
 最終学歴：順天堂大学大学院 医学研究科 博士課程修了
 学位：博士(医学)
 学位論文：超長時間持久的負荷(24時間走)における炎症およびストレス反応の推移
 専門分野：臨床生理学、基礎生理学
 前職：大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科
 学内役職等：講師
 留学：
 資格：臨床検査技師、日本体力医学会健康科学アドバイザー
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
毎年医療現場の状況を踏まえ、講義資料を作成している。前週の小試験を行い、重要な部分を復習・解説する。回収チェック後フィードバックを行う。		
2.作成した教科書、教材、参考書		
生命工学実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ実習教材	2010年～	
臨床生理学Ⅱ 教材		

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略			
青年期の性周期における自律神経機能と酸化ストレス・抗酸化力について、大学生の味覚に関する調査(塩味と感覚)、一般市民マラソンランナーの健康チェックや、ランニングによる生体応答について(ボランティア含む)、アルコール体質遺伝子と自覚の関係、体位変換による呼吸機能値の変化、大学生の精神的疲労度について、スポーツ貧血に関する研究等学会や講義中で報告する。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(ポスター)マラソン(50km・20km)による自律神経応答(中高年マラソンランナーの場合)(第三報)	2017年9月17日	第72回日本体力医学会大会	清水 智美、蓮沼 裕也、今西昭雄、鈴木 政登、太田 眞
(ポスター)スポーツ救護現場における酸化ストレス・抗酸化力評価(マラソン時の熱中症脱水症を中心に)	2017年9月17日	第72回日本体力医学会大会	太田 眞、清水 智美、小原 誠、鈴木 政登
(ポスター)ランニング(50km・20km)における自律神経応答(中高年ランナーの場合)	2017年11月18日	第28回日本臨床スポーツ医学会	清水 智美、太田 眞
(ポスター)大規模市民マラソン救護現場における内科的トリアージマーカーの模索(熱中症・脱水における酸化ストレス・抗酸化力)	2017年11月18日	第29回日本臨床スポーツ医学会	太田 眞、清水 智美、小笠原定雅、小原 誠

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
食シグナルの認知科学の新展開と脳を活性化する次世代機能性食品開発へのグランドデザイン	2015年4月～	SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)次世代農林水産業創造技術
(その他特記事項)		
臨床検査技師国家試験問題注解 2018年版(金原出版) 2017年7月31日		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床生理学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本臨床検査医学会、日本臨床スポーツ医学会、日本看護科学会、日本栄養・食糧学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2014年9月～	日本体力医学会評議員	
2015年12月～	NPO法人ふるさと日本元氣塾 副理事長	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
東京都日野市 歳の鬼あしマラソン実行委員	2007年5月～2017年5月(年1回)	歳の鬼あし実行委員会 日野市文化スポーツ課
スポーツ大会、連行体操教室などの企画運営、スポーツに関する医学的な調査研究、地域間交流、青少年健全育成、健康長寿に寄与する。	2016年5月～	NPO法人 ふるさと日本元氣塾 副理事

濤川 唯 (なみかわ ゆい) 助教



出生年：1981(昭和56)年
在籍：2011(平成23)年4月～
最終学歴：獨協大学外国語学部英語学科、大東医学技術専門学校
学位：
学位論文：
専門分野：生理学、臨床生理学、
前職：恩賜財団済生会横浜市東部病院
学内役職等：
留学：米国(4年)
資格：臨床検査技師
非常勤講師：
受賞・表彰：

Ⅱ 研究活動

○2017年度の研究活動概略

2017年度。千葉での日本医学検査学会での国際協力、及び日本臨床検査技師会の行うカンボジア支援事業に携わった。日本での臨床検査技師の地位向上、国際支援において検査技師の技術支援の有用性を訴えた。学生卒業研究では超音波診断装置を使用する胆嚢収縮率調査を継続して行っている。

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本臨床衛生検査技師会、神奈川県臨床検査技師会、超音波検査学会

蓮 沼 裕 也 (はすぬま ゆうや) 助教



出生年：1986(昭和61)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科修了
 学位：健康科学士
 学位論文：
 専門分野：臨床微生物学、感染症学、細菌学、感染制御学
 前職：東海大学医学部付属病院 院内感染対策室 技術員
 学内役職等：
 留資格：
 資格：臨床検査技師、認定臨床微生物検査技師、2級臨床検査士(微生物学)、遺伝子分析科学認定士(初級)
 非常勤講師：茅ヶ崎看護専門学校 非常勤講師(微生物学)
 葵会柏看護専門学校 非常勤講師(微生物学)
 千葉科学大学危機感理学部 非常勤講師(微生物・医動物学実習)
 受賞・表彰：一般社団法人 色材協会 2014 JSCM Most Accessed

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
臨床検査技師国家試験のための補講	2012年9月～2018年2月	臨床検査技師国家資格取得のため、週5～6コマの補講を実施した。内容は各科目ごとの体系的な解説から、横断的な内容まで及んだ。補講内では、効率的かつ印象に残るよう、独自の表やイメージ像を図示するよう努めた。
臨床検査技師国家試験のための学内試験および問題演習にて○×問題の取り入れ	2012年9月～2018年2月	臨床検査技師国家資格取得のための学内試験には、本番での形式である5択以外に、○×問題を取り入れた。5択の場合、正解にたどり着いた時点で正答となるが、1文ずつ詳細な内容を理解しないままのケースがある。○×問題はその問題点を解決するのに有益であった。また受験直前の冬休み課題として、○×問題演習を行ったことで、記憶漏れや記憶ミスを抽出できた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
生命医工学実験Ⅱ 臨床微生物学実習 実習の手引き&レポート	2017年4月	
生命医工学セミナーⅠ 輸血・移植学実習 実習書	2017年6月	

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略
<p>家畜から分離される抗菌薬耐性菌研究の一環として、健康人および食用肉からの耐性菌分離を行った。また臨床検査センターの協力を得て、神奈川県や東京都の病院から分離される耐性菌ESBLの疫学調査を実施した。本研究は基礎研究と臨床現場をつなぐ橋渡しの研究として、今後神奈川県近郊の耐性菌制御の一助となると確信している。これらの成果については論文執筆、投稿した。</p> <p>また耐性菌制御のため、薬剤耐性菌早期検出を目指した高速液体クロマトグラフィによる検査法の確立のための実験を行い、投稿論文が掲載された。抗菌薬を用いない感染症治療法として光線力学的療法PDTおよびPTによる抗菌活性について、標準菌株及び臨床菌株を用いて細菌学的立場から検討した。これらの成果の一部は学会発表、または論文執筆による報告を行った。</p>

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Accumulation of Porphyrins in Propionibacterium acnes by 5-aminolevulinic acid and its esters.	共著	2017年	Photodiagnosis and Photodynamic Therapy	Ogata A・ <u>Hasunuma Y</u> et al.	167-169
高速液体クロマトグラフィーを用いた <i>Klebsiella pneumoniae</i> が産生するβ-ラクタマーゼの検出	共著	2017年	JARMAM, 28(1)	檜島莉香, <u>蓮沼裕也</u> 他	1-8
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)横浜市内の複数施設で分離された基質拡張型β-ラクタマーゼ産生 <i>Escherichia coli</i> の分子疫学調査	2017年4月	第65回日本化学療法学会総会, 京王プラザホテル	除村萌・ <u>蓮沼裕也</u> 他		
(口頭発表)市販食肉由来の第三世代セファロスポリン系薬耐性 <i>Escherichia coli</i> の分子疫学解析	2017年6月17日	第66回日本医学検査学会幕張メッセ	日吉望美, <u>蓮沼裕也</u> , 除村萌, 徳岡由一		
(口頭発表)健常人、食肉、臨床患者から分離された CPFX 耐性大腸菌のキノロン耐性遺伝子解析	2017年6月17日	第66回日本医学検査学会幕張メッセ	陳子晴, <u>蓮沼裕也</u> , 檜島莉香, 日吉望美, 徳岡由一		
(口頭発表)HPLCを用いた迅速なβ-ラクタマーゼ検出法の検討	2017年7月1日	第29回臨床微生物迅速診断研究会 コラッセ福島	檜島莉香, <u>蓮沼裕也</u> , 徳岡由一		
(口頭発表)5-アミノレブリン酸によるプロトポルフィリンIXの生成に対する没食子酸エピガロカテキンの添加効果	2017年7月14日	第27回日本光線力学学会学術集会 京都大学医学部芝蘭会館	石井佳澄, <u>蓮沼裕也</u> , 徳岡由一		
(口頭発表)白色LEDによる <i>Staphylococcus aureus</i> の発育抑制効果機序	2017年7月14日	第27回日本光線力学学会学術集会 京都大学医学部芝蘭会館	金沢浩平, <u>蓮沼裕也</u> , 大城真奈, 高橋篤史, 齋藤潔, 池上和志, 徳岡由一		
(口頭発表)酸化チタンを塗布したプラスチック表面における抗菌効果	2017年8月24日	第12回臨床検査学教育学会学術大会 埼玉県立大学	石渡遥, 池上和志, 徳岡由一, <u>蓮沼裕也</u>		
(ポスター) <i>Staphylococcus aureus</i> が産生するカロテノイド色素と光細菌殺細胞効果現象との関係	2017年10月	第7回CSJ化学フェスタ2017 タワーホール船堀	大城真奈, <u>蓮沼裕也</u> 他		
(ポスター) Sequence data analysis of CTX-M-55 producing <i>Escherichia coli</i> isolates from clinical samples and retail meat using next-generation sequencing	2017年11月	第12回桐蔭医用工学国際シンポジウム, 桐蔭横浜大学	<u>HASUNUMA, Y</u> ・ISHIMATSU, T et al.		
(ポスター) Effect of epigallocatechin gallate on 5-aminolevulinic acid based photodynamic therapy	2017年11月	第12回桐蔭医用工学国際シンポジウム, 桐蔭横浜大学	ISHII, K・ <u>HASUNUMA, Y</u> et al.		
(ポスター) Pulsed light doses for photodynamic inactivation of <i>Staphylococcus aureus</i> using white LED devices	2017年11月	第12回桐蔭医用工学国際シンポジウム, 桐蔭横浜大学	KANAZAWA, K・ <u>HASUNUMA, Y</u> et al.		

(ポスター)Molecular epidemiological survey of extended-spectrum β -lactamase-producing <i>Escherichia coli</i> isolated clinically in Yokohama	2017年11月	第12回桐蔭医用工学国際シンポジウム, 桐蔭横浜大学	YOKEMURA, M・ <u>HASUNUMA, Y</u> et al.
(ポスター)Determination of degradation of cefotaxime by β -lactamase-producing bacteria using high performance liquid chromatography	2017年11月	第12回桐蔭医用工学国際シンポジウム, 桐蔭横浜大学	NARASHIMA, R・ <u>HASUNUMA, Y</u> et al.
(ポスター)Comparison between extended-spectrum cephalosporin resistant <i>Escherichia coli</i> isolated from domestic and imported chicken meat in Japan	2017年11月	第12回桐蔭医用工学国際シンポジウム, 桐蔭横浜大学	HIYOSHI, N・ <u>HASUNUMA, Y</u> et al.
(ポスター)Influence of white LED light irradiation on doubling time of <i>Staphylococcus aureus</i>	2017年11月	第12回桐蔭医用工学国際シンポジウム, 桐蔭横浜大学	ISHII, K・ <u>HASUNUMA, Y</u> et al.
(ポスター)Genetic Analysis of Quinolone Resistance-Determining Regions of Ciprofloxacin Resistant <i>Escherichia coli</i> Isolated from Retail Meats, Healthy Humans, and Clinical Patients	2017年11月	第12回桐蔭医用工学国際シンポジウム, 桐蔭横浜大学	ISHII, K・ <u>HASUNUMA, Y</u> et al.
(口頭発表)臨床検査センターおよび市販食肉から分離されたCTX-M-55産生 <i>Escherichia coli</i> の次世代シーケンス解析	2018年2月11日	第29回日本臨床微生物学会総会 岐阜国際会議場	<u>蓮沼裕也</u> , 石松尚, 除村萌, 日吉望美, 角田拓也, 徳岡由一
(口頭発表)国産および外国産市販鶏肉における第三世代セファロスポリン系薬耐性 <i>Escherichia coli</i> の薬剤耐性プラスミド遺伝子について	2018年2月11日	第29回日本臨床微生物学会総会 岐阜国際会議場	日吉望美, <u>蓮沼裕也</u> , 田中雅也, 徳岡由一
(口頭発表)神奈川県内で臨床分離されたCeftazidime耐性基質拡張型 β -ラクタマーゼ産生 <i>Escherichia coli</i> の分子疫学調査	2018年2月11日	第29回日本臨床微生物学会総会 岐阜国際会議場	除村萌, <u>蓮沼裕也</u> , 石松尚, 角田拓也, 徳岡由一
(口頭発表)白色LED光照射による <i>Staphylococcus aureus</i> の発育抑制に対するカロテノイド系化合物の影響	2018年2月11日	第29回日本臨床微生物学会総会 岐阜国際会議場	金沢浩平, <u>蓮沼裕也</u> , 高橋篤史, 大城真奈, 齋藤潔, 角田拓也, 池上和志, 徳岡由一
(口頭発表) <i>Staphylococcus aureus</i> に対する白色LED光照射による発育抑制が分裂時間に与える影響	2018年2月11日	第29回日本臨床微生物学会総会 岐阜国際会議場	高橋篤史, <u>蓮沼裕也</u> , 金沢浩平, 大城真奈, 齋藤潔, 池上和志, 徳岡由一
(ポスター)HPLCを用いた β -ラクタマーゼによるCAZおよびCTX分解能の二葉同時検出の試み	2018年2月11日	第29回日本臨床微生物学会総会 岐阜国際会議場	檜島莉香, <u>蓮沼裕也</u> , 佐藤楓, 角田拓也, 石松尚, 徳岡由一
(口頭発表)白色LEDによる <i>Staphylococcus aureus</i> の発育誘導期に及ぼす影響	2018年3月	第91回日本細菌学会総会 福岡国際会議場	高橋篤史, <u>蓮沼裕也</u> 他
(口頭発表) <i>Staphylococcus aureus</i> の光による発育抑制現象に関する研究	2018年3月	第91回日本細菌学会総会 福岡国際会議場	大城真奈, <u>蓮沼裕也</u> 他

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
白色LEDを用いた <i>Staphylococcus aureus</i> の新規殺菌法の検討	2016年4月～2019年3月	文部科学省科研費 基盤C 分担
(その他特記事項)		
株式会社 保健科学研究所と共同で、神奈川近郊の病院から検出される耐性菌の疫学調査を実施(2014年12月～現在)		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床微生物学会、日本臨床検査自動化学会、日本細菌学会、日本化学療法学会、日本ワンヘルスサイエンス学会、LAMP法研究会、PCR感染症研究会、臨床微生物迅速診断研究会、動物用抗菌薬研究会

臨床工学科 (Department of Clinical Engineering)

佐藤 敏夫 (さとう としお) 教授



出生年 : 1961(昭和36)年
 在籍 : 1997(平成9)年12月～
 最終学歴 : 慶應義塾大学工学部計測工学科
 桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程制御システム工学専攻
 東京女子医科大学医学部研究生
 学位 : 博士(医学)、博士(工学)
 学位論文 : Evaluation of blood access dysfunction based on a wavelet transform analysis of shunt murmurs(医学博士論文)
 非線形破壊力学に基づいた歯科用低溶陶材の信頼性評価に関する研究(工学博士論文)
 専門分野 : 生体工学、破壊力学、音響工学、臨床工学
 前職 : (株)東京計器 MRDセンター副主事
 学内役職等 : キャリア情報センター副センター長(2013～)
 医用工学部臨床工学科学科長(2018～)
 留学 :
 資格 : 第1種ME技術実力検定試験合格、第2種ME技術実力検定試験合格、臨床工学技士免許
 非常勤講師 : 千葉科学大学危機管理学部医療機器管理学科
 読売医療福祉専門学校臨床工学専攻科
 受賞・表彰 : 科学技術庁から第51回注目発明選定証を受賞(1992)
 2002年度材料技術研究協会討論会 技術賞
 2003年度材料技術研究協会討論会 ゴールドポスター賞
 2008年度材料技術研究協会討論会 ゴールドポスター賞
 2011年度ものづくり技術交流会 ポスター賞
 2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会 コメディカル賞(腎臓)
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会 第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 2016年日本人工臓器学会 第54回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 第32回ライフサポート学会大会、第16回日本生活支援工学会大会、日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016 若手プレゼンテーション賞
 2017年日本人工臓器学会 第55回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション 優秀賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績(2010年度)	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
第2種ME技術実力検定試験合格に向けた学習促進および合格者増加のためのプログラム	2017年4月～	臨床工学技士国家試験および第2種ME技術実力検定試験対策として、主に担当学年(2017年度3年次学生)のモチベーション向上および実力養成を目的としたプログラムを企画・運営している。毎月1回の模擬試験実施に加え、新たに自己分析シートを導入した。そして、学生自身が作成した模擬試験結果に対する自己分析シートに沿って個別相談を実施し、学習項目の抽出や進捗状況などを把握することで各種資格試験対策を充実させている。

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
<p>昨年度に引き続き、体外循環、血液浄化部門において直面する様々な問題の解決を目指した新しいデバイスの開発および理論解析等を実施した。研究成果はこれまでと同様に日本人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本音響学会、日本生体医工学会、桐蔭医工学国際シンポジウム等で報告した。特に、血液透析用留置針の最適形状に関する研究については、昨年度の第54回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスターセッション優秀賞に続き、今年の第55回日本人工臓器学会大会においても萌芽研究ポスターセッション優秀賞を受賞し、この分野において高い評価を受けていることを実感することができた。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
高設定流量でも実流量との乖離がない留置針の実現を目的とした側孔配置の実験的検討	共著	2017年6月15日	人工臓器 46巻 1号 第54回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスター発表優秀賞受賞レポート	田口友樹、山内 忍、本橋由香、 佐藤敏夫 、阿岸鉄三	39頁
(学術論文)					
“A Study of the effects of side holes in indwelling needle for hemodialysis using computational fluid dynamics”	共著	2017年6月15日	桐蔭論叢 第36号	Naoya Shimazaki, Noriaki Nakane, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi	175-180頁
血液透析用留置針の側孔が脱血特性に及ぼす影響に関する数値流体力学に基づく理論検討	共著	2018年3月1日	医工学治療 Vol.30 No.1	島崎直也、中根紀章、山内忍、本橋由香、 佐藤敏夫 、阿岸鉄三	41-52頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
炭酸飲料の温度や炭酸強度が嚥下機能改善に及ぼす効果に関する定量的評価の試み	2017年4月7～9日	日本医工学治療学会第33回学術大会 くにびきメッセ	可児雅弥、古滝莉加、山内 忍、本橋由香、 佐藤敏夫 、阿岸鉄三、高橋常男		
設定流量と実流量間の乖離を低減することを目的とした17G留置針の形状最適化に関するCFD解析	2017年4月7～9日	日本医工学治療学会第33回学術大会 くにびきメッセ	島崎直也、中根紀章、山内 忍、本橋由香、 佐藤敏夫 、阿岸鉄三		
正規化相互相関係数と基準化持続時間によるVA機能モニタリング	2017年6月16～18日	第62回日本透析医学会学術集会・総会 パシフィコ横浜	本橋由香、井上周杜、佐々木一真、望月幹也、山内 忍、 佐藤敏夫 、阿岸鉄三		
粒子画像流速測定法を用いた血液透析用留置針内の流れの可視化	2017年6月16～18日	第62回日本透析医学会学術集会・総会 パシフィコ横浜	山内 忍、荒井大輔、本橋由香、 佐藤敏夫 、阿岸鉄三		
回路内凝固の進展を模擬するための凝固塊発生装置と血流音変化のモニタリング	2017年6月16～18日	第62回日本透析医学会学術集会・総会 パシフィコ横浜	佐藤敏夫 、塩田卓也、山内 忍、本橋由香、阿岸鉄三		
血液透析中の血液色変化の連続モニタリングによる血液凝固検出の試み	2017年6月16～18日	第62回日本透析医学会学術集会・総会 パシフィコ横浜	佐藤敏夫 、太田祥平、山内 忍、本橋由香、阿岸鉄三		

「回路内血液の色調変化の定量評価に基づく回路内血液凝固の非侵襲検出」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	太田祥平, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「血液回路内凝固の早期検出を目的とした回路内血流音変化の定量的モニタリング」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	塩田卓也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「高設定流量を確保できる留置針の最適形状の提案を目的とした数値流体力学解析の試み」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	島崎直也, 中根紀章, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「バスキュラーアクセス音から求められる正規化相互相関係数と基準化持続時間によるVA機能評価」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	井上周杜, 佐々木一真, 望月幹也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「回路内を循環する血液の吸光係数の連続モニタリングによる回路内凝固の非侵襲検出の試み」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	坂元英雄, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「嚙下音の時間-周波数分析に基づく嚙下機能評価に適した加速度センサの選定」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	可児雅弥, 古滝莉加, 望月勇太, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三, 高橋常男
「嚙下音のウェーブレット変換に基づく官能評価の試み」	2017年9月15日～17日	第33回ライフサポート学会大会、第17回日本生活支援工学会大会、日本器械学会福祉工学シンポジウム2017	可児雅弥, 古滝莉加, 望月勇太, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三, 高橋常男
「血液透析患者のシャント音分析によるバスキュラーアクセス機能評価の試み」	2017年9月25日～27日	日本音響学会 2017年秋季研究発表会 愛媛大学 城北キャンパス	佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「側副血行路を模擬した分岐型擬似血管狭窄モデルを用いたバスキュラーアクセス機能評価方法の検討」	2017年10月22日	第2回神奈川県臨床工学会 かながわ労働プラザ(神奈川県横浜市)	井上周杜, 佐々木一真, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
「維持透析患者の誤嚥性肺炎の予防を目的とした新しい嚙下機能評価方法の検討」	2017年10月22日	第2回神奈川県臨床工学会 かながわ労働プラザ(神奈川県横浜市)	古滝莉加, 可児雅弥, 望月勇太, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三, 高橋常男
Theoretical examinations using computational fluid dynamics to investigate blood removal characteristics of indwelling needles for hemodialysis with consideration of the effects of side holes	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Naoya Shimazaki, Daiki Nakayama, Noriaki Nakane, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Basic study on visualization of flow through tip of thin indwelling needles for hemodialysis using particle image velocimetry	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Daisuke Arai, Tomohiro Masaya, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Study on the optimal wavelength for detecting intracircuit coagulation with optical sensors	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Haruka Furukawa, Hideo Sakamoto, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi

Study on optimal single swallowing dose for assessing swallowing function by analyzing swallowing sounds	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Rika Furutaki, Masaya Kani, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Attempt to increase the sensitivity of vascular access function evaluation with normalized cross-correlation coefficient and normalized duration time	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shuto Inoue, Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Investigation of the application possibility of a swallowing sound analyzer to sensory evaluations	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kani Masaya, Rika Furutaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Basic study on the use computational fluid dynamics to optimize the shape of indwelling needle tip for hemodialysis	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Marina Miyata, Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Examination about the difference in shunt murmurs by the change in stenosis rate using the numerical computation	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Noriaki Nakane, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Study on improving the resolution of sensors that detect blackening in intracircuit blood	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shohei Ohta, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Continuous monitoring of temporal changes in blood absorption coefficient to detect intracircuit coagulation	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hideo Sakamoto, Haruka Furukawa, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
Early detection of intracircuit coagulation with a blood clot generator and quantitative monitoring of blood flow sounds	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Takuya Shioda, Daiki Nakayama, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
正規化相互相関係数と基準化持続時間のモニタリング併用による高感度VA機能評価の試み	2018年3月16～18日	日本医工学治療学会第34回学術大会、大宮ソニックシティ(埼玉県大宮市)	佐々木一真、井上周杜、望月幹也、山内 忍、本橋由香、 佐藤敏夫 、阿岸鉄三
数値流体力学(CFD)解析を用いた留置針の脱血特性に及ぼす側孔の影響に関する理論検討	2018年3月16～18日	日本医工学治療学会第34回学術大会、大宮ソニックシティ(埼玉県大宮市)	島崎直也、宮田茉利奈、本橋由香、山内 忍、 佐藤敏夫 、阿岸鉄三
嚥下音の時間-周波数解析に基づく非侵襲かつ定量的な新しい摂食・嚥下機能評価方法	2018年3月16～18日	日本医工学治療学会第34回学術大会、大宮ソニックシティ(埼玉県大宮市)	古滝莉加、可児雅弥、望月勇太、山内 忍、本橋由香、 佐藤敏夫 、阿岸鉄三、高橋常男

○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「第55回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション 優秀賞」(演題題目)高設定流量を確保できる留置針の最適形状の提案を目的とした数値流体力学解析の試み	2017年9月1日～3日	日本人工臓器学会 将来計画・学会活性化委員会 法政大学 市ヶ谷キャンパス	島崎直也, 中根紀章, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
(その他特記事項)			
日本医工学治療学会 第33回学術大会 一般演題 計測・診断・モニタリング 座長、(2017年4月7日～9日)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本医工学治療学会、日本人工臓器学会、日本透析医学会、日本医療機器学会、日本臨床工学技士会、日本音響学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年1月～現在	日本医工学治療学会 評議員
2009年1月～現在	日本医工学治療学会 編集委員
2017年5月～現在	日本医工学治療学会 特別理事

佐野元昭 (さの もとあき) 教授



出生年：1959(昭和34)年
 在籍：1999(平成11)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工学研究科物理学専攻博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：光複屈折による六方晶ABX₃型反強磁性体の相転移の研究
 専門分野：信号処理、画像処理、コンピュータグラフィックス
 前職：東京工業大学大学院総合理工学研究科助手
 学内役職等：教務委員(工学系学部)(2003～2012)
 規程検討委員会委員(2008～2015)
 おもしろ理科教室実行委員会委員(2009～)委員長(2011
 入試・広報センター(2013～2015)、
 アドミッション委員(2012～2015)
 大学入試センター試験 試験場本部 統括責任(2012～
 図書館運営委員(2013～2015)
 ハラスメント対策委員(2013)
 情報処理教育委員(2013～)
 インディカフェ(2013～2015)
 (社)私立大学情報教育協会(2013～)窓口
 (電算事故調査委員会委員(2015))
 学生部長(2016)、学生委員会(委員長)(2016～)
 文化教育推進本部(2016～)

留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：電気学会論文発表賞(1992)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
コンピュータリテラシ	2009年4月 2010年4月 2011年4月 2012年4月 2013年4月 2014年4月 2015年4月 2016年4月 2017年4月 2018年4月	毎年新生を対象に行われる情報処理関係のオリエンテーションの資料として、情報処理演習室の使い方から、インターネット基礎およびWord、Excel、PowerPointの簡単な説明までを1冊にまとめた参考書である。
物理 I 物理 II	2010年4月および9月 2011年4月および9月 2012年4月および9月 2013年4月および9月 2014年4月および9月 2015年4月および9月 2016年4月および9月 2017年4月および9月 2018年4月および9月	工学系学部を対象にした「物理 I」、「物理 II」のテキストである。小林講師、中丸非常勤、私の3名で担当しており、私の分担は、物理 I は静力学、物理 II は電荷、電流・電圧、回路である。2012年からは、小林講師と私の2名になったので改定。
システム工学	2017年4月 2018年4月	生命医工学科および臨床工学科の2年次科目「システム工学」のテキストである。いままで毎回配付していたプリントを1冊にまとめ、目次や索引をつけた。

医用工学総論Ⅰ、Ⅱサブテキスト	2017年4月および9月 2018年4月および9月	医用工学総論Ⅰサブテキストは、第2種ME試験対策として作成した。また、医用工学総論Ⅱサブテキストは、臨床工学技士国家試験対策として作成した。
力学	2017年4月 2018年4月	臨床工学科2年次科目「力学」のテキストである。いままで毎回配付していたプリントを1冊にまとめ、目次や索引をつけた。
電磁気学	2017年9月 2018年9月	臨床工学科2年次科目「電磁気学」のテキストである。いままで毎回配付していたプリントを1冊にまとめ、目次や索引をつけた。

Ⅱ 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
<p>科研費の研究の2年目として、昨年に引き続き、通常のCCDカメラを用いた葉の固有振動解析により、植物の水ストレスを推定するための研究を行った。2016年度は、CCDカメラで葉の固有振動数の計測が可能であることを示したが、その方法を用いて、葉の固有振動数の日周変化を測定するまでに至らなかったが、2017年度、夜間測定時の光源の自動点灯システムを作成し、葉の固有振動数の日周変化の測定に成功し、レーザ変位計等を用いた測定と同様の結果を得ることに成功した。また、固有振動数を求める際に用いている相関追尾の代わりとして、画像の特定部分の明るさの揺らぎを測定する方法を考えたので、来年度は、その方法で葉の尾固有振動数が測れるかを検証予定である。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
音響放射圧を用いた葉および茎の振動計測による植物健康状態の推定に関する研究	共著	2017年6月1日	超音波テクノ Vol.29, No.3	杉本恒美, 中川裕, 佐野元昭	43-47頁
(学術論文)					
「植物栽培中の培養土における伝搬音速計測に関する検討(2)」	共著	2017年7月1日	桐蔭論叢 第36号	内川千春, 中川裕, 大平武征, 佐野元昭, 杉本恒美	233-236 頁
「小松菜を定植した培養土中の音波伝搬速度と体積含水率の検討」	共著	2017年7月1日	桐蔭論叢 第36号	大平武征, 杉本恒美, 佐野元昭, 白川貴志, 中川裕, 内川千春	217-222 頁
「CCDカメラを用いた葉の固有振動数計測による植物の水ストレス推定」	共著	2017年7月1日	桐蔭論叢 第36号	佐野元昭, 内川千春, 中川裕, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美	197-202 頁
「植物の葉の固有振動数のモデル化に関する研究(2)」	共著	2017年7月16日	桐蔭論叢 第36号	内川千春, 中川裕, 大平武征, 佐野元昭, 杉本恒美	227-232 項
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
CCDカメラを用いた葉の固有振動解析による植物の水ストレス状態の推定	2017年6月27日	超音波研究会 東京大学本郷キャンパス	佐野元昭, 内川千春, 中川裕, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美		
CCDカメラを用いた葉の固有振動計測による植物の水分ストレスの検出	2017年8月31日	日本生物環境工学会2017松山大会 愛媛大学樽味キャンパス	佐野元昭, 内川千春, 中川裕, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美		

「通常のCCDカメラを用いた葉の固有振動数の日周変動測定による植物の水ストレス推定」	2017年10月27日	超音波シンポジウム(USE2017) 多賀城文化センター	佐野元昭, 内川千春, 中川裕, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美
“Study on the relation between propagation velocity of sound and volume water content in the culture soil where Komatsuna was planted”	2017年11月11日	12th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Takeyuki Ohdaira, Tsuneyoshi Sugimoto, Motoaki Sano , Takashi Shirakawa, Yutaka Nakagawa, Chiharu Uchikawa
“Propagation velocity in soil using Handheld Sound Source and Sensors (Ⅲ)”	2017年11月11日	12th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Takashi Shirakawa, Takeyuki Ohdaira, Yutaka Nakagawa, Motoaki Sano , Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on the irrigation control using periodic frequency change of a plant leaf”	2017年11月11日	12th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Chiharu Uchikawa, Tsuneyoshi Sugimoto, Motoaki Sano , Takeyuki Ohdaira, Yutaka Nakagawa, Takashi Shirakawa
「通常のCCDカメラを用いた葉の固有振動数解析による植物の水ストレス推定2」	2018年3月15日	日本音響学会春季講演発表会 日本工業大学	佐野元昭, 内川千春, 中川裕, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費助成事業	2015年4月～2018年3月	独立行政法人日本学術振興会 学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))	
科学研究費助成事業	2016年4月～2019年3月	独立行政法人日本学術振興会 学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))	
(その他特記事項)			
iTSCOMチャンネル(地デジ11ch)「地モトTVおかえり!」(トビックスコーナー(2分))(9月2日(火)6:30～, 13:00～, 15:00～, 17:00～, 22:30～)おもしろ理科教室の取材(主催者インタビュー)			

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本物理学会、応用物理学会、電気学会、日本音響学会、日本生物環境工学会

竹内 真一 (たけうち しんいち) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：武蔵工業大学大学院工学研究科修士課程電気工学専攻
 ：桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士課程材料工学専攻
 学位：博士(工学)
 学位論文：信号処理による超音波診断装置の分解能改善に関する研究(修士)
 Study on applicability of microbubbles in harmonic imaging and development of ultrasound transducer for harmonic imaging(博士)
 専門分野：超音波工学、音響工学、医用生体工学、電子通信工学
 前職：(株)キメック研究開発センター計測電子システム部副主事
 学内役職等：医用工学部臨床工学科長(2012～)
 学務部副部長(2010・2011)
 留資格：第1級陸上無線技術士、第1種電気通信主任技術者(伝送交換)、第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師：日本工学院専門学校・臨床工学専攻科、東京工科大学・医療保健学部・理学療法士学科、看護学科、作業療法士学科
 受賞・表彰：第51回注目発明に選定(超音波流量測定方法およびその装置)、日本超音波医学会・超音波工学フェロー、電子情報通信学会・シニア会員、2000年度材料技術研究協会討論会ポスター賞受賞、2002年度材料技術研究協会技術賞、2002年度材料技術研究協会討論会ポスター賞、2005年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞、Japanese Journal of Applied Physics：“Spotlight Paper”，2015年11月6日、

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
<p>当研究室は主に、超音波の医療応用を目的とした研究を実施している。特に、本年も、超音波照射による脳腫瘍の治療を目的としたがん細胞のアポトーシス誘導の研究、心臓および血管内の治療診断を目的としたIVUS(Intra Vascular Ultrasound Imaging System)に使用する超小型超音波モーターの開発、IVUS用超音波プローブの研究、低強度パルス超音波を利用した骨折治癒促進システムに応用する簡易形超音波骨折部位検出装置の研究、音響キャビテーションの発生を伴う高強度の超音波音場でも壊れることなく音圧や音響強度の空間分布を計測可能な堅牢方ハイドロホンの研究と実用化のための共同研究を行っている。さらに高強度の超音波音場計測技術の研究を行っている。本年度は、特に本年度は、堅牢方ハイドロホンの研究と実用化と、高強度の超音波音場計測技術の研究に力を入れてきた。実用化に向かっている具体的なアプローチを行っているところである。また、超音波モータに関しては、従来の実験的なアプローチだけでなく、有限要素法を用いた理論検討にも力を入れてきた。本件に関しては博士課程の社会人大学院生(つくば国際大学)大関誠也氏の研究テーマでもあり、これをきっかけに研究の大きな進展を期待している。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
連載：圧電振動子を用いた超音波プローブの設計入門 第3回 背板と音響整合層	単著	2017年4月	超音波TECHNO、VOL.29、No.2	竹内真一	pp. 100-109

連載：圧電振動子を用いた超音波プローブの設計入門 第4回 超音波プローブの伝達関数	単著	2017年6月	超音波TECHNO、VOL.29、No.3	竹内真一	pp. 100-108
連載：圧電振動子を用いた超音波プローブの設計入門 第5回 超音波プローブによる受信波形のシミュレーション	単著	2017年8月	超音波TECHNO、VOL.29、No.4	竹内真一	pp. 104-111
「膵臓癌細胞のアポトーシス誘導に関する基礎研究」	共著	2017年8月1日	超音波29巻4号	佐藤 貴亮, 西村 裕之, 萩原 啓実, 吉田 薫, 竹内真一	16~19頁
連載：圧電振動子を用いた超音波プローブの設計入門 第6回 圧電方程式と等価回路	単著	2017年10月	超音波TECHNO、VOL.29、No.5	竹内真一	pp. 104-111
連載：圧電振動子を用いた超音波プローブの設計入門 第7回 同軸ケーブル、音響整合層のFパラメータ・マトリクス	単著	2017年12	超音波TECHNO、VOL.29、No.6	竹内真一	pp. 102-110
研究室紹介：桐蔭横浜大学 医用工学部 臨床工学科 竹内真一	単著	2017年12月	超音波TECHNO、VOL.29、No.6	竹内真一	pp. 95-98
特集 進化する超音波治療技術の最前線：膵臓癌細胞のアポトーシス誘導に関する基礎研究	共著	2017年8月	超音波TECHNO、VOL.29、No.4	佐藤貴亮、西村裕之、萩原啓実、吉田薫、竹内真一	pp. 16-19
解説 医用超音波：コイル状態超音波モータの音響導波路材料	共著	2018年2月	超音波TECHNO、VOL.30、No.1	上原長佑、栗田恵亮、大関誠也、竹内真一	pp. 102-106
会議報告：第12回桐蔭医用工学国際シンポジウム(2017)	単著	2018年2月	超音波TECHNO、VOL.30、No.1	竹内真一	pp. 107-110
(学術論文)					
Experimental evaluation of high-intensity ultrasound source system using acoustic waveguide for calibration of hydrophone	共著	2017年	Japanese Journal of Applied Physics 56	Shigeru Igarashi, Takeshi Morishita, Takeyoshi Uchida, and Shinichi Takeuchi	07JF19 -1~8
Effect on High-Intensity Fields of a Tough Hydrophone With Hydrothermal PZT Thick-Film Vibrator and Titanium Front Layer	共著	2017年	IEEE TRANSACTIONS ON ULTRASONICS, FERROELECTRICS, AND FREQUENCY CONTROL	Nagaya Okada and Shinichi Takeuchi	

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
円筒型音響導波路と凹面型振動子を用いた ハイドロホン校正用高強度音源システムの実 験評価	2017年5月	電子情報通信学会・日本音響 学会共催超音波研究会、電子 情報通信学会技術報告 vol. 117, no. 41, US2017-19, pp. 27-32, 2017年5月.(機械振興 会館、東京)2017.5.	五十嵐 茂、森下武志、内田武 吉、竹内真一
ワイヤ音響導波路と中空ロータを用いた血管 内超音波検査用インナーロータ型コイル状ス テータ超音波モータの開発	2017年6月	電子情報通信学会・日本音響 学会共催超音波研究会、電子 情報通信学会技術報告 vol. 117, no. 111, US2017-27, pp. 37-42, 2017年6月.(東京大学 本郷キャンパス、東京)2017.6.	上原長佑、栗田恵亮、大関誠也、 竹内真一
ソリアクタが形成する超音波音場への暴露が 堅牢型ハイドロホンの受波感度の周波数特性 に及ぼす影響	2017年9月	電子情報通信学会2017年ソ サイエティ大会、A-4-2、2017 年9月(東京都市大学、世田 谷)	矢作麻結、椎葉倫久、大屋和志、 岡田長也、黒澤実、竹内真一
音響導波路を用いた高強度超音波音源の評 価	2017年9月	電子情報通信学会2017年ソ サイエティ大会、A-4-3、2017 年9月(東京都市大学、世田 谷)	五十嵐茂、森下武志、内田武吉、 竹内真一
超音波洗浄器が形成する音場への曝露が堅 牢型ハイドロホンの特性に及ぼす影響の検討	2017年9月	日本音響学会2017年秋季研 究発表会講演論文集、 pp.1167 -1168、2017年9月 (愛媛大学、松山)	椎葉倫久、矢作麻結、岡田長也、 黒澤実、竹内真一
音響導波路を用いたハイドロホン校正用高強 度音源システムの実験評価 -中心軸上の音 圧分布に現れる変動の検討-	2017年9月	日本音響学会2017年秋季研 究発表会講演論文集、 pp.1175 -1176、2017年9月 (愛媛大学、松山)	五十嵐茂、宗像麻美、森下武志、 内田武吉、竹内真一
付着細胞へ均一な超音波照射を目的とした超 音波照射システムの提案 -音響導波路と球面 集束型圧電振動子を用いた超音波照射シス テム-	2017年9月	日本音響学会2017年秋季研 究発表会講演論文集、 pp.1179 -1180、2017年9月 (愛媛大学、松山)	浅岡直樹、五十嵐茂、竹内真一
コイル状ステータ超音波モータの解析に関す る研究 -圧電振動子と音響導波路の挙動につ いての数値計算-	2017年9月	日本音響学会2017年春季研 究発表会講演論文集、 pp.1213 -1214、2017年9月 (愛媛大学、松山)	大関 誠也、栗田恵亮、中根紀 彰、佐藤 敏夫、竹内真一
アウターロータ型コイル状ステータ超音波モ ータの試作 -単振動子型モータにおける振動 モードの測定-	2017年9月	日本音響学会2017年春季研 究発表会講演論文集、 pp.1217 -1218、2017年9月 (愛媛大学、松山)	栗田恵亮、大関誠也、上原長佑、 竹内真一
Influence of Acoustic Cavitation Bubbles on Tough Hydrophone with Titanium Front Plate and Hydrothermal PZT Thick Film Placed into Highintensity Acoustic Fields	2017年9月	2017 IEEE IUS (International Ultrasonics Symposium), September 6-9, 2017, Washington, D.C., USA	Nagaya Okada, Michihisa Shiiba, Shinobu Yamauchi, Toshio Sato, Shinichi Takeuchi

Fundamental Consideration on Numerical Analysis of the Vibrating Propagation on the Acoustic Waveguide for Coiled Stator Ultrasound Motor コイル状ステータ超音波モータのための音響導波路上の振動伝搬解析に関する基礎検討	2017年10月	第38回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム プロシーディングス Proceedings of Symposium on Ultrasonic Electronics, Vol. 38 (2017) 2P1-7, 25-28 October, 2017 (多賀城、宮城県)	Seiya Ozeki, Keisuke kurita, Noriaki Nakane, Toshio Sato, and Shinichi Takeuchi、大関誠也、栗田恵亮、中根記章、佐藤敏夫、竹内真一
Study on Relationship between Acoustic Cavitation Bubbles Behavior and Output Signal from Tough Hydrophone Using High-speed Camera 高速カメラによる音響キャビテーションバブルと堅牢型ハイドロホン出力の同時観察	2017年10月	第38回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム プロシーディングス Proceedings of Symposium on Ultrasonic Electronics, Vol. 38 (2017) 3P4-6, 25-28 October, 2017 (多賀城、宮城県)	Nagaya Okada, Michihisa Shiiba, Shinobu Yamauchi, Toshio Sato, and Shinichi Takeuchi、岡田長也、椎葉倫久、山内忍、佐藤敏夫、竹内真一
コイル状ステータ超音波モータの解析に関する研究 ～ コイル状ステータに用いる音響導波路上の波動伝搬解析に関する基礎検討 ～	2017年10月	電子情報通信学会・日本音響学会共催超音波研究会、電子情報通信学会技術報告 vol. 117, no. 227, US2017-63 pp. 39-44, 2017年10月。(東北大学、仙台)	大関誠也・栗田恵亮・上原長佑・中根記章・佐藤敏夫・竹内真一
血管内超音波検査用コイル状ステータ超音波モータの音響導波路材に関する検討	2017年11月	日本音響学会共催超音波研究会、電子情報通信学会技術報告 vol. 117, no. 311, US2017-69, pp. 25-30, 2017年11月。(本多電子本社、豊橋)	上原長佑、栗田恵亮、大関誠也、竹内真一
Fundamental Study on Analysis of Wave Propagation on Acoustic Waveguide for Coiled Stator Ultrasound Motor	2017年11月	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2017, Nov. 11, pp. 34-35, 2017 - Yokohama	Seiya OZEKI, Keisuke KURITA, Noriaki NAKANE, Toshio SATO and Shinichi TAKEUCHI
Proposal of Ultrasound Irradiation System with Uniform Ultrasound Distribution for Apoptosis Induction to Adherent Cells	2017年11月	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2017, Nov. 11, pp. 124-125, 2017 - Yokohama	Naoki ASAOKA, Shigeru IGARASHI and Shinichi TAKEUCHI
Measurement of Acoustic Pressure Distribution on High Intensity Ultrasound Source System using Cylindrical Acoustic Waveguide	2017年11月	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2017, Nov. 11, pp. 132-133, 2017 - Yokohama	Shigeru IGARASHI, Takeshi MORISHITA, Takeyoshi UCHIDA and Shinichi TAKEUCHI
Outer Rotor Type Coiled Stator Ultrasound Motor for Use in Blood Vessel - Measurement of Vibration Mode on Acoustic Waveguide	2017年11月	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2017, Nov. 11, pp. 142-143, 2017 - Yokohama	Keisuke KURITA, Choyu UEHARA, Seiya OZEKI and Shinichi TAKEUCHI
Study on Effect of Ultrasound Field Generated by Ultrasound Cleaner on Our Tough Hydrophone	2017年11月	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2017, Nov. 11, pp. 154-155, 2017 - Yokohama	Michihisa SHIIBA, Mayu YAHAGI, Nagaya OKADA, Minoru KUROSAWA and Shinichi TAKEUCHI
Influence of Ultrasonic Irradiation in MHZ band on Rat Glioma Cell Line C6	2017年11月	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2017, Nov. 11, pp. 158-159, 2017 - Yokohama	Hiroaki SUGAMATA and Shinichi TAKEUCHI

Fabrication of Inner Type Coiled Stator Ultrasound Motor using Copper Acoustic Waveguide	2017年11月	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2017, Nov. 11, pp. 164-165, 2017 - Yokohama	Choyu UEHARA, Keisuke KURITA, Seiya OZEKI and Shinichi TAKEUCHI
強力超音波音場における音響キャビテーション・バブルの挙動の観測	2018年 1月	日本超音波医学会・第3回超音波分子診断治療研究会、日本ソノケミストリー学会第10回超音波とファインバブルの相互作用に関するシンポジウムとの共催、ファインバブル学会連合の協賛、2018年 1月、(慶応義塾大学日吉キャンパス、横浜市)	竹内真一
コイル状ステータ超音波モータの音響導波路材に関する研究 -音響導波路の形状による波動伝搬に関する研究	2018年 1月	電子情報通信学会・日本音響学会共催超音波研究会、電子情報通信学会技術報告 vol. 117, no. 398, US2017-107, pp. 25-30, 2018年 1月。(関西大学千里山キャンパス、大阪) 2018. 1.	栗田恵亮、上原長佑、大関誠也、竹内真一
堅牢型ハイドロホンの構造の再検討	2018年3月	日本音響学会2018年春季研究発表会講演論文集、pp.1007 -1008、2018年3月 (日本工業大学、埼玉)	椎葉倫久、矢作麻結、森下武志、岡田長也、黒澤実、竹内真一
超音波が脳腫瘍細胞に及ぼす影響 -培養フラスコ液面の境界条件による影響の検討-	2018年3月	日本音響学会2018年春季研究発表会講演論文集、pp.1039-1040、2018年3月 (日本工業大学、埼玉)	菅俣 浩明、吉田 薫、萩原 啓実、竹内 真一
医療応用を目的としたコイル状ステータ超音波モータの構造の再検討	2018年3月	日本音響学会2018年春季研究発表会講演論文集、pp.1069 -1070、2018年3月 (日本工業大学、埼玉)	大関誠也、栗田恵亮、上原長佑、中根紀彰、佐藤敏夫、竹内真一
付着細胞への均一な超音波照射を目的とした超音波照射システムの提案 - 細胞培養シャーレが音場に及ぼす影響の数値シミュレーション -	2018年3月	日本音響学会2018年春季研究発表会講演論文集、pp.1069 -1070、2018年3月 (日本工業大学、埼玉)	浅岡直樹、五十嵐茂、竹内真一
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
強力超音波音場における音響キャビテーション・バブルの挙動の観測	2018年 1月	日本超音波医学会・第3回超音波分子診断治療研究会、日本ソノケミストリー学会第10回超音波とファインバブルの相互作用に関するシンポジウムとの共催、ファインバブル学会連合の協賛、2018年 1月、	(慶義塾大学日吉キャンパス(横浜市))
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
「ハイドロホン、超音波モータおよび超音波診断治療技術の研究」	2016年4月1日～現在	本多電子株式会社	

(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
「ハイドロホン、超音波モータおよび超音波診断治療技術の研究」	2016年4月1日～現在	本多電子・奨学寄附金

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
IEEE、MRS、電子情報通信学会、日本音響学会、日本超音波医学会、日本脳神経超音波学会、日本非破壊検査協会、材料技術研究協会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年05月～現在	日本超音波医学会・超音波検査士制度委員会委員(基礎領域・領域副責任者)
2008年05月～現在	日本音響学会・研究発表会・プログラム編集委員
2011年5月～現在	超音波シンポジウム論文委員会委員
2009年04月～現在	電子情報通信学会・シニア会員
2009年05月～現在	日本超音波医学会・超音波工学フェロー
2015年08月～現在	日本超音波医学会・超音波専門医制度委員会委員(基礎領域・領域副責任者)
2010年04月～現在	電子情報通信学会・シニア会員
2011年04月～現在	電子情報通信学会・超音波専門委員会委員(再任)
2017年04月～現在	日本超音波医学会・超音波分子診断治療研究会・代表
2017年05月～2018年05月	電子情報通信学会・超音波研究専門委員会・副委員長
2017年05月～2018年05月	日本音響学会・超音波研究委員会・副委員長
2018年05月～現在	電子情報通信学会・超音波研究専門委員会・委員長
2018年05月～現在	日本音響学会・超音波研究委員会・委員長



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：長岡技術科学大学大学院情報制御工学専攻博士後期課程修了
 学位：工学博士
 学位論文：レジスタ転送レベルのハードウェア設計における機能検証
 専門分野：計算科学の最適化アルゴリズム、ヒューリスティック・アルゴリズム、機械学習に興味を持つ
 前職：株式会社日立製作所中央研究所客員研究員
 学内役職等：発明評価委員会委員長、学生委員会委員、ハラスメント相
 (前年度学内役職等)：図書館運営委員会委員、英語村実行委員会の委員
 留学：
 資格：アマチュア無線技士(電話級)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学部の一部の担当科目用のホームページを作成し、授業の講義内容等を公開している	2009年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/education_j.html
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)幾つかの科目の教科書や参考書等を作成	2007年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/books_j.html
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)日本ペルー共生協会のNPOのボランティア・グループで外国籍の児童等の教育	2001年～現在	文化庁や国際移住機関駐日事務所「IOM」と日本国文部科学省の支援事業等の補助金で色々な補習や就学支援の教室やコース等の活動に関わっている。 http://www.ajape.org/
(2)本学園の高校の「(理科)課題研究」の指導教員	2012年～2018年	桐蔭学園高等学校の理科課題研究

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略
進化的アルゴリズムを用いた予測方法のkNN法(最近傍法:k Nearest Neighbor)の研究を行って、2017年7月マレーシアで行われた International Symposium on Computational Intelligence & Applications (ISCIA 2017)の学会でその成果を発表した。優位な論文として選ばれ、Journal of Fundamental and Applied Sciencesの学術雑誌にも掲載された(Vol. 9, No.4S, pp.173-192, October 2017)。臨床(心臓病の)データに基づいて予測を行うアンサンブルについても研究を行って国際学会International Conference on Electronics, Information and Communication (ICEIC 2018, Hawaii, USA, January 24-27)で発表した。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“A kNN Method for Breast Cancer Prognosis that Uses a Genetic Algorithm for Component Selection”	共著	2017年10月	Journal of Fundamental and Applied Sciences, Vol. 9, No.4S	Alberto Palacios Pawlovsky	pp.173-192
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“A kNN Method that Uses a Non-natural Evolutionary Algorithm for Component Selection”	2017年7月15日	International Symposium on Artificial Intelligence & Applications 2017 Malacca, Malaysia	Alberto Palacios Pawlovsky		
“An Ensemble Based on Distances for a kNN Method for Heart Disease Diagnosis”	2018年1月25日	International Conference on Electronics, Information and Communication (ICEIC 2018) Honolulu, USA	Alberto Palacios Pawlovsky		
○その他					
(表彰・受賞)					
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)		
“Best Paper Award”	2017年7月17日	The Society for Advance of Science & Technology of Malaysia	Alberto Palacios Pawlovsky		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
ペルー工学会、IEEE(Senior Member)、電子情報通信学会(IEICE)、およびACMの各会員		
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
NPOの日本・ペルー共生協会(東京都)	2002年から現在まで	理事長
NPOの日本・ペルー共生協会(神奈川)	2017年から	理事長

森下 武志 (もりした たけし) 教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：横浜国立大学大学院工学府博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：小型両眼視覚ロボットと教育への展開
 専門分野：医用システム統合工学、福祉環境工学、教育工学
 前職：神奈川県教育委員会職員 教諭 主任主事兼務(2004)
 学内役職等：入試広報センター委員
 留学：東京大学大学院知能機械情報学系研究科 情報システム工学研究室(井上・稲葉研究室)内地留学(2003)
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：Best Paper Award, Presented at the 22th International Symposium on Artificial Life and Robotics (AROB 2017)
 3rd International Micro-Mechanism Contest Excellent Award (2009)
 第26回全国高等学校総合文化祭 ロボットコンテスト(相撲ロボット自立型部門)優勝(2002)
 第12回全日本ロボット相撲 in USA 国際大会 自立型 サンフランシスコ場所 準優勝(2000)
 神奈川県知事賞受賞(1995,1996,1997,1998,2002,2011)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)資格試験対策の効果的教育法への取り組みと指導	2013年3月～現在	第2種ME技術実力検定試験の試験対策学習方の実践
(2)医用工学部学生へのものづくり体験の推進・指導	2012年4月～現在	時間的制約を考慮した実践的ものづくり教育の展開
(3)福祉住環境教育に対する学習促進	2013年4月～現在	高齢化・福祉・居住環境に関する意識付けと動機を喚起する教育の実践
(4)医療系学生への工作機械を用いた機械加工学と体験的学習の指導	2013年4月～現在	医療系技術者育成における、工作物が製造されるまでの設計・製図・加工・評価の一連の流れを体験させ実践力を養う指導を実践
(5)医療系学生への工学的実験検証体験の指導	2014年4月～現在	座学で学ぶ工学的理論を、実験によって確認させることでより深い理解力を養う指導を実践
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)科目:医用工学総論 I	2012年4月～現在	3段式の復習を実現する第2種ME技術実力検定試験対策指導テキストと問題の作成
(2)科目:工学WS I 実習教材	2012年4月～現在	各種計測機器、設計製図、機械加工、実験的評価を系統立てた実践的教材とテキスト開発
(3)科目:工学WS II 実習教材	2012年4月～現在	実験計測と誤差、および統計的処理方に関する、実践的テキスト開発と実験での体験教育
(4)科目:福祉工学	2013年4月～現在	高齢社会、障害者など一般社会人として医療技術者として有用な知識を検定試験形式での教育教材の開発と実践

(5)科目:基礎工学実験教材	2014年4月～現在	交流回路実験を通して、波形、回路、位相、ベクトル等を座学や国試験問題等の裏付けを実験的に検証する教材開発
(6)科目:医用電磁気学	2014年8月～現在	ME検定試験、国家試験の電気系全般の問題対応力を確実に養うための、わかりやすい解説付き演習テキストの開発
(7)科目:工学へのステップテキスト	2015年8月～現在	数値の科学的処理方法、電子回路作成方法などをできる限りわかりやくしたテキストの全面改訂版作成
(7)科目:電子工学テキスト	2017年4月～現在	ME検定試験、国家試験の電子系全般の問題対応力を確実に養うための、わかりやすい解説付き演習テキストの開発

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
人工心肺装置動脈フィルタ内気泡除去装置の振動分析	2017年5月10日	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'17 講演論文集, 1P1-K02	山本愛里紗, 市山友里香, 森下武志
人工心肺用動脈フィルタ内の残留気泡除去装置の試作	2017年7月1日	第92回日本医療機器学会大会 予稿集, p206	山本愛里紗, 市山友里香, 森下武志
機械的振動による動脈フィルタ内残留気泡除去装置	2017年9月13日	第35回日本ロボット学会学術講演会'講演論文集, RSJ2017AC2J1-02	山本愛里紗, 市山友里香, 森下武志
動脈フィルター内残留気泡除去装置における除去特性調査に関する検討	2017年11月10日	第60回自動制御連合講演会'17 概要集, FrSP2-15	松戸里紗, 山本愛里紗, 市山友里香, 森下武志
Design and development of handheld air vent system for arterial filter of heart-lung machine	2017年11月27日	Abstracts of TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2017	Arisa YAMAMOTO, Takeshi MORISHITA

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本ロボット学会、日本機械学会、日本医療機器学会		
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
横浜北工業会学校幹事	2015年4月～現在	神奈川県

池上 和志 (いけがみ まさし) 准教授



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院化学研究科化学専攻修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：Photochemical Reactions of Intra- and Intermolecularly Hydrogen Bonded Compounds (分子内及び分子間水素結合系の光化学反応に関する研究)
 専門分野：光化学、光電気化学
 前職：ペクセル・テクノロジーズ(株) 研究開発部博士研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：甲種危険物取扱者
 非常勤講師：
 受賞・表彰：グリーンサステナブルネットワーク文部科学大臣賞(2009)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
色素増感太陽電池実験キットの実用化と、学生実験での採用。高校生、中学生等への教育	2008年～	色素増感太陽電池の実験キットを活用して、環境問題、エネルギー問題を考える授業を展開。科学館、高校等でも小学生、中学生、高校生向けの講座を実施。
2.作成した教科書、教材、参考書		
色素増感太陽電池実験キット	2008年～	プラスチックフィルムを使い、きわめて安全な方法により、太陽電池を作製することができる実験キット。特開2008-198488

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
<p>有機無機ハイブリッド化合物を用いた新型太陽電池であるペロブスカイト太陽電池の高効率化と軽量フレキシブル化に関する研究を進めた。特に、ペロブスカイト溶液を、インクジェット法により製膜する手法について研究を進めた。ペロブスカイト太陽電池の実用化に向けては、印刷法の確立が重要である。インクジェット法は任意のパターンに光活性層を印刷できる点で、産業化にも貢献できると考えている。さらに、有機無機ハイブリッドペロブスカイト化合物を、薄膜ではなく数百μmの厚膜に成膜する手法についても検討をすすめ、これを、X線ディテクタに応用する研究を行った。</p> <p>研究成果については、応用物理学会をはじめ、国内、国際学会にて発表を行った。また、日本国内で開催されたフラットパネルディスプレイの国際会議、また、太陽電池の国際会議において、ペロブスカイト太陽電池の基礎から応用までを網羅するチュートリアル講演を担当した。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
ペロブスカイト光電変換素子の特徴とウェアラブルデバイスへの適用	単著	2017年6月	生体情報センシングとヘルスケアへの最新応用(技術情報協会)	池上和志	
(学術論文)					
Poly(4-Vinylpyridine)-based interfacial passivation to enhance voltage and moisture stability of lead halide perovskite solar cells	共著	2017年5月2日	ChemSusChem, 2017, 10	B. Chaudhary, A. Kulkarni, A. K. Jena, M. Ikegami , Y. Udagawa, H. Kunugita, K. Ema, and T. Miyasaka	8083-8091

Photovoltaic properties of two-dimensional (CH ₃ (CH ₂) ₃ NH ₃) ₂ PbI ₄ perovskite crystals oriented with TiO ₂ nanowire array	共著	2017年5月30日	Chemistry Letters, 2017, 46	Y. Sanehira, Y. Numata, M. Ikegami , and T. Miyasaka	1204-1206
Severe morphological deformation of Spiro-OMeTAD in (CH ₃ NH ₃)PbI ₃ solar cells at high temperature”	共著	2017年7月14日	ACS Energy Lett., 2017, 2	A. K. Jena, M. Ikegami , and T. Miyasaka	1760-1761
Lead-free perovskite solar cells using Sb and Bi-based A ₃ B ₂ X ₉ and A ₃ BX ₆ crystals with normal and inverse cell structures	共著	2017年9月22日	Nano Convergence, 2017. 4	A. K. Baranwal, H. Masutani, H. Sugita, H. Kanda, S. Kanaya, N. Shibayama, Y. Sanehira, M. Ikegami , Y. Numata, K. Yamada, T. Miyasaka, T. Umeyama, H. Imahori, and S. Ito	26
Solar water splitting utilizing a SiC photocathode, a BiVO ₄ photoanode, and a perovskite solar cell	共著	2017年9月28日	ChemSusChem, 2017, 10	A. Iwase, A. Kudo, Y. Numata, M. Ikegami , T. Miyasaka, N. Ichikawa, M. Kato, H. Hashimoto, H. Inoue, O. Ishitani, and H. Tamiaki	4420-4423
Role of spiro-OMeTAD in performance deterioration of perovskite solar cells at high temperature and reuse of the perovskite films to avoid Pb-waste	共著	2018年1月2日	J. Mater. Chem. A, 2018, 6	A. K. Jena, Y. Numata, M. Ikegami , and T. Miyasaka	2219-2230
Amorphous metal oxide blocking layers for highly efficient low-Temperature brookite TiO ₂ -based perovskite solar cells	共著	2018年1月4日	ACS Appl. Mater. Interfaces, 2018, 10	A. Kogo, Y. Sanehira, Y. Numata, M. Ikegami , and T. Miyasaka	2224-2229
Stable and efficient perovskite solar cells fabricated using aqueous lead nitrate precursor: Interpretation of the conversion mechanism and renovation of the sequential deposition	共著	2018年2月15日	Materials Today Energy, 2018	T.-Y. Hsieh, T.-S. Su, M. Ikegami , T.-C. Wei, and T. Miyasaka	
Solid-state thin-film dye-sensitized solar cell co-sensitized with methylammonium lead bromide perovskite	共著	2018年2月20日	Bull. Chem. Soc. Japan, 2018, 91	P. Pinpithak, A. Kulkarni, H.-W. Chen, M. Ikegami , and T. Miyasaka	754-760
Vapor annealing controlled crystal growth and photovoltaic performance of bismuth triiodide embedded in mesostructured configurations	共著	2018年3月6日	ACS Appl. Mater. Interfaces, 2018, 10	A. Kulkarni, T. Singh, A. K. Jena, P. Pinpithak, M. Ikegami , and Tsutomu Miyasaka	9547-9554
Tolerance of perovskite solar cell to high-energy particle irradiations in space environment	共著	2018年3月27日	iScience, 2018, 2	Y. Miyazawa, M. Ikegami , H.-W. Chen, T. Ohshima, M. Imaizumi, K. Hirose, T. Miyasaka	148-155

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「白色LEDによるStaphylococcus aureusの発育抑制効果機序」	2017年7月14日	第27回日本光線力学学会学術集会 京都大学医学部芝蘭会館	金沢浩平, 蓮沼裕也, 大城真奈, 高橋篤史, 齋藤潔, 池上和志 , 徳岡由一
「酸化チタンを塗布したプラスチック表面における抗菌効果」	2017年8月24日	第12回臨床検査学教育学会学術大会 埼玉県立大学	石渡遥, 池上和志 , 徳岡由一, 蓮沼裕也
水蒸気加熱法による酸化チタン多孔膜のナノ構造制御とペロブスカイト太陽電池への応用	2017年9月5-8日	第78回応用物理学会 秋季学術講演会、福岡国際会議場・国際センター・福岡サンパレス	實平 義隆, 沼田 陽平, 池上 和志 , 宮坂 力
酸化チタン超ナノ微粒子を用いたペロブスカイト太陽電池メソポーラス層の低温製膜	2017年9月5-8日	第78回応用物理学会 秋季学術講演会、福岡国際会議場・国際センター・福岡サンパレス	秋山 航汰、實平 義隆、沼田 陽平、宮坂 力、 池上 和志
インクジェット製膜法によるペロブスカイト光発電層における液滴サイズの検討	2017年9月5-8日	第78回応用物理学会 秋季学術講演会、福岡国際会議場・国際センター・福岡サンパレス	戸邊 智之、岩橋 秀樹、遠藤 聡人、實平 義隆、沼田 陽平、 池上 和志 、宮坂 力
水蒸気加熱法による酸化チタン多孔膜のナノ構造制御とペロブスカイト太陽電池への応用	2017年9月5-8日	第78回応用物理学会 秋季学術講演会、福岡国際会議場・国際センター・福岡サンパレス	實平 義隆, 沼田 陽平, 池上 和志 , 宮坂 力
酸化チタン超ナノ微粒子を用いたペロブスカイト太陽電池メソポーラス層の低温製膜	2017年9月5-8日	第78回応用物理学会 秋季学術講演会、福岡国際会議場・国際センター・福岡サンパレス	秋山 航汰、實平 義隆、沼田 陽平、宮坂 力、 池上 和志
インクジェット製膜法によるペロブスカイト光発電層における液滴サイズの検討	2017年9月5-8日	第78回応用物理学会 秋季学術講演会、福岡国際会議場・国際センター・福岡サンパレス	戸邊 智之、岩橋 秀樹、遠藤 聡人、實平 義隆、沼田 陽平、 池上 和志 、宮坂 力
低温製膜法を用いた軽量薄型ペロブスカイト太陽電池(依頼講演)	2017年9月12日	2017年電子情報通信学会ソサイエティ大会、東京都市大学	池上和志
Development of Flexible Substrates for perovskite solar cells(招待講演)	2017年10月9日-12日	11th Aseanian Conference on Nano-Hybrid Solar Cells (NHSC11)	Masashi Ikegami
Effect of solvent engineering and interfacial modification of silver-misbuth halide compounds for efficient lead free perovskite solar cells	2017年10月9日-12日	11th Aseanian Conference on Nano-Hybrid Solar Cells (NHSC11)	Ashish Kulkarni1, Ajay K. Jena, Masashi Ikegami , and Tsutomu Miyasaka
Improvement of photovoltaic properties of vertically oriented two-dimensional perovskite using TiO2 nanowire as a orientation determinate scaffold	2017年10月9日-12日	11th Aseanian Conference on Nano-Hybrid Solar Cells (NHSC11)	Yoshitaka Sanehira, Youhei Numata, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka
Perovskite solar cells prepared with super fine titania nano particles based on low temperature method	2017年10月9日-12日	11th Aseanian Conference on Nano-Hybrid Solar Cells (NHSC11)	Kouta Akiyama, Yoshitaka Sanehira, Youhei Numata, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka
Inkjet coating of lead halide perovskite layers and surface roughness control with the perovskite ink concentration	2017年10月9日-12日	11th Aseanian Conference on Nano-Hybrid Solar Cells (NHSC11)	Tomoyuki Tobe, Hideki Iwahashi, Akito Endo, Yoshitaka Sanehira, Youhei Numata, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka

Preparation of lead halide perovskite thick films and their photodiode characteristics	2017年10月9日-12日	11th Aseanian Conference on Nano-Hybrid Solar Cells (NHSC11)	Ryo Ichii, Yoshitaka Sanehira, Youhei Numata, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasak
「白色LED光照射によるStaphylococcus aureus の発育抑制に対するカロテノイド系化合物の影響」	2018年2月11日	第29回日本臨床微生物学会総会 岐阜国際会議場	金沢浩平, 蓮沼裕也, 高橋篤史, 大城真奈, 齋藤潔, 角田拓也, 池上和志 , 徳岡由一
「Staphylococcus aureus に対する白色LED光照射による発育抑制が分裂時間に与える影響」	2018年2月11日	第29回日本臨床微生物学会総会 岐阜国際会議場	高橋篤史, 蓮沼裕也, 金沢浩平, 大城真奈, 齋藤潔, 池上和志 , 徳岡由一
高効率ペロブスカイト太陽電池に向けた水蒸気加熱法によるITO基板上への高結晶性酸化チタン膜の低温製膜	2018年3月17日-20日	第65回応用物理学会春季学術講演会、早稲田大学	實平義隆、沼田陽平、 池上和志 、宮坂 力
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
ペロブスカイト太陽電池の誕生と軽量薄型素子を目指した開発動向(チュートリアル講演)	2017年7月4日	AM-FPD17、京都 龍谷大学 響都ホール校友会館	池上和志
Perovskite Solar Cells “Fundamental” (Tutorial Lecture)	2017年11月12日	PVSEC-27, 滋賀	Masashi Ikegami
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
有機無機ハイブリッド太陽電池における酸化物半導体の役割解明と軽量太陽電池への展開	2016年度～2018年度	平成28年度 科学研究費補助金 基盤研究(C)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本化学会、光化学協会、日本光医学・光生物学会、電気化学会、アメリカ電気化学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2017年1月1日～12月31日	2017年国際固体素子・材料コンファレンス論文委員・Vice Chair	
2018年1月1日～12月31日	2018年国際固体素子・材料コンファレンス論文委員・Chair	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
ペクセル・テクノロジーズ株式会社 取締役	2009年6月～現在	ペクセル・テクノロジーズ株式会社

石河 睦生 (いしかわ むつお) 専任講師



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2011(平成23)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院総合理工学研究科博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：水熱合成法による圧電性多結晶膜の成膜と超音波トランスデューサへの応用
 専門分野：超音波工学、制御システム、電子機能システム、応用物理、人間工学
 前職：東京工業大学大学院 研究員、東京大学大学院 特任助教
 学内役職等：
 留学：University of Southern California (USA) (2009年11月～2010年10月)
 資格：第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：2003年度材料技術研究協会学生論文賞(2003年)
 第25回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム奨励賞(2004年)
 平成21年度 コニカミノルタ画像科学奨励賞 (2009年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
実験系授業における教材	2011年4月～現在	工学ワークショップ、基礎工学実験、医用工学実験における各授業での教材の作成と資料配付
第2種ME試験対策用教材	2012年4月～現在	試験対策用に勉強期間を設定し、8種類の資料作成と配布
物理学、電気工学、人間工学におけるそれぞれの教材	2013年4月～現在	前期後期共に、各授業15回分の授業における教材資料の作成と配付

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本音響学会、精密工学会、日本超音波医学会、電子情報通信学会、応用物理学会、材料技術研究協会、IEEE、MRS	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年8月～現在	NPO法人健康福祉工学会 理事
2014年4月～現在	材料技術研究協会 理事
2014年4月～現在	麗澤会 常任理事

奥 知 子 (おく ともこ) 専任講師 (2018年度 新任教員)



出 生 年 : 1983(昭和58)年
在 籍 籍 : 2018(平成30)年4月～
最 終 学 歴 : 桐蔭横浜大学大学院工学研究科医用工学専攻修士課程
修了
学 位 位 : 工学修士
学 位 論 文 : 「有限要素法(FEM)による血液透析患者のシャント音の発
生メカニズムに関する理論検討」(修士論文)

専 門 分 野 : 臨床工学、生体機能代行装置学
前 職 : 戸田中央医科グループ 医療技術部 医療法人社団武蔵
野会TMG宗岡中央病院 臨床工学科
学 内 役 職 等 :

留 学 :
資 格 : 臨床工学技士、臨床ME専門認定士、透析技術認定士、3
学会合同呼吸療法認定士、医療情報機器コミュニケーター
(MDIC)、医療情報技師、透析技能検定2級合格、第1種ME
技術実力検定試験合格、第2種ME技術実力検定試験合格

非 常 勤 講 師 :
受 賞 ・ 表 彰 :

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本臨床工学技士会

本橋由香（もとはし ゆか）専任講師



出生年：1982(昭和57)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科医用工学専攻博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：生体音の時間-周波数解析に基づく非侵襲診断方法に関する研究ーバスキュラーアクセス及び嚥下機能評価への適応ー
 専門分野：生体計測、臨床工学
 前職：桐蔭横浜大学職員
 学内役職等：
 留学：
 資格：第2種ME技術実力検定試験合格(2002)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：桐蔭工学会賞(2007)
 2011年度ものづくり技術交流会 ポスター賞
 2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会 コメディカル賞
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会 第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 2016年日本人工臓器学会 第54回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 第32回ライフサポート学会大会,第16回日本生活支援工学会大会,日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016 若手プレゼンテーション賞
 2017年日本人工臓器学会 第55回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション 優秀賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
第2種ME技術実力検定試験合格に向けた学習促進および合格者増加のためのプログラム	2017年4月～	臨床工学技士国家試験および第2種ME技術実力検定試験対策として、主に担当学年(2017年度3年次学生)のモチベーション向上および実力養成を目的としたプログラムを企画・運営している。毎月1回の模擬試験実施に加え、新たに自己分析シートを導入した。そして、学生自身が作成した模擬試験結果に対する自己分析シートに沿って個別相談を実施し、学習項目の抽出や進捗状況などを把握することで各種資格試験対策を充実させている。

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略
昨年度に引き続き、体外循環、血液浄化部門において直面する様々な問題の解決を目指した新しいデバイスの開発および理論解析等を実施した。研究成果はこれまでと同様に日本人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本音響学会、日本生体医工学会、桐蔭医用工学国際シンポジウム等で報告した。特に、血液透析用留置針の最適形状に関する研究については、昨年度の第54回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスターセッション優秀賞に続き、今年の第55回日本人工臓器学会大会においても萌芽研究ポスターセッション優秀賞を受賞し、この分野において高い評価を受けていることを実感することができた。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
高設定流量でも実流量との乖離がない留置針の実現を目的とした側孔配置の実験的検討	共著	2017年6月15日	人工臓器 46巻 1号 第54回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスター発表優秀賞受賞レポート	田口友樹、山内 忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三	39頁
(学術論文)					
A Study of the effects of side holes in indwelling needle for hemodialysis using computational fluid dynamis	共著	2017年6月15日	桐蔭論叢 第36号	Naoya Shimazaki, Noriaki Nakane, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi	175-180頁
血液透析用留置針の側孔が脱血特性に及ぼす影響に関する数値流体力学に基づく理論検討	共著	2018年3月1日	医工学治療 Vol.30 No.1	島崎直也、中根紀章、山内忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三	41-52頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
炭酸飲料の温度や炭酸強度が嚥下機能改善に及ぼす効果に関する定量的評価の試み	2017年4月7～9日	日本医工学治療学会第33回学術大会 くにびきメッセ	可児雅弥, 古滝莉加, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三, 高橋常男		
設定流量と実流量間の乖離を低減することを目的とした17G留置針の形状最適化に関するCFD解析	2017年4月7～9日	日本医工学治療学会第33回学術大会 くにびきメッセ	島崎直也, 中根紀章, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
正規化相互相関係数と基準化持続時間によるVA機能モニタリング	2017年6月16～18日	第62回日本透析医学会学術集会・総会 パシフィコ横浜	本橋由香 , 井上周杜, 佐々木一真, 望月幹也, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
粒子画像流速測定法を用いた血液透析用留置針内の流れの可視化	2017年6月16～18日	第62回日本透析医学会学術集会・総会 パシフィコ横浜	山内 忍, 荒井大輔, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
回路内凝固の進展を模擬するための凝固塊発生装置と血流音変化のモニタリング	2017年6月16～18日	第62回日本透析医学会学術集会・総会 パシフィコ横浜	佐藤敏夫, 塩田卓也, 山内 忍, 本橋由香 , 阿岸鉄三		
血液透析中の血液色変化の連続モニタリングによる血液凝固検出の試み	2017年6月16～18日	第62回日本透析医学会学術集会・総会 パシフィコ横浜	佐藤敏夫, 太田祥平, 山内 忍, 本橋由香 , 阿岸鉄三		
「回路内血液の色調変化の定量評価に基づく回路内血液凝固の非侵襲検出」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	太田祥平, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
「血液回路内凝固の早期検出を目的とした回路内血流音変化の定量的モニタリング」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	塩田卓也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
「高設定流量を確保できる留置針の最適形状の提案を目的とした数値流体力学解析の試み」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	島崎直也, 中根紀章, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		

「バスキュラーアクセス音から求められる正規化相互相関係数と基準化持続時間によるVA機能評価」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	井上周杜, 佐々木一真, 望月幹也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「回路内を循環する血液の吸光係数の連続モニタリングによる回路内凝固の非侵襲的検出の試み」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	坂元英雄, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「嚙下音の時間-周波数分析に基づく嚙下機能評価に適した加速度センサの選定」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	可児雅弥, 古滝莉加, 望月勇太, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三, 高橋常男
「嚙下音のウェーブレット変換に基づく官能評価の試み」	2017年9月15日～17日	第33回ライフサポート学会大会、第17回日本生活支援工学会大会、日本器械学会福祉工学シンポジウム2017	可児雅弥, 古滝莉加, 望月勇太, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三, 高橋常男
「血液透析患者のシャント音分析によるバスキュラーアクセス機能評価の試み」	2017年9月25日～27日	日本音響学会 2017年秋季研究発表会 愛媛大学 城北キャンパス	佐々木一真, 本橋由香 , 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「側副血行路を模擬した分岐型擬似血管狭窄モデルを用いたバスキュラーアクセス機能評価方法の検討」	2017年10月22日	第2回神奈川県臨床工学会 かながわ労働プラザ(神奈川県横浜市)	井上周杜, 佐々木一真, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「維持透析患者の誤嚥性肺炎の予防を目的とした新しい嚙下機能評価方法の検討」	2017年10月22日	第2回神奈川県臨床工学会 かながわ労働プラザ(神奈川県横浜市)	古滝莉加, 可児雅弥, 望月勇太, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三, 高橋常男
Theoretical examinations using computational fluid dynamics to investigate blood removal characteristics of indwelling needles for hemodialysis with consideration of the effects of side holes	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Naoya Shimazaki, Daiki Nakayama, Noriaki Nakane, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Basic study on visualization of flow through tip of thin indwelling needles for hemodialysis using particle image velocimetry	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Daisuke Arai, Tomohiro Masaya, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Study on the optimal wavelength for detecting intracircuit coagulation with optical sensors	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Haruka Furukawa, Hideo Sakamoto, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Study on optimal single swallowing dose for assessing swallowing function by analyzing swallowing sounds	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Rika Furutaki, Masaya Kani, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Attempt to increase the sensitivity of vascular access function evaluation with normalized cross-correlation coefficient and normalized duration time	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shuto Inoue, Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Investigation of the application possibility of a swallowing sound analyzer to sensory evaluations	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kani Masaya, Rika Furutaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

Basic study on the use computational fluid dynamics to optimize the shape of indwelling needle tip for hemodialysis	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Marina Miyata, Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Examination about the difference in shunt murmurs by the change in stenosis rate using the numerical computation	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Noriaki Nakane, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Study on improving the resolution of sensors that detect blackening in intracircuit blood	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shohei Ohta, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Continuous monitoring of temporal changes in blood absorption coefficient to detect intracircuit coagulation	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hideo Sakamoto, Haruka Furukawa, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Early detection of intracircuit coagulation with a blood clot generator and quantitative monitoring of blood flow sounds	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Takuya Shioda, Daiki Nakayama, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
正規化相互相関係数と基準化持続時間のモニタリング併用による高感度VA機能評価の試み	2018年3月16～18日	日本医工学治療学会第34回学術大会、大宮ソニックシティ(埼玉県大宮市)	佐々木一真、井上周杜、望月幹也、山内 忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三
数値流体力学(CFD)解析を用いた留置針の脱血特性に及ぼす側孔の影響に関する理論検討	2018年3月16～18日	日本医工学治療学会第34回学術大会、大宮ソニックシティ(埼玉県大宮市)	島崎直也、宮田茉莉奈、 本橋由香 、山内 忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三
嚙下音の時間-周波数解析に基づく非侵襲かつ定量的な新しい摂食・嚙下機能評価方法	2018年3月16～18日	日本医工学治療学会第34回学術大会、大宮ソニックシティ(埼玉県大宮市)	古滝莉加、可児雅弥、望月勇太、山内 忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三、高橋常男
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「第55回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション 優秀賞」(演題題目)高設定流量を確保できる留置針の最適形状の提案を目的とした数値流体力学解析の試み	2017年9月1日～3日	日本人工臓器学会 将来計画・学会活性化委員会 法政大学 市ヶ谷キャンパス	島崎直也、中根紀章、山内 忍、 本橋由香 、佐藤敏夫、阿岸鉄三
III 学会等および社会における主な活動			
所属学会等団体の名称			
日本透析医学会、日本医工学治療学会、日本医療機器学会、日本人工臓器学会、日本音響学会			

山内 忍 (やまうち しのぶ) 専任講師



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程医用工学専攻
 学位：博士(工学)
 学位論文：血液透析用留置針内の圧力分布測定に基づく側孔の最適化に関する研究

 専門分野：臨床工学、生体機能代行装置学
 前職：日本工学院専門学校臨床工学科
 学内役職等：
 留学：
 資格：臨床工学技士、透析技術認定士、呼吸療法認定士、第2種ME技術実力検定試験合格

 非常勤講師：
 受賞・表彰：2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会 コメディカル賞
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会 第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 2016年日本人工臓器学会 第54回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 第32回ライフサポート学会大会, 第16回日本生活支援工学会大会, 日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016 若手プレゼンテーション賞

 2017年日本人工臓器学会 第55回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション 優秀賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
第2種ME技術実力検定試験合格に向けた学習促進および合格者増加のためのプログラム	2017年4月～	臨床工学技士国家試験および第2種ME技術実力検定試験対策として、主に担当学年(2017年度1年次学生)のモチベーション向上および実力養成を目的としたプログラムを企画・運営している。毎月1回の模擬試験実施に加え、新たに自己分析シートを導入した。そして、学生自身が作成した模擬試験結果に対する自己分析シートに沿って個別相談を実施し、学習項目の抽出や進捗状況などを把握することで各種資格試験対策を充実させている。

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略
昨年度に引き続き、体外循環、血液浄化部門において直面する様々な問題の解決を目指した新しいデバイスの開発および理論解析等を実施した。研究成果はこれまでと同様に日本人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本音響学会、日本生体医工学会、桐蔭医用工学国際シンポジウム等で報告した。特に、血液透析用留置針の最適形状に関する研究については、昨年度の第54回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスターセッション優秀賞に続き、今年の第55回日本人工臓器学会大会においても萌芽研究ポスターセッション優秀賞を受賞し、この分野において高い評価を受けていることを実感することができた。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
高設定流量でも実流量との乖離がない留置針の実現を目的とした側孔配置の実験的検討	共著	2017年6月15日	人工臓器 46巻 1号 第54回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスター発表優秀賞受賞レポート	田口友樹、 山内 忍 、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	39頁
(学術論文)					
“A Study of the effects of side holes in indwelling needle for hemodialysis using computational fluid dynamis”	共著	2017年6月15日	桐蔭論叢 第36号	Naoya Shimazaki , Noriaki Nakane, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi	175-180項
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
炭酸飲料の温度や炭酸強度が嚥下機能改善に及ぼす効果に関する定量的評価の試み	2017年4月7～9日	日本医工学治療学会第33回学術大会 くにびきメッセ	可児雅弥, 古滝莉加, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三, 高橋常男		
設定流量と実流量間の乖離を低減することを目的とした17G留置針の形状最適化に関するCFD解析	2017年4月7～9日	日本医工学治療学会第33回学術大会 くにびきメッセ	島崎直也, 中根紀章, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
正規化相互相関係数と基準化持続時間によるVA機能モニタリング	2017年6月16～18日	第62回日本透析医学会学術集会・総会 パシフィコ横浜	本橋由香, 井上周杜, 佐々木一真, 望月幹也, 山内 忍 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
粒子画像流速測定法を用いた血液透析用留置針内の流れの可視化	2017年6月16～18日	第62回日本透析医学会学術集会・総会 パシフィコ横浜	山内 忍 , 荒井大輔, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
回路内凝固の進展を模擬するための凝固塊発生装置と血流音変化のモニタリング	2017年6月16～18日	第62回日本透析医学会学術集会・総会 パシフィコ横浜	佐藤敏夫, 塩田卓也, 山内 忍 , 本橋由香, 阿岸鉄三		
血液透析中の血液色変化の連続モニタリングによる血液凝固検出の試み	2017年6月16～18日	第62回日本透析医学会学術集会・総会 パシフィコ横浜	佐藤敏夫, 太田祥平, 山内 忍 , 本橋由香, 阿岸鉄三		
「回路内血液の色調変化の定量評価に基づく回路内血液凝固の非侵襲検出」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	太田祥平, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
「血液回路内凝固の早期検出を目的とした回路内血流音変化の定量的モニタリング」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	塩田卓也, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		
「高設定流量を確保できる留置針の最適形状の提案を目的とした数値流体力学解析の試み」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	島崎直也, 中根紀章, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三		

「バスキュラーアクセス音から求められる正規化相互相関係数と基準化持続時間によるVA機能評価」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	井上周杜, 佐々木一真, 望月幹也, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「回路内を循環する血液の吸光係数の連続モニタリングによる回路内凝固の非侵襲される検出の試み」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	坂元英雄, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「嚙下音の時間-周波数分析に基づく嚙下機能評価に適した加速度センサの選定」	2017年9月1日～3日	第55回日本人工臓器学会大会 法政大学市ヶ谷キャンパス	可児雅弥, 古滝莉加, 望月勇太, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三, 高橋常男
「嚙下音のウェーブレット変換に基づく官能評価の試み」	2017年9月15日～17日	第33回ライフサポート学会大会、第17回日本生活支援工学会大会、日本器械学会福祉工学シンポジウム2017	可児雅弥, 古滝莉加, 望月勇太, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三, 高橋常男
「血液透析患者のシャント音分析によるバスキュラーアクセス機能評価の試み」	2017年9月25日～27日	日本音響学会 2017年秋季研究発表会 愛媛大学 城北キャンパス	佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「側副血行路を模擬した分岐型擬似血管狭窄モデルを用いたバスキュラーアクセス機能評価方法の検討」	2017年10月22日	第2回神奈川県臨床工学会 かながわ労働プラザ(神奈川県横浜市)	井上周杜, 佐々木一真, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「維持透析患者の誤嚥性肺炎の予防を目的とした新しい嚙下機能評価方法の検討」	2017年10月22日	第2回神奈川県臨床工学会 かながわ労働プラザ(神奈川県横浜市)	古滝莉加, 可児雅弥, 望月勇太, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三, 高橋常男
Theoretical examinations using computational fluid dynamics to investigate blood removal characteristics of indwelling needles for hemodialysis with consideration of the effects of side holes	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Naoya Shimazaki, Daiki Nakayama, Noriaki Nakane, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Basic study on visualization of flow through tip of thin indwelling needles for hemodialysis using particle image velocimetry	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Daisuke Arai, Tomohiro Masaya, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Study on the optimal wavelength for detecting intracircuit coagulation with optical sensors	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Haruka Furukawa, Hideo Sakamoto, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Study on optimal single swallowing dose for assessing swallowing function by analyzing swallowing sounds	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Rika Furutaki, Masaya Kani, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Attempt to increase the sensitivity of vascular access function evaluation with normalized cross-correlation coefficient and normalized duration time	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shuto Inoue, Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Investigation of the application possibility of a swallowing sound analyzer to sensory evaluations	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kani Masaya, Rika Furutaki, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

Basic study on the use computational fluid dynamics to optimize the shape of indwelling needle tip for hemodialysis	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Marina Miyata, Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Examination about the difference in shunt murmurs by the change in stenosis rate using the numerical computation	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Noriaki Nakane, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Study on improving the resolution of sensors that detect blackening in intracircuit blood	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shohei Ohta, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Continuous monitoring of temporal changes in blood absorption coefficient to detect intracircuit coagulation	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hideo Sakamoto, Haruka Furukawa, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Early detection of intracircuit coagulation with a blood clot generator and quantitative monitoring of blood flow sounds	2017年11月11日	12th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Takuya Shioda, Daiki Nakayama, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
正規化相互相関係数と基準化持続時間のモニタリング併用による高感度VA機能評価の試み	2018年3月16～18日	日本医工学治療学会第34回学術大会、大宮ソニックシティ(埼玉県大宮市)	佐々木一真、井上周杜、望月幹也、 山内 忍 、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三
数値流体力学(CFD)解析を用いた留置針の脱血特性に及ぼす側孔の影響に関する理論検討	2018年3月16～18日	日本医工学治療学会第34回学術大会、大宮ソニックシティ(埼玉県大宮市)	島崎直也、宮田茉莉奈、本橋由香、 山内 忍 、佐藤敏夫、阿岸鉄三
嚙下音の時間-周波数解析に基づく非侵襲かつ定量的な新しい摂食・嚙下機能評価方法	2018年3月16～18日	日本医工学治療学会第34回学術大会、大宮ソニックシティ(埼玉県大宮市)	古滝莉加、可児雅弥、望月勇太、 山内 忍 、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三、高橋常男
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「第55回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション 優秀賞」(演題題目)高設定流量を確保できる留置針の最適形状の提案を目的とした数値流体力学解析の試み	2017年9月1日～3日	日本人工臓器学会 将来計画・学会活性化委員会 法政大学 市ヶ谷キャンパス	島崎直也、中根紀章、 山内 忍 、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床工学技士会、日本透析医学会、日本音響学会

宮坂 力 (みやさか つとむ) 特任教授



出生年：1953(昭和28)年
 在籍：2001(平成13)年12月～
 最終学歴：東京大学大学院工学系研究科合成化学専攻博士課程
 学位：工学博士
 学位論文：光合成初期過程の電気化学シミュレーション
 専門分野：光電気化学、環境エネルギー化学
 前職：富士写真フィルム足柄研究所主任研究員
 学内役職等：研究推進部長(2012)
 留学：カナダ・ケベック大学トアリビエール校生物物理学科
 (1979～1980)
 資格：危険物取扱甲種主任
 受賞・表彰：2002年 (財)化学技術戦略推進機構「アカデミアショーケース」
 2004年 横浜市ベンチャービジネスプランコンテスト「アカデミー賞」
 2005年 Scientific American 50 selection (2005)
 2009年 GSC(グリーンサステナブルケミストリー)・文部科学大臣賞
 2012年 日本写真学会 学術賞

II 研究活動

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
「NEDO太陽光発電システム次世代高性能技術の開発」	2010年4月～現在	受託テーマ「フィルム型軽量低価格色素増感太陽電池の研究開発」、産学連携型
「有機無機ハイブリッド太陽電池の高効率化開発」	2013年10月～現在	科学技術振興機構(JST)、先端的低炭素化技術開発(ALCA)による研究助成、代表:桐蔭横浜大学(担当:宮坂力)
「有機金属のメソ構造体ハイブリッド化による物質変換と高機能化」	2014年4月～2019年度	科学研究費補助金・基盤B 研究助成

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、電気化学会、光化学協会、高分子学会、アメリカ電気化学会、MRS (Material Research Society)、写真学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2004年4月～現在	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 技術委員(若手研究ナノテクノロジー分野評価委員)
2009年4月～現在	(独)科学技術振興機構(JST) 国際科学技術協力推進委員、審査委員
2010年4月～現在	研究開発支援プログラム(FIRST) サブテームリーダー
2010年4月～現在	(社)電気化学会評議員
2012年～現在	日本学術振興会、科学研究補助金評価委員

スポーツ健康政策学部 (Faculty of Culture and Sport Policy)

スポーツ教育学科 (Department of Sport Education)

佐藤 豊(さとう ゆたか) 教授



出生年 : 1962(昭和37)年
在籍 : 2016(平成28)年4月～
最終学歴 : 横浜国立大学大学院教育学研究科修士課程修了

学位 : 教育学修士
学位論文 : 「高等学校における野外教育プログラムの効果及び評価について(横浜国立大学:教修第1930号)」(修士論文)
専門分野 : 体育科教育学、スポーツ教育学、野外教育学
前職 : 鹿屋体育大学スポーツ人文応用社会科学系教授
学内役職等 : 教職センター長、スポーツ教育学科学科長
留学 :
資格 : 高等学校(保健体育)専修教員免許状
中学校(保健体育)一種教員免許状
学校心理士(学校心理士認定運営機構第72333号)

非常勤講師 :
受賞・表彰 : 2018東アジアスポーツ教育学会ポスター発表最優秀賞
体づくり運動アプリの小学校体育での導入効果(セカンド)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
単元構造図方式によるユニットプラン作成ツールを用いたグループワークによる演習授業	2009～現在	学習指導に際しての俯瞰力および観点別学習評価理解のための演習ツールを開発し、大学、現職教員研修で実施、改良を図っている。
体づくり運動授業用アプリを用いたICT活用の効果的授業の模擬授業演習	2012～現在	一斉指導、個別指導、学習評価を踏まえたアプリを開発し、モデル校における研究成果を学会等で公表した。
単元計画、模擬授業、中学校授業演習、ビデオ省察の繰り返しによる実践的指導力の育成カリキュラム	2013～現在	教育実習前の実践的指導力育成のためのカリキュラムを開発し、大学紀要で成果を公表した。
大学版単元構造図の開発と、資質・能力評価シートの開発	2013～現在	カリキュラムポリシーに基づく15時間のユニットプラン(観点別学習評価計画)と効率的・効果的な評価シートの開発
2.作成した教科書、教材、参考書		
佐藤豊 編著、平成29年度版 中学校新学習指導要領の展開 保健体育編, 明治図書, 2017	2017.4	新しい学習指導要領の考え方、授業展開についてまとめ、編著を行った。
桐蔭横浜大学教育実習指導ハンドブック	2017.5	教育実習の際の指導のための参考資料として、神奈川県、横浜市、長崎市など飲む先進的事例について情報をまとめ巡回指導用のハンドブックを作成した。

II 研究活動

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
教師養成、現職教員の協働によるアクション・ラーニング研修プログラムの開発	2015年4月～2019年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)基礎研究B(15H0364)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
Ieaspep(国際スポーツ教育学会)、日本体育学会、日本体育科教育学会、日本野外教育学会、日本体操学会、日本学校心理士会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2012年～	日本スポーツ教育学会理事
2015年～2018年	学習指導要領解説 高等学校保健体育作成協力者副主査
2015年～	日本アンチドーピング機構(JADA) スポーツの価値を基盤とした教育推進協力者
2017年～	日本スポーツ振興センター スポーツ事故防止対策協議会委員
2011年～	毎日新聞社中学校体力づくりコンテスト審査委員
2012年～	長崎県武道等推進委員会(座長)
2012年～	富山県中学校教育課程研究大会 授業力向上アドバイザー
2017年～	神奈川県立麻生総合高等学校、神奈川県立綾瀬西高等学校評議員
2017年～	神奈川県立麻生総合高等学校、神奈川県立綾瀬西高等学校評議員

松原 静郎 (まつばら しずお) 教授



出生年：1951(昭和26)年2月
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京都立大学大学院理学研究科修士課程(化学専攻)修了
 学位：理学修士
 学位論文：「鉄-57およびスズ-119を含む化合物のメスバウアー分光学的研究」(修士論文)
 専門分野：科学教育、化学教育
 前職：国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官
 学内役職等：スポーツ教育学科長 (2016～2018)
 留学：オーストラリア教育研究所(オーストラリア) (1985.8-1986.6)
 資格：中学校教諭一級普通免許状(理科), 高等学校教諭二級普通免許状(理科)
 非常勤講師：首都大学東京 理学部
 青山学院大学 教育人間科学部
 受賞・表彰：日本科学教育学会「科学教育研究奨励賞」受賞 (1988年7月)
 日本科学教育学会「年会発表賞」受賞(2007年8月)
 日本化学会「化学教育賞」受賞(2010年3月)
 日本科学教育学会「功労賞」受賞(2017年8月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
組立ブロックによる表現力育成に関する活動	2009年4月～現在	組立ブロックを用いて組み立てた形を、絵や文字で示し、他の人がそれを読んで同じものを再現する活動を行った。自分の表現方法を評価するとともに、再現に重要な点を確認した。重要な点は、科学におけるレポートの記載にも通じると考えている。
学生主導型授業	2015年4月～現在	4人班の中で学生が教師役を順次担当し、小学校理科の内容を教師役学生が授業日以前の昼休み2回を使って予備学習・予備実験をし、授業時には教師役学生が各班3人の児童役学生対象に授業を進めていく。プリント等の作成および指導の仕方は各教師役学生が工夫する。
2.作成した教科書、教材、参考書		
持続可能な発展に関する教材(プリント)	2008年4月～現在	持続可能な発展を目指した科学技術のあり方について、発電を題材として考察する。水力発電から火力発電、原子力発電、新エネルギーへと発電方法が広がっていく過程を知ること、その過程がそれぞれの発電の問題点を積極的に解決していく努力によるものであることを理解し、自らの判断・意思決定や活動について考察していくとともに、次世代のことも考慮に入れる必要性について理解する。
理科の世界(大日本図書;文部科学省検定済中学校理科教科書)	2012年～現在	第一分野の「粒子」を柱とした内容に関して、構成、プロット、観察、実験活動、解説など、全般にわたって関与している。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
東京都福生市立第一小学校「東京都教育委員会学力ステップアップ推進地域指定事業」福生市	2017年9月6日	研究授業に対する指導講評と「理科での予想し表現する力Ⅱ」と題して、理科での実験におけるモデル構築、特に実験の計画について講演した。

4.その他教育活動上特記すべき事項		
日本科学教育学会「功労賞」受賞	2017年8月30日	学会の管理・運営を通じた学会活動の充実・発展への寄与に対して贈呈する。

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略

科学研究費による次の研究を中心に進めた。(1) モデル化学習を、探究的な学習を主体的に行っていく活動にするために必要な問題解決の過程を定型とし、多くの生徒が扱える実験活動の場をつくっていく学習と捉え、モデル構築の基本項目とその要素(着目、導出、前提)から化学実験を計画する実践を通して、生徒に方針を立てさせ、教師が方針を生かした具体的な方法を提示した。その結果、学級の2/3程度の生徒が自分の考えから筋道を立てて実験の計画を立てることができ、実験を計画する活動は実践可能であり、意義があることが明らかになった。(2) 持続発展SD教材としてのPETボトル教材は、その実践から、SDの概念や3Rの重要性とともに身近なペットボトルに込められた様々な工夫や歴史を知り、ペットボトルの改良や問題点の解決のために行ってきた科学者や技術者の努力などを理解し、学ぶことの意味を見だし生徒自らが積極的に学ぼうとする意欲を高める効果が認められた。また、生徒が立案した実験計画で行う授業に生徒主導型授業PIEを導入したことで、生徒はPIEが普通の授業より有効とし、友達にわかりやすく説明するための試行錯誤が知識の定着に繋がると認識していた。(3) 実験教材では、空気電池を用いた高橋式酸素センサが教材会社3社から商品化されるとともに実験教材例を含む活用教本も市販された。第9回国際マイクロスケール実験シンポジウム2017(東北大学, 8月7日)において視覚障害者の教材開発について発表を行った。(4) アジア諸国との協働研究では、わが国で第8回国際ワークショップIWS-8が9月の拡大研究会と同時開催された。韓国、マレーシア、フィリピンから教育関係者6名が参加し、この1年間に進めてきた主にPETボトル教材に関する調査研究についての報告があり、意見の交換をした。そのほか、前年度に引き続いて小学校理科教科書分析をはじめ、生活科教科書分析、化学のタブレット使用型試験についての検討を行った。

○著書・論文等

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「理科教育における体験を通じた問題解決能力の育成—第6学年「水溶液の性質」を例に—」	共著	2017年6月15日	桐蔭論叢 第36号	松原静郎、岩間淳子	95-105頁
「水中の微小生物の観察を通じた生命の実感と生命観育—オカメミジンコの観察を例に—」	共著	2017年6月15日	桐蔭論叢 第36号	岩間淳子、松原静郎	107-118頁
「生活科における身近なものを使った遊びの工夫—第2学年「おもちゃ作り」—」	共著	2017年12月15日	桐蔭論叢 第37号	松原静郎、岩間淳子	5-12頁
「生活科における植物を通じた生命と成長への気付き—第1学年「植物栽培」を例に—」	共著	2017年12月15日	桐蔭論叢 第37号	岩間淳子、松原静郎	13-20頁
「初等理科における生物多様性の理解と教育法—第3学年「昆虫」を例に—」	共著	2017年12月28日	青山学院教職研究 第4号	岩間淳子、松原静郎	45-64頁
「初等理科における問題解決能力の育成と教育法—第4学年「電気の働き」を例に—」	共著	2017年12月28日	青山学院教職研究 第4号	松原静郎、岩間淳子	65-81頁
「理科デジタル教科書のニーズと可能性—指導主事へのアンケート・授業視察・インタビュー調査から—」	共著	2018年2月28日	東京理科大学教職教育研究 第3号	山下修一、鳩貝太郎、大辻永、後藤顕一、松原憲治、松原静郎	47-59頁
「初等理科における生命の連続性の理解と教育法—第5学年「動物の誕生(魚)」を例に—」	共著	2018年3月20日	青山学院教職研究 第5号	岩間淳子、松原静郎	59-77頁
「初等理科における問題解決能力の扱いと教育法—第6学年「てこの規則性」を例に—」	共著	2018年3月20日	青山学院教職研究 第5号	松原静郎、岩間淳子	79-94頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「理科教科書に見る問題解決能力育成の扱い—第4学年「電気の働き」—」	2017年8月5日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第15号、204頁、 第67回全国大会(福岡教育大 学)	松原静郎、岩間淳子
「物理教材・教育法」座長	2017年8月5～6日	日本理科教育学会全国大会、 第67回全国大会 (福岡教育大学)	-
「モデル化学習をとり入れた実験計画を立てる 学習の改善—中学校2年生「木炭の燃焼」の 実践を通して—」	2017年8月6日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第15号、431頁、 第67回全国大会(福岡教育大 学)	宮内卓也、寺谷敏介、松原憲治、 松原静郎
「生徒がプロデュースする化学の実験と授業 —アクティブラーニングの視点からの授業改善 2—」	2017年8月6日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第15号、350頁、 第67回全国大会(福岡教育大 学)	高野裕恵、松原静郎
「小学校理科における生命及び生命の連続性 の理解—第5学年「動物の誕生(魚)」—」	2017年8月6日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第15号、443頁、 第67回全国大会(福岡教育大 学)	岩間淳子、松原静郎
“Developing Views of Life through Nature- Based Experiences and Experience on Living Things”	2017年8月21～25 日	European Science Education Research Association, reference book p.80, ESERA 17 Conference, Dublin City University	Junko Iwama, Tatsushi Kobayashi, Taro Hatogai and Shizuo Matsubara
「化学のタブレット型試験の開発とモニター調 査(1)」	2017年8月29日	日本科学教育学会年会論文 集第41号、105-106頁、日本 科学教育学会第41回年会(サ ンポート高松)	山下卓弥、柳澤秀樹、林誠一、松 原静郎、笹尾幸夫、寺谷敏介、鮫 島朋美、石川朝洋、安野史子
「化学のタブレット型試験の開発とモニター調 査(2)」	2017年8月29日	日本科学教育学会年会論文 集第41号、107-108頁、日本 科学教育学会第41回年会(サ ンポート高松)	柳澤秀樹、山下卓弥、林誠一、松 原静郎、笹尾幸夫、寺谷敏介、鮫 島朋美、石川朝洋、安野史子
「タブレット使用型試験モニター調査における 質問紙(化学)の結果」	2017年8月29日	日本科学教育学会年会論文 集第41号、109-110頁、日本 科学教育学会第41回年会(サ ンポート高松)	松原静郎、山下卓弥、柳澤秀樹、 林誠一、笹尾幸夫、寺谷敏介、鮫 島朋美、石川朝洋、安野史子
「視覚障害者における音声化と触知化による 理科教材開発」	2017年10月14日	日本理科教育学会北海道支 部大会(北海道教育大学釧路 校、釧路市)	高橋三男、小坂敏文、羽田宜弘、 川島徳道、後藤頭一、松原静郎
「視覚障害者の測定実験を支援するための教 材開発」	2018年3月22日	日本化学会第98春季年会(日 本大学理工学部船橋キャンパ ス、船橋市)	高橋三男、羽田宜弘、川島徳道、 後藤頭一、松原静郎
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
東京都教育委員会学カステップアップ推進地 域指定事業での研究授業に対する指導助言 及び講演	2017年9月6日	東京都福生市立第一小学校 「東京都教育委員会学カス テップアップ推進地域指定事 業」	東京都福生市立第一小学校

特別研究発表「持続発展教材としてのペットボトル教材の開発」	2017年10月27日	都道府県指定都市教育センター所長協議会化学分科会(第51回)研究協議会	福岡県福岡市・福岡リーセントホテル
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「功労賞」 (学会の管理・運営を通じた学会活動の充実・発展への寄与)	2017年8月	日本科学教育学会第41回年会	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「持続発展を題材としモデル化学習により科学知の活用と探究能力を育成する国際協働研究」	2014年4月～2018年3月	科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号26282040) 研究代表者	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
European Science Education Research Association (ESERA 2017)参加	2017年8月19日～26日	Dublin City University(アイルランド)	
(その他特記事項)			
Eighth International Workshop of Science Education for Sustainable Developmentの開催(University of Philippines, Philippine Normal University, University of Malaya, 韓国晋州教育大学等より外国人研究者及び教育関係者6名参加) 2017年9月8-11日			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本化学会、日本科学教育学会、日本理科教育学会、日本生活科・総合的学習教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2016年1月～2017年9月	第23期日本学術会議 科学と社会委員会 科学力増進分科会 高校理科教育検討小委員会委員
2007年4月～現在	日本理科教育学会 評議員
2013年4月～現在	公益財団法人 教科書研究センター 特別研究員
2013年4月～現在	公益財団法人 教科書研究センター 教科書・教材のデジタル化に関する調査研究 企画運営部会及び理科部会 委員
2015年12月～2017年11月	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員

松 本 格之祐 (まつもと かくのすけ) 教授



出 生 年 : 1952(昭和27)年
 在 籍 籍 : 2008(平成20)年4月～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学 位 位 : 修士(体育学)
 学 位 論 文 : 小学校体育授業における仲間づくりの可能性の検討ーチャレンジ運動とボール運動の授業実践を通してー
 専 門 分 野 : 体育科教育学
 前 職 職 : びわこ成蹊スポーツ大学教授
 学 内 役 職 等 : スポーツ健康政策学部学部長(2016～)
 留 学 学 :
 資 格 格 : 保健体育教諭専修免許(中学、高校)
 非 常 勤 講 師 : 桜美林大学
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
模擬授業における授業評価、授業分析のフィードバック	2005年～現在	学生の模擬授業における形成的授業評価、期間記録等による授業の振り返り
マイクロティーチングの導入	2007年～現在	教材と場面が決められた短い時間での指導の経験。全員が指導の経験が可能。
2.作成した教科書、教材、参考書		
小学校・保健教科書の執筆	2011年～	小学校・保健6年の教科書「地域の保健活動」(学研)の執筆。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
三重県教育委員会主催 「三重県・小学校元気アップ研修会」講師	2017年7月24日	三重県鈴鹿地区の小学校から参加された38名の先生方に対して2時間の器械運動の実技講習を担当した。
島根県小学校体育研究会主催 「第28回・島根県小学校体育授業研修会」講師	2017年7月27日	6年生・25名を対象にマット運動の授業を行い、授業後に本時の授業およびマット運動の指導について解説。150名が参加。
島根県教育委員会主催 「平成29年 幼児期からの運動・体力向上指導者講習会」講師	2017年7月28日	主に幼稚園教諭・保育園指導者・小学校教諭を対象に半日の講習を担当。95名が参加。
筑波学校体育研究会主催 「平成29年度夏期研修会」講師	2017年8月1日	小学校の先生方160名に対して、器械運動「マット運動」の実技講習・3時間を担当した。

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略
<p>本年3月に小学校・中学校の学習指導要領の改訂された。それに伴って、目標・内容・方法・評価について再検討が求められている。この時に、不易と流行という視点で体育授業のあり方を振り返ってみた。特に、体づくり運動・器械運動について検討し、原稿や講演、実技講習で発信し、大学の授業でも学生に伝えてきた。来年度は高校の学習指導要領の開示が予定されているが、ここしばらくは先述のような活動を継続することになろう。</p>

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
絶対成功の「体育授業開き できる教師が子どもを見抜くワザ・ 器械運動	単著	2017年4月号	楽しい体育の授業 No.331 明治図書		P25-27
答申から読み解く！体育で育みたい 資質・能力「知識・技能」を育む ポイント	単著	2017年5月号	楽しい体育の授業 No.332 明治図書		P61-12
我が国における各教科のデジタル 教科書の活用及び開発に関する 総合的調査研究 研究成果報告 書) Ⅱ章 3-10 体育・保健体育 3-10-1体育	単著	2017年6月30日	公益財団法人教科書 研究センター 平成26年～平成28年 度科学研究費助成事業 研究成果報告書(課 題番号26285184)	研究代表者・伊勢呂裕史	P187-192
新学習指導要領でマット運動・跳び 箱運動はこう変わる！	単著	2018年2月号	楽しい体育の授業 No.341 明治図書		P38-39

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
三重県教育委員会主催 「三重県・小学校元気アップ研修会」講師	2017年7月24日	三重県教育委員会	三重県鈴鹿市東旭が丘5丁目3番 18号 三重県鈴鹿市立旭が丘 小学校
島根県小学校体育研究会主催 「第28回・島根県小学校体育授業研修会」講 師	2017年7月27日	島根県小学校体育研究会 体育授業研修会	島根県大田市立大田大田町大田 イ590 島根県大田市立大田小 学校
島根県教育委員会主催 「平成29年 幼児期からの運動・体力向上指 導者講習会」講師	2017年7月28日	島根県教育委員会 平成29年 幼児期からの運 動・体力向上指導者講習会	島根県出雲市大社町北荒木 1860-10 島根県立浜山公園体 育館カミアリーナ
筑波学校体育研究会主催 「平成29年度夏期研修会 器械運動」実技講 師	2017年8月1日	筑波学校体育研究会 夏期研修会	東京都文京区大塚3-29-1 筑波大学附属小学校
体育の授業づくり(講演) 「体づくり運動」(5年生への授業指導)	2017年11月24日	宮崎県綾町立綾小学校 校内研究会	宮崎県東諸郡綾町大字南俣 2811 宮崎県綾町立綾小学校
器械運動の実技指導	2018年2月13日	高知市立横浜小学校 校内研究会・実技講習会	高知県高知市瀬戸東町1-26 高知市立横浜小学校
川崎市立片平小学校・校内研究会 器械運動(実技講習)講師	2018年3月1日	川崎市立片平小学校 校内研究会	神奈川県川崎市麻生区片平5- 28-1 川崎市立片平小学校

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
初等教育研究会、筑波学校体育研究会、日本スポーツ教育学会、体育授業研究会、日本体育学会、日本体育科教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2014年4月～現在	研筑波学校体育研究会理事

宮津大蔵 (みやづ だいぞう) 教授



出生年：1959(昭和34)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京学芸大学教育学部卒業
 学位：
 学位論文：
 専門分野：国語科教育学
 前職：東京都公立小学校教諭
 学内役職等：大学情報センター長(大学図書館長)
 留資格：
 非常勤講師：東京家政学院大学現代生活学部(国語科教育)
 淑徳大学人文学部兼任講師(文章表現論)
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
小学校国語教科書(学校図書) 小学校国語音声言語教材台本 小学校国語教師用指導所 小学校教科書単元別到達目標と評価規準 国語 (日本標準)	2005年度版～現在	教科書改訂に伴う執筆、編集。説明文教材の執筆、「聞く・話す」教材の執筆、言語教材の開発、文学教材の選定など小学校国語科の全ての分野、全ての学年の教材開発に携わっている。 教師用指導書音声編の台本を執筆する。解説書に収録内容を解説し、学習目標を設定し、発展的な学習活動例を開発する。
(1)ソーシャルスキルワークの授業実践開発 (2)みんなと学ぶ小学校国語教科書1～6年(学校図書) (3)みんなと学ぶ小学校国語教師用指導書1～6年(学校図書) (4)学校教科書単元別・到達目標と評価規準<国語> (5)みんなと学ぶ小学校国語CD教師用指導書音声編 (6)文部科学省後援事業 日本語検定公式練習問題集改訂版6級 (7)小学校国語指導資料 新しい学力観に立つ国語科の授業の工夫 文部省	2005年度版～現在	

3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
<p>(1)「読書指導と図書館利用指導」神奈川県総合教育研究センター自己研鑽のための研修講座講師</p> <p>(2)小田原市教育研究会国語部講演講師「論理性を育てる」</p> <p>(3)成城学園初等学校初任者研修会講演講師 国語「修飾語」</p> <p>(4)東京都武蔵村山市教育研究会講演講師「アクティブラーニングで読む国語科説明文の授業・学校図書館を活用して」</p> <p>(5)平成20～27年度「世田谷9年教育」研究課題校「読書力の育成」</p> <p>(6)神奈川県座間市教育課程等研究推進委託事業座間市立東原小学校研究発表会記念講演講師「国語表現力の育成」</p> <p>(7)平成26・27年度「世田谷9年教育」研究開発校「学校図書館の活用」世田谷区立玉川小学校研究発表会講演講師</p> <p>(8)静岡県田方地区教育研究会夏季研修会講演講師「新しい国語科の展開と学校図書館」</p> <p>(9)東京都東村山市教育委員会研究奨励校・東京都言語能力向上拠点校研究校北山小学校研究発表会講演講師「自分の考えをもち、深める児童の育成。～国語 単元を貫く言語活動を通して～」静岡県伊東市教育研究会講演講師「学習指導要領における国語科指導のポイント」講演講師「正しい日本語の使い方」富山県立山町教育委員会、国立立山自然少年の家静岡県東伊豆地区(熱海市・伊東市)教科等指導リーダーによる国語授業研究会講師神奈川県座間市教育課程等研究推進委託事業座間市立東原小学校研究発表指導・講演講師</p>		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
<p>日本国語教育学会、日本演劇学会、日本教材学会、東京学芸大学国語教育学会、日本教育方法学会、図書館情報学会相模原市小中学校PTA連絡協議会家庭教育事業講演会講師『ツカメン！お父ちゃんたちの宝塚』にみる子育て術～子どもたちがたくましく育つ親の見守り方～</p>

井口 成明(いぐち なりあき) 教授 (2018年度 新任教員)



出生年：1962(昭和37)年5月28日
 在籍：2018(平成30)年4月
 最終学歴：早稲田大学大学院スポーツ科学研究科前期課程修了
 学位：スポーツ科学修士
 学位論文：東京大学教育学部附属中等教育学校における体育授業の試み—生徒が学び合う体育授業の創造—
 専門分野：保健体育教育法・安全教育学・野外教育学・水泳指導法
 前職：東京大学教育学部附属中等教育学校教諭
 学内役職等：
 留学籍：中学校保健体育一種教諭
 高等学校保健体育一種教諭
 非常勤講師：
 受賞・表彰：2010年自然活動体験授業実践発表 文部大臣奨励賞受賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
スポーツ庁委託事業 「学校における」水泳事故防止必携」2018改訂版	2018年3月1日	安全のための管理・指導の組織p37～39 水泳の安全管理p51～66 飛び込みスタートの危険性とその防止p127～133を担当
第一学習社「高等学校保健体育」		制作中
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
水泳競技における飛び込みスタートの危険性と安全に配慮した段階的指導法について	2015年～	日本スポーツ振興センター 指導者セミナーで講演
4.その他教育活動上特記すべき事項		
東京都中学校水泳指導者講習会主任講師	2010～現在に至る	東京都中学校体育連盟
東京都高等学校体育連盟水泳指導研究部長	2008～2018年3月	東京都高等学校体育連盟

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略			
日本スポーツ振興センター主催 学校事故防止セミナー「学校水泳活動における危険性と安全対策について」を発表 なら100年記念館			
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
日本スポーツ振興センター主催 学校でのスポーツ事故を防ぐために	2017年9月	奈良県教育委員会	なら100年記念館

III 学会等および社会における主な活動

(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
東京都中学校水泳安全指導講習会	2010～年1回 1月に実施	東京都中学校体育連盟

林 田 はるみ(はやしだ はるみ) 教授 (2018年度 新任教員)



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2018(平成30)年4月～
 最終学歴：早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程修了

学位：博士(スポーツ科学) 人間科学修士
 学位論文：Influence of menstrual cycle and endurance exercise on stress and inflammatory markers in women(博士論文)

専門分野：応用健康科学、運動生理学、スポーツ理学療法
 前職：常葉大学健康プロデュース学部准教授
 学内役職等：

留学：ラフバラ大学(英国)(2012年5月～2013年3月)
 資格：理学療法士免許、日本スポーツ協会アスレティックトレーナー、日本スポーツ協会マスター上級コーチ(エアロビック)

非常勤講師：法政大学スポーツ健康学部
 受賞・表彰：(社)日本理学療法士協会 会長賞(1986年4月)、The

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
JSSR認定トレーナーテキスト	共著	2017年7月	(株)医学映像教育センター	林田はるみ 他7名	59-91頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(ポスター) The Influence of the Menstrual Cycle on Salivary Antimicrobial Proteins During Endurance Exercise	2017年6月3日	ACSM 64nd Annual Meeting, 8th World Congress on Exercise is Medicine® and World Congress on the Basic Science of Exercise and the Brain, Denver, Colorado	Hayashida H, Yoshida S.		
(座長) 第39回臨床歩行分析研究会定例会 特別講演2 「骨格筋の損傷と再生 - 筋肉痛は避けるべきか?」	2017年10月14日	第39回臨床歩行分析研究会定例会(常葉大学/静岡県静岡市)			
(大会長) 日本スポーツリハビリテーション学会 第7回学術大会	2018年3月4日	日本スポーツリハビリテーション学会第7回学術大会(法政大学/東京都町田市)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本理学療法士協会、日本体力医学会、国際運動免疫学会、日本スポーツリハビリテーション学会、アメリカスポーツ医学会

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2000年4月～現在	(公社)日本エアロビック連盟 指導専門委員
2010年4月～現在	日本スポーツリハビリテーション学会理事
2011年3月～現在	(公社)日本エアロビック連盟 普及指導委員
2017年4月～現在	(公社)日本エアロビック連盟 普及指導委員会委員長

李 禧 承 (い ひすん) 准教授



出 生 年 : 1973(昭和48)年
 在 籍 籍 : 2012(平成24)年4月～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院博士課程教育学研究科学校教育学専攻
 修了
 学 位 位 : 博士(教育学)
 学 位 論 文 : 学校教育におけるハイパーメディア教材の利用に関する研
 究(博士論文)
 専 門 分 野 : 教育工学、教育方法学、教育学
 前 職 : 筑波大学人間総合科学研究科外国人受託研究員
 学 内 役 職 等 :
 留 学 : 筑波大学(1997年4月～2005年3月)
 資 格 : 中等教育2級正教師資格(韓国)(教科:教育学、道徳)
 非 常 勤 講 師 : 筑波大学
 受 賞 ・ 表 彰 :

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略

新学習指導要領のキーワードとされるアクティブラーニング型授業づくりについて、教育方法学的な意味について理論的な検討を行ってきた。検討結果をまとめるにあたって、①アクティブラーニング型授業が目指す学習指導モデルを構成主義の「認知的柔軟性理論」から検討できること、②アクティブラーニング型の授業実践としてジグソー法による体育授業づくりを想定し、ICT利用可能性を検討すること、の2つのテーマとし、年度内日本教育メディア学会学会等で発表する予定である。

○その他

(海外出張)

用件	出張期間	出張先
韓国の情報教育に関する実態調査及び日本教育学会シンポ打ち合わせ	2018年3月4日～3月8日	京畿道ブコク初等学校、韓国国会図書館、キョウボ文庫、淑実女子大学

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本教育メディア学会、日本デジタル教科書学会、日本教材学会、日本教育方法学会、日本教育工学会、筑波教育学会

木村和宏 (きむら かずひろ) 准教授



出生年：1964(昭和39)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：バスケットボール競技のチーム戦術に関する一考察－世界
 トップレベルのセット・オフENSEの傾向－
 専門分野：コーチング科学、スポーツ方法学(バスケットボール)
 前職：日本体育大学運動処方研究室研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：早稲田大学オープン教育センター
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
新学習指導要領の沿ったワンダフルスポーツの改訂作業。世界最高峰のアメリカNBAチームの戦術及びゲーム視察を実施した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
バスケットボールアタッキング・ゾーンディフェンス	共著		大修館書店	加藤大仁、木村和宏	2-143頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、スポーツ方法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年10月～現在	公認バスケットボール上級コーチ

城田直彦 (しろた ただひこ) 准教授



出生年 : 1962(昭和37)年
 在籍 : 2015(平成27)年4月～
 最終学歴 : 奈良教育大学大学院教育学修士課程修了
 学位 : 教育学修士
 学位論文 : 「数学における「中1ギャップ」の要因に関する考察」(修士論文)
 専門分野 : 数学教育
 前職 : 白鳳女子短期大学
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 小学校専修免許状、中学数学専修、高校数学専修、中学英語2級、幼稚園2級
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
メールを利用した課題提出、フィードバック	2015年4月～現在	講義内に出された課題を、学生はメールで提出。学生のつまづきを次回の授業に生かす。
マイクロティーチングの導入	2015年4月～現在	教師役、児童役を決めて短時間で行う。
2.作成した教科書、教材、参考書		
小学校 算数科、中学校 数学科の教科書	2015年～現在	日本文教出版

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「算額問題に取り組む醍醐味」	単著	2018年2月	桐蔭横浜大学 スポーツ科学 第1巻	—	pp.51-56
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)「数学で何をわかるようになるべきなのか」	2017年11月19日	奈良セミナー(奈良教育大学)			
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「読み解く数学偉人伝 バスカル 一人間は(未来のことも)考える輩である」	2017年7月31日	算数・数学情報誌 ROOT Vol.20(14-15項)			

「「重さの単位キログラム」、「新聞やニュースで見かける単位」」	2017年10月1日	としょかん通信 小学生版、中・高校生版 第331号(2017.10.1)
「メートルの由来とリットルの由来」	2017年10月1日	としょかん通信 ぶらす・あるふぁ 第331号(2017.10.1)
「読み解く数学偉人伝 ネイピア ―小さくても大きいポイントの発明者―」	2017年10月31日	算数・数学情報誌 ROOT Vol.21(10-11項)
(その他特記事項)		
「21_21 DESIGN SIGHTの企画展 in 台北「単位展」の学術協力」2016年7月1日～2017年9月16日、台北、松山文創園區 五號倉庫で開催された「単位展」(主催:啟藝文創 INCEPTION CULTURAL & CREATIVE Co., Ltd.)の学術協力		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本数学教育学会、全国数学教育学会、近畿数学教育学会、和算問題教材化研究会

谷本直美 (たにもと なおみ) 准教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京学芸大学大学院教育学研究科音楽教育専攻音楽科教育講座修了
 学位：教育学修士(東京学芸大学)
 学位論文：シュタイナー学校における音楽教育
 専門分野：音楽科教育 教師教育
 前職：東京学芸大学附属竹早小学校教諭
 学内役職等：キャリア情報センター副センター長 (2013～2015)
 キャリア情報センター副センター長 (2017～)
 留学：
 資格：小学校教諭1種 中学校教諭1種・高等学校教諭1種(音楽) 司書教諭
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
音楽実技(ピアノ)における同一曲の習熟度別編曲による教材の作成	2009年4月～現在	履修学生のピアノ経験年数に応じて、同一曲を3～4レベルに編曲し、学生が自分のピアノ経験にあったレベルを選択して練習を始められるような教材を準備した。さらに演奏能力に差がある学生が1つの曲を合奏できるよう、パート毎に難易度を変えて編曲し、合わせる楽しさを体験して音楽指導に前向きになれるような教材を作成した。学生授業評価は2017年度前期後期ともに4.5/5であった。
音楽劇による小学校へのアウトリーチ活動	2010年7月～現在	教科指導法(音楽)の授業内で学生に音楽劇を指導し、近隣の公立小学校で授業として構成して発表している。2011年度からは劇の中に子どもたちへの歌唱やリズムアンサンブルの指導場面を設定し、学生に指導を体験させている。その後ビデオを通してグループ協議を行い、子どもに対する実感をもったうえで模擬授業を行って学生の音楽の授業に対する理解を深めている。学生授業評価は2017年度前期が4.7/5、後期が4.3/5であった。
小学校における読み聞かせ体験	2010年6月～現在	ゼミ履修学生(3年)に子どもたちの前に立つ体験として、読み聞かせの機会を近隣小学校にいただいている。毎年「なぞなぞライオン」を扱い、なぞなぞやしりとりを通して子どもたちとコミュニケーションをとりながら読み聞かせをする体験をさせ、児童理解と指導体験の機会としている。その発展として7月に行われる同小学校における保護者会主催の全校お楽しみ会にも読み聞かせで有志が参加し、自分達で作品を選び、脚色も加えながら練習を積んで臨んでいる。

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略
科研費研究3年次にあたり、小学校音楽専科の若手教師1名をあらたにメンティとしたメンタリング・プログラムを実施した。プログラムのかたちができあがって2事例目にあたる。1年間のメンタリングの結果、1事例目同様に指示型の授業から対話型の授業に転換するようになり、指示の割合も4割から2割までに減少した。さらにグループ学習における教師の関わりが進捗確認から過程の支援や見守りに転換していった。いずれも児童観の変容をきっかけに授業観、指導観の変容につながる事が明らかとなった。これらの成果については日本学校音楽教育実践学会にて口頭発表、同学会誌については論文掲載している。延長願いが認められ平成30年度も継続する予定である。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
教師の発話分析から見る「音楽づくり」の新しい意義ー歌唱・器楽分野と比較してー	単著	2017年6月	桐蔭論叢第37号		21-27頁
若手音楽教師を対象とした授業改善のためのメンタリング・プログラムの有効性ー子どもの主体的な学びを促すためにー	単著	2018年3月	学校音楽教育研究(日本学校音楽教育実践学会) 2018vol. 22		37-47頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)若手音楽教師の授業力向上を支えるメンタリングプログラムの試みー対話による子どもの主体的な学びを促すためにー	2017年8月19日	第22回日本学校音楽教育実践学会(聖徳大学/千葉)			
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
科学研究費助成事業	2015年4月～2019年3月	学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本学校音楽教育実践学会、日本教師教育学会、日本教育方法学会、日本教材学会

木原 洋一 (きはら よういち) 専任講師



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科満期退学
 学位：修士(体育学)・修士(教育学)
 学位論文：演劇における「からだ」のレッスンの理論と実践(体育学)
 心身論を基盤とした体育の理念形成の検討 -1931-45年
 の日本における体育的身体論を射程として-(教育学)
 専門分野：スポーツ教育学、学校教育学、比較文化学
 前職：筑波大学大学院博士課程
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭専修免許(保健体育)
 高等学校教諭専修免許(保健体育)
 中学校教諭専修免許(社会)
 高等学校教諭専修免許(地理歴史)
 高等学校教諭専修免許(公民)
 柔道初段
 非常勤講師：
 受賞・表彰：平成23年度第9回茗溪会顕彰

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本スポーツ学会、日本体育科教育学会、神奈川体育学会、日本体操学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立みたけ台小学校および横浜市立荏子田小学校で、体操、マット、とび箱、球技などの基礎・基本の動きを指導。	2011年4月～(毎週火・木2コマ)	団体等名称:体操教室

廣川 充志 (ひろかわ みつし) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育研究科スポーツ健康科学専攻
 学位：体育学修士
 学位論文：中高齢者の糖・脂質代謝および酸化LDLにおよぼす複合運動トレーニングの影響
 専門分野：体育科学
 前職：学校法人了徳寺学園職員
 学内役職等：
 留学：
 資格：講道館柔道六段
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○その他
(その他特記事項)
講話集「柔道への想い」 全日本柔道連盟発行 柔道ルネッサンス特別委員会編集 一部分担当
「柔道ルネッサンススピーチ集」 全日本柔道連盟発行 柔道ルネッサンス特別委員会編集 一部分担当

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体力医学会、日本運動生理学会、日本武道学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年4月～現在	神奈川県学生柔道連盟 常任理事
2009年4月～現在	神奈川県柔道連盟 強化委員
2010年4月～現在	関東学生柔道連盟 理事
2010年4月～現在	全日本柔道連盟 国際委員会委員
2012年11月～現在	全日本柔道連盟 ナショナルチーム強化コーチ

スポーツテクノロジー学科 (Department of Sport Technology)

殖田友子 (うへだともこ) 教授



出生年：
在籍：2014(平成26)年4月～
最終学歴：早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程単位
取得後退学
学位位：修士(経営学)
学位論文：
専門分野：スポーツ栄養学、健康マーケティング、食育
前職：帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科准教授
学内役職等：
留学：
資格：管理栄養士、健康運動指導士、公認スポーツ栄養士
非常勤講師：神奈川大学人間科学部、神奈川大学国際経営学部
受賞・表彰：

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体力医学会、日本スポーツ栄養学会、日本健康運動指導士会、日本栄養改善学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2010年7月～現在	日本スポーツ栄養学会評議員 (2013年12月日本スポーツ栄養研究会から学会に改組)
2013年4月～現在	大田区体育協会評議員

片山 富美代 (かたやま ふみよ) 教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：2004(平成16)年7月～
 最終学歴：桜美林大学大学院国際学研究科環太平洋地域文化専攻
 博士後期課程修了
 学位：博士(学術)、修士(看護学)
 学位論文：人工血液透析患者の病気認知と病気適応に関する健康心理学的研究(博士論文)
 専門分野：基礎看護学、健康心理学
 前職：広島国際大学看護学部看護学科講師
 学内役職等：学生部副部長
 留学：
 資格：看護師免許、専門健康心理士資格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：日本ヒューマン・ケア心理学会第一回学会論文賞(2011年7月)

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
キャンパス内全面禁煙後の学生、教職員の意識および、喫煙関連の健康意識に関する研究					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「保険と健康の心理学 標準テキスト4 臨床健康心理学」	共著	2017年10月1日	ナカニシヤ出版	島井哲志(監修), 羽鳥健司(編著), 片山富美代, 他11名	37-50項
「保険と健康の心理学 標準テキスト6 健康・医療心理学」	共著	2017年10月1日	ナカニシヤ出版	島井哲志(監修), 岸太一(編著), 藤野秀美(編著), 片山富美代, その他 13名	62-74項
(学術論文)					
「キャンパス全面禁煙4年後の状況調査」	共著	2017年5月	CAMPUS HEALTH,54(2)	工藤 成史, 大北 全俊, 片山 富美代	125-130項

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本ヒューマン・ケア心理学会、日本健康心理学会、日本スポーツ健康科学学会、日本カウンセリング学会、日本看護研究学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年5月～現在	日本健康心理学会資格認定・試験委員会委員
2015年9月～現在	日本ヒューマン・ケア心理学会常任理事・事務局長

加藤 知生 (かとう ともお) 教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：日本体育大学体育学部健康学科卒業
 社会医学技術学院理学療法科卒業
 日本柔道整復専門学校卒業
 学位：
 学位論文：
 専門分野：アスレティック・リハビリテーション、スポーツ理学療法
 前職：日立横浜病院
 学内役職等：
 留学：
 資格：日本体育協会公認アスレティックトレーナー
 理学療法士、柔道整復師
 中学1級・高等学校1級教諭免許(保健体育)
 非常勤講師：学校法人花田学園 東京有明医療大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
トレーナー活動およびリハビリテーションの実践的指導の導入(学生の授業外における学習促進のための取組)	2009年度～現在	水泳日本代表および社会人アメリカンフットボールチームの合宿、試合、病院でのリハビリテーションなど医療レベルからトップアスリートまでの現場体験を行う。(対象:トレーナーコース、ゼミ専攻者)

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
スポーツ競技種目特性に基づいた理学療法 評価から理学療法(予防,コンディショニングへの応用を含む)まで	共著	2017年4月10日	理学療法(東京) Vol.34 No.4. メディカルプレス	成田崇矢, 加藤知生	365-370
スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版 SCIENCE & PRACTICE スポーツ復帰への基本戦略とプログラム	共著	2017年5月15日	金原出版	加藤知生	16-21
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
講演テーマ:「子どもの運動そしてスポーツ」	2017年7月13日	横浜市学校保健会磯子支部総会			
Characteristics of Masters swimmer's rotator cuff.	2017年10月26日	2017 ASICS Sports Medicine Australia Conference, The Westin Langkawi, Malaysia.	Jigami, H. Wada, T.Matsumoto, Koyama, M. Kato, T.Ohuchi, H. Kaneoka, K.		
講演テーマ:「運動器検診から見えてきたもの～今の子どもたちに必要なエクササイズ～」	2017年11月20日	東京都町田市小中合同養護部会総会 町田市役所			

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本理学療法士協会、日本アスレティックトレーニング学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1991年9月～現在(2011～)	日本水泳トレーナー会議役員(代表)	
1996年4月～現在	JOCオリンピック強化スタッフ	
2003年3月～現在(2010～)	日本体育協会公認アスレティックトレーナー(連携協議員)	
2007年4月～現在(2013～)	日本水泳連盟医事委員会(副委員長)	
2013年6月～現在	日本アスレティックトレーニング学会評議員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立平戸小学校にて学校保健委員会活動および保健体育授業(からだづくり)	2008年～(年3回)	横浜市教育委員会 学校運営評議会(2011年～)

河崎賢三（かわさき けんぞう）教授



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：島根医科大学大学院医学研究科博士課程 修了
 学位：医学博士
 学位論文：
 専門分野：整形外科、スポーツ医学、関節外科、再生医療
 前職：島根医科大学文部教官助手
 学内役職等：
 留学：
 資格：医師、日本整形外科学会専門医、日本体育協会公認スポーツドクター
 非常勤講師：
 受賞・表彰：材料技術研究協会技術賞(2007)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
医学現場実習を重要視した授業	2006年4月～	医学現場に出向き、スポーツ医学の知識の取得に勤めている

II 研究活動

○その他		
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
スポーツと医療の現場から考える	2010年7月～現在 (連載中)	ブックハウスHD月刊Sports Medicine
ドクターKのベースボールメディカル	2013年3月～現在 (連載中)	侍アスリート社BaseballKanagawa
野球肘は防げる	2013年5月～現在 (連載中)	ベースボールマガジン社Hit&Run

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本整形外科学会、日本関節鏡学会、日本膝関節学会、日本整形外科スポーツ医学会 など	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1991年6月～現在	日本整形外科学会会員
1997年4月～現在	日本関節鏡学会会員
1997年4月～現在	日本膝関節学会会員
1997年4月～現在	日本軟骨代謝学会会員
1999年4月～現在	日本整形外科スポーツ医学会会員
2010年4月～現在	日本スポーツクラブ協会専門委員
2010年4月～現在	日本オリンピック委員会強化スタッフ(医・科学スタッフ、野球)
2011年4月～現在	全日本アマチュア野球連盟選手強化本部医科学部会委員
2013年4月～現在	全日本野球協会選手強化本部医科学部会委員

(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
医師として臨床診療活動 (整形外科、スポーツ整形外科)	1991年5月～現在	病院にて整形外科、スポーツ整形外科として勤務年間約5000人の診察並びに約200件のスポーツ障害に関する手術施行

IV芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
桐蔭横浜大学硬式野球部チームドクター	2006年4月～現在		
桐蔭学園高校柔道部チームドクター	2007年4月～現在		
桐蔭横浜大学サッカー部チームドクター	2009年4月～現在		
桐蔭学園高校バレーボール部チームドクター	2009年4月～現在		
(5) 青森県光星学院高校硬式野球部チームドクター	2010年4月～現在		

吉 鷹 幸 春 (よしたか ゆきはる) 教授



出 生 年 : 1964(昭和39)年
 在 籍 : 1995(平成7)年～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学 位 : 体育学修士
 学 位 論 文 : 柔道の「背負投」におけるバイオメカニクスの研究
 専 門 分 野 : 運動方法論、コーチ学、スポーツ心理学
 前 職 : 山形県教育庁
 学 内 役 職 等 : テクノロジー学科学科長(2016～)
 留 学 :
 資 格 : 専修免許状(保健体育)、全日本柔道連盟A級審判員、講道館柔道七段
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 文部科学省 国際競技大会優秀者(指導者)表彰(1999年)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本武道学会、日本体育学会、日本スポーツ心理学会、日本応用心理学会、日本教育医学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全日本学生柔道連盟理事	2010年4月1日～現在	全日本学生柔道連盟

栗山 裕 (くりやま ゆたか) 准教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1991(平成3)年4月～
 最終学歴：東京都立科学技術大学(現・首都大学東京)大学院工学研究科博士後期課程
 学位：学術博士
 学位論文：大学における情報教育の支援に関する研究
 専門分野：知能情報処理、感性情報処理
 前職：桐蔭学園工業高等専門学校 助手
 学内役職等：学生部副部長 (2012～2016)
 留学：
 資格：ITパスポート試験
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
学生の情報通信技術に関する支援	2011年1月～ (継続中)	日頃より、担当して授業を問わず、学生の情報通信技術(ICT)やビデオ映像制作などの支援を教員研究室で行っている。たとえば、ゼミ生以外の学生(2グループ)がビデオ映像の制作のため1カ月程度、栗山研究室の情報機器を利用した。また、ゼミ生以外の学生に対しても「情報処理技術者試験(ITパスポート試験)経済産業省主催 国家試験」の勉強の支援を行い、2011年7月試験において合格者(1名)を輩出した。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
スポーツ情報分析室の管理運営	2013年7月～ (継続中)	スポーツ健康政策学部の教育の質を高め、大学および学園のスポーツ競技の向上やスポーツ科学・健康分野の教育・研究に寄与するために、スポーツ情報分析室の新設を提案し、スポーツ分析ソフトウェア等の充実を図っている。

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
スポーツ競技における認知機能が果たす役割は重要であるので、認知情報処理システムに関する研究を進めている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
テレビゲームが有効視野に及ぼす影響	共著	2018年3月	首都大学東京 人文学報 No.514-4	山下利之、柳 沙江、並木 勇知、栗山 裕	1-9頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
電子情報通信学会、人工知能学会、日本フェジィ学会、日本教育工学会、日本人間工学会

小山桂史 (こやま けいじ) 准教授



出生年：1984(昭和59)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程修了
 学位：博士(スポーツ健康科学)
 学位論文：Unstable shoes着用時の歩行特性に関する研究
 専門分野：スポーツバイオメカニクス
 前職：順天堂大学スポーツ医科学研究所研究補助員
 学内役職等：入試広報委員長
 留学：なし
 資格：中学校教諭一種免許(保健体育)
 高等学校教諭一種免許(保健体育)
 トレーニング指導者

非常勤講師：駒澤大学総合教育研究部非常勤講師

受賞・表彰：第59回東総駅伝大会 優勝 区間賞(2005.12)
 栗本閔夫記念奨学金受賞(2006.3)
 第26回佐倉朝日健康マラソン大会 10kmの部 優勝(2007.3)
 日本バイオメカニクス学会 国際学会参加助成 受賞(2010.9)

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
<p>これまで足部の筋機能が姿勢制御に関係することが考えられてきたが、前年度における我々の研究成果では足部筋機能が低下するにも関わらず、姿勢制御は改善されることが示され、これまでの先行研究とは異なる結果となった。そのメカニズムを今年度は探求し、その理由の一つとして、足部の筋機能は低下するも、裸足で1回1時間の運動直後では足部の感覚機能が向上することが実験結果として得られた。この結果は、運動の疲労によって足部の筋機能の低下を、足部の感覚機能が補うことが予想される。では、なぜ、裸足の運動が足部の感覚機能を向上させたのか、その要因については今後も検討する必要がある。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「熱中症予防指導士」講習会テキスト	共著	2017年5月	日本スポーツ健康科学学会	小山桂史	6-17頁
(学術論文)					
Altered postural sway following fatiguing foot muscle exercises.	共著	2017年12月	PLoS One. 12(12)	Keiji Koyama, Junichiro Yamauchi	e0189184
Comparison of lower limb kinetics, kinematics and muscle activation during drop jumping under shod and barefoot conditions.	共著	2018年1月	Journal of biomechanics. 69	Keiji Koyama, Junichiro Yamauchi	pp.47-53.

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
大学柔道選手の足部の筋力および筋厚の特性	2017年6月	第79回日本体力医学会中国・四国地方会、香川	小山桂史, 鈴木遼平, 廣川充志, 吉鷹幸春, 山内潤一郎
足・脚部エクササイズ・トレーニング時における呼吸循環系と筋-感覚神経系の生理学的応答	2017年6月	第170回日本体力医学会関東地方会、神奈川県	小山桂史, 山内潤一郎
Does the foot muscle strength relate to the postural stability ?	2017年7月	22 th annual congress of the European College of Sport Science、Germany	Keiji Koyama, Yusuke Nagahuji, Junichiro Yamauchi
片脚ドロップジャンプ接地時における足部アーチの動態特性	2017年9月	第72回日本体力医学会大会、愛媛	小山桂史, 小杉勇太郎, 山内潤一郎
1時間の足部エクササイズが足部感覚機能と姿勢制御能に及ぼす効果	2017年12月	S&Cカンファレンス2017、兵庫	小山桂史, 山内潤一郎
足部筋群の単位時間当たりの力発揮能力(RFD)と跳躍能力との関係	2017年12月	S&Cカンファレンス2017、兵庫	工藤正也, 小山桂史, 山内潤一郎
中足趾節(MTP)関節動作が跳躍能力に及ぼす影響	2017年12月	S&Cカンファレンス2017、兵庫	大橋美嶺, 小山桂史, 山内潤一郎
足関節および膝関節の関節角度が足指把持筋力に及ぼす影響	2017年12月	S&Cカンファレンス2017、兵庫	山内優希, 小山桂史, 山内潤一郎
足指の最大および単位時間当たりの力発揮能力が反応時間に及ぼす影響	2017年12月	S&Cカンファレンス2017、兵庫	二見康司, 小山桂史, 山内潤一郎
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
暑熱環境と労働・身体活動	2017年5月5日・6日	日本スポーツ健康科学学会	桐蔭横浜大学
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
平成28年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究C、分担	2016年4月～平成2019年3月予定	足部機能の発育発達様相を考慮した子どもの運動能力向上プログラムの開発 研究代表者: 森田 憲輝 共同研究者: 小山 桂史, 山内 潤一郎	
共同研究費 研究課題: ジャンプパフォーマンスと最大筋力に月経周期のフェーズの違いが与える影響に関する研究	2017年4月～平成2018年3月予定	順天堂大学 研究代表者: 尾崎 隼朗 共同研究者: 小山 桂史, 神庭睦美, 加藤豪, 尾崎美那貴, 涌井佐和子, 町田修一	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本バイオメカニクス学会, 日本体力医学会, 日本体育学会, 日本トレーニング科学会, 日本バレーボール学会, 日本靴医学会, 日本スポーツ健康科学学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2013年4月～現在	日本スポーツ健康科学学会大会庶務・会計理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
中学校野球チームへの陸上指導	2015年6月～現在に至る	陸上指導
駒澤大学での生涯学習(健康づくり教室:ジョギングコース)	2016年9月～現在に至る	陸上指導

岡本 大 (おかもと だい) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：国際武道大学大学院 武道・スポーツ研究科 武道・スポーツ専攻修士課程 修了
 学位：修士(武道・スポーツ)
 学位論文：異なる床面性状が跳躍成績に与える影響
 専門分野：ハンドボール、コーチング論、ゲーム分析、バイオメカニクス
 前職：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科助手
 タイナショナルチームヘッドコーチ、JOCジュニア強化コーチ
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略
ハンドボールにおける競技力向上のためのゲーム分析を行った。特に、リバウンド・ルーズボール、速攻局面での展開について調査した。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本体力医学会、日本バイオメカニクス学会、日本ハンドボール学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2001年10月～	日本体育協会公認ハンドボールコーチ	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
愛媛国体ハンドボール競技専属アドバイザー コーチ	2011年4月～2017年10月	愛媛県ハンドボール協会
川崎市立高等学校体育部活動推進事業 ハ ンドボール技術講習会講師	2018年3月	川崎市教育委員会

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(女子ハンドボール部監督)2017年全日本イン カレ	2017年11月		全日本インカレ出場 関東学生リーグ戦春期4位秋季5 位

廣瀬 立朗 (ひろせ たつろう) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
在籍：2009(平成21)年4月～
最終学歴：東京大学大学院
学位：博士(学術)
学位論文：力学的除負荷が筋内コラーゲン代謝に与える影響
専門分野：運動生理学、運動生化学
前職：日本体育大学 助教
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：上智大学
受賞・表彰：

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略

ニコチンアミドジヌクレオチド(NAD)の前駆体であるニコチンアミドリボシド(NR)の摂取がラット骨格筋に与える影響を検討している。NRの摂取が骨格筋内NAD濃度を増加させることが知られている。NRを摂取させたWistarラットを回転ケージを用いた自走式運動を2か月間行わせた。コントロール群と比較し走行距離、ヒラメ筋と腓腹筋の筋湿重量に差は認められなかった。また、ヒラメ筋と腓腹筋のSDH染色を行った。現在染色濃度を検証している。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体力医学会 physiology 日本スポーツ健康科学学会

渡辺 啓太 (わたなべ けいた) 専任講師 (2018年度 新任教員)



出生年：1983(昭和58)年
 在籍：2018年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ健康システム・マネジメント専攻修了
 学位：修士(体育学)
 学位論文：バレーボールのプレーの評価指標に関する一考察

専門分野：スポーツ情報戦略、高度競技マネジメント、スポーツイノベーション
 前職：専修大学ネットワーク情報学部 客員教授
 学内役職等：女子バレーボール部 部長

留資格：学：日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミー修了
 日本バレーボール協会アナリスト育成インストラクター
 バレーボール上級コーチ

非常勤講師：
 受賞・表彰：専修大学学長賞、筑波大学大学院人間総合科学研究科長

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、情報処理学会、日本バーチャルリアリティ学会、日本バレーボール学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2011年9月～現在	日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミー講師
2014年6月～現在	一般社団法人日本スポーツアナリスト協会代表理事
2014年11月～現在	スポーツアナリティクスジャパン実行委員会実行委員長
2015年8月～現在	総務省「スポーツ×ICT」ワーキンググループおよび「スポーツデータ利活用」タスクフォースメンバー
2015年12月～現在	JSAA Analytics Challenge Cup(旧スポーツアナリティクス甲子園) 審査員
2017年4月～現在	日本バレーボール協会 ハイパフォーマンス戦略担当
2017年9月～現在	JOC選手強化本部情報・医・科学専門部会 情報・科学サポート部門メンバー
2017年10月～現在	日本バレーボール協会 TOKYO2020対策プロジェクト プロジェクトリーダー
2018年2月～現在	日本バレーボール協会 ユニバーシアード日本代表女子バレーボールチームアドバイザー

スポーツ健康政策学科 (Department of Culture and Sport Policy)

今泉隆裕 (いまいずみ たかひろ) 教授



出生年：1975(昭和50)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：法政大学大学院人文科学研究科博士課程日本文学専攻
 単位修得退学
 学位：修士(文学)
 学位論文：修羅能の道程
 専門分野：日本文学、宗教学
 前職：法政大学国際日本学研究所学術研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教員専修免許状(国語)
 高等学校教員専修免許状(国語)
 博物館学芸員資格
 非常勤講師：法政大学非常勤講師(文学Ⅰ、文学Ⅱ)
 受賞・表彰：

Ⅱ 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「祭礼としての運動会:運動会の宗教学序説」	単著	2017年6月	桐蔭論叢 第34号		
「江戸琳派の「高安の女」雑感」	単著	2017年12月	NACT Review(国立新美術館研究紀要)		
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(公開講座・講師) 平成29年度文化庁 文化遺産を活かした地域活性化事業「高安と能楽の関わりを探る講座:八尾に埋もれた能楽曲」	2017年10月9日	主催:高安能未来継承事業推進協議会、協賛:大阪経済法科大学/八尾ライオンズクラブ、後援:日本ユネスコ協会連盟/八尾市文化財調査研究会、於:旧八尾市立中高安小学校体育館	登壇者:西野春雄、金子直樹、今泉隆裕、橋場夕佳、山中雅志		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「宗教とスポーツ/禁酒法とサンデー・ベースボール」	2017年4月	Sportsmedicine2017、190号、46-47頁			
「ナンバ歩き再考」	2017年5月	Sportsmedicine2017、191号、46-47頁			
「マラソンの連続と断絶」	2017年6月	Sportsmedicine2017、192号、46-47頁			
「治療としての海水浴/悪寒と遊泳」	2017年7月	Sportsmedicine2017、193号、46-47頁			

「山は腫れもの・疣(いぼ)、瘤(こぶ)／アルビニズム前史」	2017年9月	Sportsmedicine2017、194号、46-47頁
「相撲と遊女、大力女譚」	2017年10月	Sportsmedicine2017、195号、46-47頁
「射礼、梓弓、楊弓場と私娼-弓とその周辺雑談」	2017年11月	Sportsmedicine2017、196号、46-47頁
「世俗化とスポーツ／空間認識の変容からレジャーへ」	2017年12月	Sportsmedicine2017、197号、46-47頁
「宗教とスポーツ／ナイトゲームとサンデーベースボール」	2018年2月	Sportsmedicine2017、198号、46-47頁
(その他特記事項)		
(記事執筆)「〈高安〉復曲上演—もう一人の待つ女—」『観世』檜書店、第84巻5号、2017年5月		
(記事執筆)今泉隆裕・橋場夕佳「【報告】高安薪能と講座—地域文化資源としての能楽—」『能楽タイムズ』能楽書林、2017年11月(記名抽出可)		
(曲目解説)能「阿漕」解説、奈良観光協会、奈良能主催薪御能パンフレット、2017年5月		
(曲目解説)能「杜若」解説、奈良観光協会、奈良能主催薪御能パンフレット、2017年5月		
(曲目解説)狂言「附子」解説、奈良観光協会、奈良能主催薪御能パンフレット、2017年5月		
(曲目解説)能「弱法師」解説、奈良観光協会、奈良能主催薪御能パンフレット、2017年5月		
(曲目解説)能「自然居士」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)		
(曲目解説)能「船橋」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)		
(曲目解説)能「経正」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)		
(曲目解説)能「皇帝」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)		
(曲目解説)能「野守」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)		
(曲目解説)能「大江山」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)		
(曲目解説)能「芦刈」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)		
(曲目解説)能「吉野天人」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)		
(曲目解説)能「小袖曾我」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)		
(曲目解説)能「御塩」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本宗教学会、能楽学会、楽劇学会、漢文教育学会

岡田 俊 恵 (おかだ としえ) 教授



出 生 年 : 1954(昭和29)年
 在 籍 : 1989(平成元)年4月～
 最 終 学 歴 : 津田塾大学大学院修士課程
 学 位 : 文学修士
 学 位 論 文 : A Study on Macbeth
 専 門 分 野 : 英語英文学、英語教育、時事英語
 前 職 : 静岡大学助教授
 学 内 役 職 等 : 桐蔭英語村村長、国際交流センター委員、教職課程委員会委員、学生委員
 留 学 :
 資 格 : 中学教員1級、高校教員1級免許
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 市川三喜賞(津田塾大学 1977年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
マルチメディア教室を活用した双方向授業	2000年～現在	コンピュータ併用のCallシステムを利用して、各種メディアを使う語学授業を展開。
英語プレゼンテーション教育	2005年～現在	大学院生を中心に、英語による研究発表のための原稿作成から口頭発表練習までの指導。
2.作成した教科書、教材、参考書		
外国語特別活動の英語教材	2013年～現在	外国語特別活動(英語)の教材は、市販の教材だけではうまく授業展開できないため、殆ど手作り教材である。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
生涯学習センターで社会人講座の担当	2006年1月～現在	生涯学習センターで社会人向け講座「学び直す英語中級」「学び直す英語上級」を担当。
桐蔭英語村の管理運営	2014年4月～現在	桐蔭英語村の職員およびネイティブ・スタッフ、日本人スタッフの統率。小中高大学生向け各種プログラムの作成指導。

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
(1) 小学校での英語教科化に向けて、小学校英語指導法の研究 (2) ジョージ・チャップマンの戯曲研究					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
小学校における英語の教科化に向けて	単著	2017年6月	桐蔭論叢第36号		85-93頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本英文学会、日本シェイクスピア協会

瀬戸口 靖 弘 (せとぐち やすひろ) 教授 (2018年度 新任教員)



出 生 年 : 1955(昭和30年)

在 籍 籍 : 2018年4月1日

最 終 学 歴 : 島根医科大学医学部医学科

学 位 : 医学博士

学 位 論 文 : Intraperitoneal in vivo gene therapy to deliver a1-antitrypsin to the systemic circulation

専 門 分 野 : 内科学、分子生物学、ゲノム医学、健康医学

前 職 : 東京医科大学医学部呼吸器内科学分野教授

学 内 役 職 等 : スポーツ健康政策学部教授

留 学 : 米国National Institutes of Health (NIH), National Heart Lung and Blood Institute, Pulmonary branch

資 格 : 医師、日本内科学会認定医/指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医/指導医、日本医師会認定産業医、日本がん治療認定医機構認定医/指導医、呼吸機能障害認定指定医、東京都難病指定医、厚生労働省医政局長認定臨床研修医指導医、厚生労働省医政局長認定緩和ケア一医、医療系大学間試験実施機構認定共用試験医学系OSCE評価者、NIH Completion Certificate of a program of collaborative research experience as a fellow

非 常 勤 講 師 : 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 特任教授、東京医科大学医学部呼吸器内科学分野兼任教授、順天堂大学医学部呼吸器内科非常勤講師

受 賞 ・ 表 彰 : 日本呼吸器学会学術部会最優秀賞(2018.4), Best Doctors in Japan (2017-2018)(2016-2017)(2015-2016)(2014-2015)(2013-2014)(2012-2013)(2011-2012), 東京医科大学稲垣教育賞(2014,2011,2010)、岡本敏肺線維症研究奨励賞(2006), 順天堂大学医学部Best Tutor賞(2002), Respiratory Molecular Cell Biology研究奨励賞(1997,1995), 免疫Forum賞(1996), 第106回米国医学会年次総会Young Investigator Award(1993), 米国Fogarty International財団Visiting Scientist Fellowship award (1991)

並木 浩一 (なみき こういち) 教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：京都造形芸術大学大学院芸術研究科博士課程芸術専攻
 修了
 学位：博士(学術)
 学位論文：モーリス・ベジャール研究 ——メディアと芸術の関係を軸と
 して(博士論文)
 専門分野：メディア論、表象文化論、身体論
 前職：大同大学情報学部教授
 学内役職等：入試・広報センター長(2013～)
 留学：
 資格：一般旅行業務取扱主任者(運輸省)
 【*現・総合旅行業務取扱管理者(国土交通省)】
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
沖縄の芸能、舞踊の研究を継続。プロダクト批評の実践では新聞(読売新聞)への寄稿を行い、論文1編を執筆・発表した。また「金色夜叉」の現代語訳を試みて公開し、静岡新聞の記事として掲載された。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『金色夜叉 現代語版 前編』	共著	2017年7月14日	パプフル	共著者:並木浩一、富永淳	共同執筆のため抽出不能
(学術論文)					
『腕時計のミトロジー』	単著	2017年6月	桐蔭論叢第36号		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
腕時計文化論 2017	2017年5月14日・6月4日・6月25日	学習院さくらアカデミー	学習院大学		
腕時計の文化論	2017年5月31日・6月7日・6月14日	早稲田大学エクステンションセンター	早稲田大学エクステンションセンター八丁堀校		
腕時計文化論 2018	2017年5月13日・6月10日・7月8日	学習院さくらアカデミー	学習院大学		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「時計見本市バーゼルワールド2017 過去の秀作を再構築」(寄稿)	2017年4月13日(夕刊)	読売新聞			
「腕時計 銀座で勝負」(コメント)	2017年5月3日	朝日新聞			

『『金色夜叉』に現代語版 貫一と宮 熱海の恋 “再燃 桐蔭横浜大・並木教授ら出版”(寄稿・ 初出)	2017年10月2日	静岡新聞
「王妃マリー・アントワネットと時計ブランド“ブ レゲ”の親密なる関係」(寄稿・初出)	2017年10月31日	読売新聞
「王妃マリー・アントワネットと時計ブランド“ブ レゲ”の親密なる関係」(寄稿・再掲)	2017年11月4日	朝日新聞
(その他特記事項)		
(一般書)		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 資格の「抜け道」単著 平成7年7月 ダイヤモンド社 2. 「税理士」無試験取得マニュアル 共著 平成9年5月 ダイヤモンド社 3. 新版 資格の「抜け道」単著 平成9年10月 ダイヤモンド社 4. 資格の達人 共著 平成9年12月 ダイヤモンド社 5. 最新 資格の「抜け道」単著 平成9年10月 ダイヤモンド社 6. 増補「税理士」無試験取得マニュアル 共著 平成11年3月 ダイヤモンド社 7. 世界に通じることもの名前 共著 平成11年7月 青春出版社 8. 自分だけの露天風呂を楽しめる宿 露天風呂つき客室91 単著 平成11年12月 青春出版社 9. 腕時計 雑学ノート 共著 平成12年4月 ダイヤモンド社 10. 【新版】税理士試験免除マニュアル 共著 平成14年4月 ダイヤモンド社 11. ことばの知恵袋 とっさの日本語便利帳 共著 平成15年1月 朝日新聞出版社 12. ことばの知恵袋 とっさの日本語便利帳 共著 平成15年4月 朝日新聞出版社 13. 『『赤毛のアン』のすてきな英会話』単著 平成15年10月 河出書房新社 14. 『夢のハワイ暮らしが実現できる本』単著 平成15年11月 ダイヤモンド社 15. ことばの知恵袋 とっさの日本語便利帳 共著 平成15年11月 朝日新聞出版社 16. ことばの知恵袋 とっさの教養便利帳 共著 平成16年1月 朝日新聞出版社 17. ビジネス知恵蔵 共著 平成16年1月 朝日新聞出版社 18. ことばの知恵袋 とっさの教養便利帳 共著 平成16年2月 朝日新聞出版社 19. ビジネス知恵蔵 共著 平成16年4月 朝日新聞出版社 20. 『男はなぜ腕時計にこだわるのか』単著 平成20年8月 講談社 21. 日本語さぼん帳 共著 平成21年3月 朝日新聞出版社 22. 『腕時計のこだわり』単著 平成21年3月 ソフトバンク・パブリッシング 		
(その他)		
(研究ノート)		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院選択の勘どころ 着実に高まる修士号の価値—大学院教育の効用と選択の基準— 共著 平成21年4月 『検証 ビジネススクール』、『慶応義塾大学出版会』 		
(映像作品)		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 『ピーターの法則』製作 平成3年3月 ダイヤモンド社 2. 『UNIXの世界 1』製作 平成4年4月 ダイヤモンド社 3. 『UNIXの世界 2』米国監督 平成4年4月 ダイヤモンド社 4. 『UNIXの世界 3』米国監督 平成4年4月 ダイヤモンド社 		
(評論作品・雑誌執筆記事)		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「スポーツを通じ、世界に貢献する」単著 2006年5月 『PEN』2006年5/1号 2. 「感性と理性を刺激する、造詣と伝説」単著 2006年8月 『PEN』2006年12/1号 3. 「節談説教が見せた可能性」単著 2007年12月 『ジッポウ4 季刊2007冬』 4. 「バレエ・リュス 踊る歓び、生きる歓び」単著 2008年3月 『ジッポウ5 季刊2008春』 5. 「神の時間を奪還する腕時計」単著 2008年4月 『Number』2008年4/10号 6. 「史上唯一の傑作と、世界最高の品質」単著 2008年6月 『デパーチャーズ日本語版』2008年6月号 7. 「天から見た地球」単著 平成20年7月 『ENGINE』2008年7月号、新潮社 8. 「優美なヨットを蘇らせる男たちの情熱」単著 平成20年8月 『PEN』2008年8/1号 9. 「進化に“月”あり」単著 平成20年10月 『ENGINE』2008年10月号 10. 「あらたなる挑戦」単著 平成21年1月 『ENGINE』2009年1月号、新潮社 11. 「教育を支援する、老舗ブランドの精神」単著 2009年12月 『PEN』2009年12/1号 		

(雑誌連載)

1. 『並木浩一の腕時計文化論』単著 2008年1月～現在『WATCH NAVI』学研パブリッシング
2. 「腕時計のポートレート」単著 2011年1月～現在『PEN』、阪急コミュニケーションズ(月2回刊)
3. 「リストウォッチは雄弁だ！」単著 2014年～現在『Men7s Precious』、小学館(季刊)

(web連載)

4. 「知的エリートは腕時計をこう選ぶ」単著 2018年1月～現在『Precious.jp』、小学館(月2回連載)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本映画学会、日本コミュニケーション学会、日本観光学会、情報文化学会、デジタルアーカイブ学会

吉田 毅 (よしだ たけし) 教授



出生年：1963(昭和38)年
 在籍：2017(平成29)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育研究科修士課程修了
 学位：博士(体育科学)
 学位論文：競技者の青年期における困難克服プロセスに関する社会学的研究—主体的社会化論を手がかりに—
 専門分野：スポーツ社会学
 前職：常葉大学健康プロデュース学部教授
 学内役職等：スポーツ健康政策学科学科長、地域連携・生涯学習センター長、スポーツ健康政策学部研究紀要編集委員会委員長
 留資格：高等学校教諭一級普通免許(保健体育)
 中学校教諭一級普通免許(保健体育)
 非常勤講師：常葉大学健康プロデュース学部
 受賞・表彰：日本体育学会 学会賞(2013年)

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
数年前から継続している「地域スポーツクラブのレジリエンスに関する研究」及び「地域スポーツクラブの持続要因に関する研究」に取り組んだ。具体的には、東日本大震災被災地における地域スポーツクラブを対象に聞き取り調査を実施した。その一方、従来のデータを基に「東日本大震災被災地におけるスポーツ少年団のレジリエンスの要因」(桐蔭論叢第37号)と題する論文を著した。また、「アスリートのキャリア形成問題に関する研究」に関して理論的側面について検討を加えた。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
③東日本大震災被災地におけるスポーツ少年団のレジリエンスの要因	単著	2017年12月	桐蔭論叢第37号	吉田 毅	51-59頁
○その他					
(その他特記事項)					
「体育学研究」(日本体育学会機関誌)の投稿論文査読を依頼され実施した。					
「スポーツ社会学研究」(日本スポーツ社会学会機関誌)の投稿論文査読を依頼され実施した。					
「スポーツ教育学研究」(日本スポーツ教育学会機関誌)の投稿論文査読を依頼され実施した。					

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本スポーツ社会学会、日本社会学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2015年6月～2017年6月	日本体育学会体育社会学専門領域評議員
2015年6月～2017年6月	日本体育学会体育社会学専門領域奨励賞選考委員
2017年4月～現在	日本体育学会機関誌「体育学研究」編集委員
2107年11月～現在	日本体育学会選挙管理委員

田中 暢子 (たなか のぶこ) 教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2013(平成25)年～
 最終学歴：ラフバラ大学大学院スポーツ・レジャー政策研究科博士課程スポーツ政策学・スポーツマネジメント学修了
 学位：博士(スポーツ政策学・スポーツマネジメント学)
 学位論文：“An analysis of the policy-making process for disability sport in Japan and the UK/ England: The cases of wheelchair basketball, CP sport and intellectual disability”(ラフバラ大学2013年)
 専門分野：スポーツ政策学、健康政策学、スポーツ社会学、障害学
 前職：中央大学保健体育研究所 客員研究員
 学内役職等：国際交流センター副センター長
 留学：ラフバラ大学
 資格：弓道2段、中学校社会科教諭第一種免許、高等学校社会科教諭第一種免許、図書館司書教諭免許、障害者職業カウンセラー、上級介護予防運動スペシャリスト
 非常勤講師：中央大学、筑波大学大学院TIAS、ウースター大学スポーツエクササイズ学部名誉准教授
 受賞・表彰：1990年 関東学院大学学長賞受賞
 1998年 オーストラリア知的障害者スポーツ・レクリエーション協会表彰
 2003年 ラフバラ大学大学院国際奨学生受賞
 2010年 警察庁長官賞受賞(高齢者エアロビックプログラム開発)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
授業の内容をまとめたパワーポイントやワードを資料として配布。		資料には、参考資料は必ず掲載する。特に学生の学習意欲を高めるために、映像やグループディスカッションといった参加型の授業も展開する。たとえば、高齢化社会論では、高齢者の身体特性を学んだ後に、運動プログラムを班ごとに作成し、発表する機会を提供した。なお、発表に至るまでは、教員が何度もプログラム内容についてアドバイスする時間も設けた。

2.作成した教科書、教材、参考書		文部科学省(2010)スポーツ政策調査研究(共著)、田中暢子(2012)障がい者とスポーツ、川西正志と野川春夫(編)、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会(2012)パラリンピック選手の競技環境 その実態と意識調査(共著)、加藤千恵子、喜岡恵子、渋谷英雄、杉本富利、田中暢子、田村美智子、鳥田部達(2011)失敗しない社会調査法(共著)他
4.その他教育活動上特記すべき事項		科研研究などのテーマは国際比較(特に政策学的分析)を行っているが、2013年10月には、専門とする精神障害者の国際シンポジウム・のコーディネーター及び、国際会議の議長を務めた(日英で)。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
(論文)					
そこにいる「あたりまえの存在」とスポーツがある社会	単著	2017年9月	放送研究と調査 2017年9月号臨時増刊 パラリンピック研究	-	56-70頁
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
パラ知るカフェ 講師	2017年4月	オランダ視察より海外の動向	日本財団		
○その他					
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
ウースター大学・桐蔭横浜大学協定事業	2017年5月	桐蔭横浜大学と本学スポーツ学部との協定に関わる交流プログラム			
チャンネル4(英国)招待	2017年7月	英国テレビ局チャンネル4			
ウースター大学招聘講義	2017年11月	ウースター大学名誉准教授として、講義「スポーツと社会」、博士課程院生に講義			
ウースター大学における国際コミュニケーション実習	2018年2～3月	ウースター大学。国際コミュニケーション実習の帯同。			
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
精神障害者／精神疾患者のスポーツの現状とこれから	2017年4月	「みんなの社会」第9回障害のある人とスポーツ、原稿投稿			

東京パラリンピックまで3年 偏見解消「扉開く」大会に	2017年8月	東京新聞(8月25日) 朝刊 コメントの掲載
パラ選手 資金集め苦慮 高額な専用器具 若手 ネット寄付活用も	2018年3月	日経新聞(3月15日)夕刊 コメントの掲載
(その他特記事項)		
NHK9時のニュース「英国の成功事例を学ぶシンポジウム」	2017年4月	NHK9時のニュース(12月6日)
NHKパラリンピック情報	2017年4月	NHKパラリンピック情報での紹介
Crazy for Football	2017年1月	イタリア映画祭ドキュメンタリー部門最優秀賞作品 Cracy for Football コメント(英語)の出演
週刊ニュース深読み	2018年2月	NHK総合「週刊ニュース深読み」に生出演

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本スポーツ社会学会、日本スポーツ精神医学会、日本社会福祉学会、日本体育・スポーツ政策学会、障害学会、日本障害者体育・研究会 他	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2004年4月～	NPO法人山下ウェルキャブの会ドルフィンズ理事(現在に至る)
2011年5月～	神奈川県エアロビック連盟諮問委員会委員長(現在に至る)
2012年3月～	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会アドバイザー(現在に至る)
2012年4月～	日本スポーツ精神医学会役員理事(平成28年9月迄)
2012年10月～	精神障害者スポーツ国際化実行委員会委員・事務局長(現在に至る)
2013年3月～2018年3月	文部科学省スポーツ青少年局 技術審査委員会委員(現在に至る)
2013年3月～	一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟理事(現在に至る)
2014年6月～	一般社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 参与(現在に至る)
2014年10月～	神奈川県スポーツ推進審議会委員(現在に至る)
2015年4月～	一般社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 街づくり検討委員会(現在に至る)
2015年4月～	日本体育スポーツ政策学会理事(現在に至る)
2015年4月～	International Journal of Sport and Health Science 編集委員(現在に至る)
2016年3月～	一般社団法人日本車椅子バスケットボール連盟理事(現在に至る)
2016年3月～	日本障がい者サッカー連盟理事(現在に至る)
2016年6月～	NPO法人日本ソーシャルフットボール協会参与(現在に至る)

2016年9月～	日本スポーツ精神医学会評議員(現在に至る)		
2016年9月～	日本体育学会体育社会学専門部会評議員(現在に至る)		
2017年3月～	日本体育学会アダブテッドスポーツ科学専門部会評議員(現在に至る)		
(主な活動内容)			
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称	
ウースター大学において講義「スポーツ社会学」、「スポーツ社会学」博士課程院生	2017年11月20日;	ウースター大学	
ウースター大学において講義「スポーツ社会学」、「スポーツマネジメント学」博士課程院生	2018年3月6日;8日	ウースター大学	
桐蔭学園中等部	2018年3月16日;	桐蔭学園	
IV芸術、体育実技、課外活動における業績			
会の名称	年月日	場所	内容等
フットサル部Eggplant(顧問)	2017年6月～		
男子バスケットボール部(顧問)	2017年4月～		

福 浦 一 男(ふくうら かずお) 准教授 (2017年度 新任教員)



出 生 年 : 1967年(昭和42)年
 在 籍 : 2017年(平成29)年4月～
 最 終 学 歴 : 京都大学大学院文学研究科博士後期課程所定の研究指導認定退学
 学 位 : 博士(文学)
 学 位 論 文 : 「北タイ、チェンマイの霊媒集団とその宗教実践」

専 門 分 野 : 比較社会学・文化人類学
 前 職 : 滋賀医科大学非常勤講師
 学 内 役 職 等 :
 留 学 : チェンマイ大学(タイ)
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
<p>北タイの伝統的な宗教文化の諸事例を通して、民衆の文化実践のなかの「創造性」とその可能性について考察してきたこれまでの調査・研究をよりいっそう発展させるべく、2017年度は、科研費による研究(JSPS科研費17K03280)を開始した。</p> <p>2017年7月には第13回タイ研究国際会議(International Conference on Thai Studies, 略称ICTS)で研究発表を実施した。世界最大のタイ研究の学会であり、3年に一度開催されるこの学会にパネリストとして参加し、タイ北部地方の伝統的な宗教性を構成するいくつかの宗教ジャンルの宗教実践者たちの新たな協同的实践とその意義に関する研究発表を実施した。本テーマは文化人類学の重要な研究領域のひとつであり、各国の研究者が切磋琢磨する状況が数十年続いている。この研究発表に関わって、後日オーストラリアの研究者から、このパネルの研究発表を元にした国際共同出版の提案があり、現在具体化に向けて準備をしている。さらに、2018年度に開催されるThe 22nd Biennial Conference of the Asian Studies Association of Australia (ASAA)においても研究発表を行うこととなった。</p> <p>2018年度からは、一連の研究成果をよりいっそう国内外に発信していく所存である。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Reconfiguring Lan Na Religiosity: Interconnectedness of Religious Actors through Spirit Possession in Chiang Mai, Northern Thailand	単著	2017年7月16日	In the Proceedings of the 13th International Conference on Thai Studies, Held in July 2017, in Chiang Mai University, Thailand (based on the presentation in the Panel Titled “Region and History in the Localization of Thai Spirit Possession”)		pp.336-346

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
Reconfiguring Lan Na Religiosity: Interconnectedness of Religious Actors through Spirit Possession in Chiang Mai, Northern Thailand	2017年7月16日	The 13th International Conference on Thai Studies (In the Panel Titled “Region and History in the Localization of Thai Spirit Possession”) (Chiang Mai Univeristy/Chiang Mai, Thailand)	
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
日本学術振興会	2017年4月～2020年3月	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 課題番号:17K03280 平成29年度 基盤研究(C) 北タイ、チェンマイの霊媒術と 憑依文化の再編に関する人類学的研究	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
The 13th International Conference on Thai Studiesのパネル“Region and History in the Localization of Thai Spirit Possession”での発 表	2017年7月16日	チェンマイ大学(タイ)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本文化人類学会、日本社会学会、日本宗教学会、関西社会学会

小笠原 一 彰 (おがさわら かずあき) 専任講師



出 生 年 : 1972(昭和47)年
 在 籍 : 2014(平成26)年4月～
 最 終 学 歴 : 横浜国立大学大学院教育学研究科健康・スポーツ系教育
 専攻
 学 位 : 修士(教育学)
 学 位 論 文 : 競泳選手のクリティカル・スイム・スピードの決定
 専 門 分 野 : コーチング学、トレーニング科学、運動生理学、スポーツ心
 理学
 前 職 : 桐蔭学園中高社会科教員(専門:日本史)
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 : 中高社会科教員1種免許(地理歴史)
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 早稲田大学体育名誉賞(1993)、神奈川県水泳連盟特別功
 労賞(2012)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本体力医学会、運動生理学会、水泳水中運動学会、スポーツ心理学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1995年4月～現在	神奈川県水泳連盟強化委員
2000年4月～現在	神奈川県高校体育連盟水泳専門部常任委員

佐藤 国正 (さとう くにまさ) 専任講師



出生年：1983(昭和58)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士前期課程修了
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：スポーツと暴力に関する文化論的研究－運動部活動の指導場面に着目して－(修士論文)
 専門分野：スポーツ哲学、バレーボール
 前職：桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部(助手)
 学内役職等：
 留学：
 資格：国際バレーボール連盟公認コーチ資格(レベルII)
 公益財団法人日本バレーボール協会公認講師
 財団法人日本体育協会上級コーチ
 財団法人日本体育協会公認スポーツリーダー
 中学校・高等学校教諭専修免許状(保健体育)
 中学校・高等学校教諭1種免許状(保健体育)
 実用フランス語技能検定3級
 自然体験活動指導者(自然体験活動リーダー)
 バルシューレジャパン公認バルシューレ指導者C級

非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
教職実践演習	2017年12月1日	教職実践演習講義内で使用する講義資料を作成

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
子どものボール運動指導についてドイツのBallshule Heidelbergに着目した研究を実施し、我が国の学校体育やスポーツ指導の現場への導入について四天王寺大学教育研究実践論集第4号にて提言した。 バレーボールの授業の充実に向けた研究と題して、授業内容としてゲームライクドリルの有用性を探り、桐蔭論叢第37号にて発表した。 バレーボールの指導者講習会における受講生の思考力・判断力・表現力の育成に取り組みをテーマとして論考し、四天王寺大学教育研究実践論集第4号にて発表した。 野外教育に関するとして、野外教育活動の必要性を問い質し、桐蔭論叢第38号にて発表した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
指導者講習会における受講者の思考力・判断力・表現力の育成に特化した取り組み－2016年度日体協公認指導者養成講習会(バレーボール)における実習指導について－	共著	2017年9月	四天王寺大学、教育研究実践論集第4号	吉田康成・佐藤重芳・ 佐藤国正	267－274頁
子どものボール運動指導に関する一考察－ドイツのBallshule Heidelbergに着目して－	共著	2017年9月	四天王寺大学、教育研究実践論集第5号	吉田康成・今野賛・ 佐藤国正 ・佐藤重芳	257－266頁
バレーボールの授業の充実に向けた研究	単著	2017年9月	桐蔭論叢、第37号	佐藤国正	61－68頁

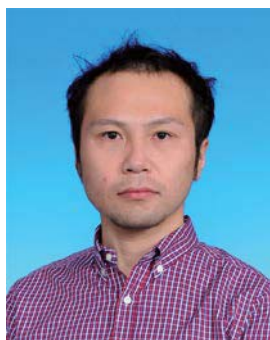
Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会、日本バレーボール学会、日本体育・スポーツ哲学学会、日本運動・スポーツ科学学会、日本オリンピックアカデミー、

Ⅳ芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(女子バレーボール部監督)			
2017年度春季関東大学バレーボールリーグ戦女子4部Aリーグ	2017年4月～5月	玉川大学、他	女子4勝1敗(リーグ2位／総合4位)
2017年度神奈川県知事杯大学バレーボールリーグ戦女子2部	2017年6月	神奈川大学、他	女子4勝(優勝)1部昇格 スパイク賞:高橋郁佳(スポーツ教育学科1年) ブロック賞:渡辺真帆(法律学科3年) リベロ賞:長尾咲季(法律学科1年) 新人賞:清水快(スポーツ健康政策学科1年)
2017年度東日本バレーボール大学選手権大会女子	2017年6月	墨田区総合体育館、他	トーナメント2回戦敗退
2017年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦女子4部Bリーグ	2017年9月	成蹊大学、他	女子2勝3敗(4位／総合7位)
2017年度神奈川県大学バレーボール連盟トーナメント(女子)	2017年11月	神奈川大学	女子:2回戦敗退

田中宏和 (たなか ひろかず) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科博士後期課程
 単位取得後退学
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：戦後日本におけるスポーツ政策の展開に関する研究－「体
 育政策」から「スポーツ政策」への転換－
 専門分野：スポーツ行政学、スポーツ政策学、スポーツマーケティング
 前職：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科 助手
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭専修免許(保健体育)
 高等学校教諭専修免許(保健体育)
 非常勤講師：東洋大学、東京有明医療大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
映像を用いた実技授業	2008年4月～現在	実技科目(剣道・剣道指導法・剣道コーチング論)において、習得すべき技術を映像等を用いて説明を実施し、学習の促進を行った。
レポートによる種目特性の習得	2008年4月～現在	実技科目(剣道・剣道指導法)において実技技能以外の種目特性の習得のためレポートの作成等の工夫を行っている
映像を用いた授業	2014年4月～現在	地域スポーツ経営論において地域スポーツの現状を把握するために映像等を用いて説明を実施し、学習の促進を行った。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会、日本体育・スポーツ政策学会、日本NPO学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本スポーツマネジメント学会

尾山 裕介(おやま ゆうすけ) 助教 (2018年度 新任教員)



出生年：1989(平成1)年
 在籍：2018年(平成30)年4月～
 最終学歴：新潟大学大学院現代社会文化研究科人間形成研究専攻
 修了
 学位：博士(学術)
 学位論文：中高齢者を対象とした転倒予防に基づく動的姿勢制御能力の評価法の確立

専門分野：応用健康科学、測定評価学、健康づくり
 前職：医療法人宮仁会 猫山宮尾病院事務部健康づくり課
 学内役職等：

留学：
 資格：健康運動指導士、温泉利用指導者、2級フィットネスクラブ・
 マネジメント技能士、高等学校教諭専修免許(保健体育)

非常勤講師：
 受賞・表彰：日本体育学会測定評価専門分科会優秀発表賞(2013年8月、2015年8月)、日本体育測定評価学会優秀発表賞(2016年3月)

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略			
高齢者の転倒予防を目的に動的姿勢制御能力について研究を進め、身体機能だけでなく、認識誤差との関連性について検討した。それらの成果を9月に開催された日本体育学会と日本体力医学会で発表した。現在、よりダイナミックな動きである歩行に着目し、足踏み動作による歩行機能の評価法について研究を進めている。その成果の一部は3月に開催された日本体育測定評価学会で発表した。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
(ポスター)不安定面上の立位姿勢保持能力と身体機能における認識誤差との関連性	2017年9月	日本体育学会第68回大会(静岡大学)	尾山裕介、村山敏夫、太田玉紀
(ポスター)東アジア民族間における教育環境・文化及び生活習慣の違いが体格・体力に与える影響	2017年9月	日本体育学会第68回大会(静岡大学)	2. HEQI YELITU、村山敏夫、四家千里、原光希、佐々木雅咲子、尾山裕介
(ポスター)不安定面上の立位姿勢保持能力と身体機能における認識誤差との関連性	2017年9月	第72回日本体力医学会大会(松山大学)	尾山裕介、村山敏夫、太田玉紀
(口頭)女性中高齢者を対象とした足踏み動作における床反力の左右差について一膝痛の有無に着目して	2018年3月	日本体育測定評価学会第17回大会(愛知大学)	尾山裕介、村山敏夫、太田玉紀
(ポスター)幼児の適応的運動学習に着目した姿勢制御と足圧分布パターン	2018年3月	日本体育測定評価学会第17回大会(愛知大学)	村山敏夫、四家千里、原光希、坂口雄介、小山清夏、尾山裕介

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会 日本体力医学会 日本体育測定評価学会 地域デザイン学会 文理シナジー学会

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2014年4月～2018年3月	日本健康運動指導士会新潟県支部 理事
2015年4月～現在	地域デザイン学会 東北・新潟地域部会 運営委員
2015年4月～現在	地域デザイン学会 温泉文化フォーラム 運営委員

吉田 勝光 (よしだ まさみつ) 教授



出生年：1949(昭和24)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：東亜大学大学院総合学術研究科法学専攻修士課程修
 学位：博士(体育学) 法学修士
 学位論文：①体育・スポーツ事故に関する法学的研究(博士) ②
 スポーツ基本条例の制定に係る憲法上の諸問題に関
 する一考察(修士)
 専門分野：スポーツマネジメント、スポーツ行政・政策、スポーツ法
 前職：松本大学人間健康学部スポーツ健康学科
 学内役職等：スポーツ健康政策学科特任教授

留資格：①総合型地域スポーツクラブアシスタントマネージャー、
 ②行政書士、③日本テニス協会上級公認指導
 者資格、④日本体育協会公認スポーツリーダー

非常勤講師：
 受賞・表彰：学会賞(平成16年度日本体育・スポーツ経営学会)「法
 務経営の観点から見た学校体育・スポーツ事故に関す
 る一考察」

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
こどもの国・ベビーカー親子連れへの支援活動で、学生に地域貢献活動に関わらせた。	2016/7～2017/5/3	2017年5月3日にベビーカーマップのお披露目を行った。こどもの国正面玄関入ったところで、アンケートをとったり、坂道等の補講が難しい箇所をチェックした学生有志3名で、2時間程度で、500枚程度配布した。ベビーカーマップの完成については、タウンニュース(2017年5月4日付け)でも報道された。
青葉バラウオーク実施指導	2017/2～2017/5	2017年3月26日～同年6月4日まで開催された全国緑化フェアin横浜・青葉区フラワーネックレス事業かつ青葉区本学連携事業の一環として、青葉バラウオーク(ウォーキングイベント)を同年5月20日に実施した。吉田研究室のゼミ生が中心となって、コース設定、下見、当日の案内、マップの作成、マニュアルの作成等を行った。取材を受けたり、ラジオ放送に出演したりもした。学生には、ウォーキングイベントを通じて、イベントのマネジメントや行政との連携等を学ばせた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
標準テキスト・スポーツ法学(第2版)	2017年9月22日発行	先に2016年に発行した初版の改訂版である。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
文理シナジー学会大会研究発表「大学と地域との連携～学園周辺のウォーキングコース開設～」	2017/5/24発表	学園周辺のコースの開設(準備も含めて)をとおして、学生に企画力、コミュニケーション力等を身につけさせた。研究発表にはこの内容も盛り込んでいる。
知研・東京セミナー「スポーツ・健康の研究・教育の現場から」	2017/7/26発表	NPO法人知的生産の技術研究会主催のセミナー。現在の大学・学生の状況を講演した。

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
<p>スポーツ法学関係では、好評を得た『標準テキスト・スポーツ法学』の第2版を発行することができた。また、スポーツに関する法的問題を法律相談という形で発行(共著)した『スポーツの法律相談』を発行した。スポーツ政策関係では、文化政策の研究者と、文化とスポーツの政策を条例レベルで比較した『文化条例政策とスポーツ条例政策』を公にすることができた。これについては、文化経済学会誌(文化経済学会発行)で、書評として取上げられ、改訂版が望まれるとの高評価を得た。また、研究論文も、文化経済学会から依頼され、「オリンピックとスポーツ条例政策」と題して寄稿した。その他、野球関係、地域貢献のイベント関係、教育関係の論稿を発表した。今後は、スポーツ条例政策に関する研究を更に進化させ、上記『文化条例政策とスポーツ条例政策』を踏まえた著書を発行できるような研究をしていく。また、地域貢献のイベント関係の論文文化を図りたい。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
スポーツの法律相談	共著	2017年4月7日	青林書院	菅原哲郎、森川貞夫、浦川道太郎、望月浩一郎監修	吉田は以下を執筆。 ① 住民による行政への不服申立て 277-279頁 ② 公立学校教員(地方公務員)の行政処分 280-282頁 ③ 公共スポーツ施設での瑕疵(老朽化、整備不良等)による事故と責任 287-289頁
文化条例政策とスポーツ条例政策	共著	2017年4月20日	成文堂	吉田勝光、吉田隆之	著者: 吉田勝光、吉田隆之 【吉田勝光担当箇所】 第2編(スポーツ条例の研究: 単著93-177頁)、第3編(スポーツ条例と文化条例の比較研究) 第1章(スポーツ条例—文化条例との比較から—: 共著 181-202頁)、同編第2章(例規集考: 単著 203-205頁)、第5編(スポーツ条例研究資料: 単著362-500頁) ※吉田勝光担当の総頁数は251頁(本書の総頁数: 505頁)。

標準テキスト・スポーツ法学(第2版)	共著	2017年9月22日	成文堂	浦川道太郎、吉田勝光、石堂典秀、松本泰介、入澤充編	吉田は、編者として全編について見直しを検討し、執筆担当箇所については、加筆修正を行った。＜編集＞第1編：スポーツ法学の入り口、第3編：刑事法とスポーツ＜執筆＞以下、すべて単著。第1編(全て)：17-41頁。第2編：公法とスポーツ第2章：行政法(1. 行政法の概要67-68頁。2. スポーツと行政法68-69頁。5. スポーツと住民訴訟73-75頁。6(4). スポーツ基本条例及びスポーツ推進計画との関係84-85頁)
(学術論文)					
総合研究・教育と法／公立学校事故と教員個人の損害賠償責任	単著	2017年9月	高校教育第50巻第10号		90-93頁
総合研究・教育と法／民法大改正と高校教育現場の対応	単著	2017年12月	高校教育第50巻第13号		90-93頁
キャッチボール考	単著	2017年12月19日	野球雲第10号(啓文社書房)		163-165頁
特集・オリンピックとスポーツ政策「オリンピックとスポーツ条例政策ー第32回オリンピック競技大会開催決定後の動きに焦点を当てー」	単著	2018年3月31日	文化経済学会第15巻第1号		34-37頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
(口頭発表)「大学と地域の連携～学園周辺のウォーキングコースの開設～」(要旨集1頁)		2017年5月24日	文理シナジー学会大会(筑波大学東京キャンパス/東京都文京区)	単独発表	
(シンポジウム司会・コーディネーター)スポーツ中の頭部外傷・脳震盪の対応と責任		2017年7月22日	日本スポーツ法学会(夏期合同研究会(福井大学/福井市))		

(シンポジウム趣旨説明)これで防げる学校体育スポーツ事故	2017年8月27日	一般社団法人日本スポーツ法支援・研究センター、NPO法人Safe Kids Japan 早稲田大学法学部(早稲田大学/)	
(口頭発表)「民官学の連携・子育て支援～こどもの国ベビーカーマップづくり～」(要旨集1頁)	2017年11月22日	文理シナジー学会大会(筑波大学東京キャンパス/東京都文京区)	単独発表
(シンポジウム司会・座長)野球文化学会研究大会「野球と音楽―応援歌の果たす役割―	2017年12月9日	野球文化学会大会(法政大学市ヶ谷キャンパス/東京都千代田区)	
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
上級指導者研修会講師「スポーツと法」	2017年11月19日	愛知県体育協会	愛知県教育会館
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
子育て支援「ベビーカーマップ」の作製	2016年7月～2017年5月	社会福祉法人こどもの国、青葉区	
ウォーキングマップ(シニア用)の作製	2017年9月～2018年5月	社会福祉法人こどもの国協会、横浜市青葉区、横浜美術大学	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「ベビーカーマップ完成/こどもの国で配布開始」	2017年5月4日	タウンニュース(青葉区版)1面。	
「青葉ウォーキング通信(第1号)」	2017年5月1日	広報よこはま/青葉区版2017年5月号12頁。	
「青葉ウォーキング通信(最終号)」	2017年10月1日	広報よこはま/青葉区版2017年10月号16頁。「青葉ウォーキング通信:青葉区のコース設定は楽しい！」(単著)	
「こどもの国を応援します」	2017年10月1日	こどもの国ニュース第571号(2017年10月号)〇頁。	
話題の最前線「シンポジウム趣旨説明:これで防げる学校体育・スポーツ事故」	2017年10月15日	スポーツメディスン9・10月合併号(49頁)で、本趣旨説明が紹介された。	
(その他特記事項)			
イツコムチャンネル(地デジテレビ11ch)「地モトTVおかえりコーナー」で、青葉パラウォーク実施中での取材を放送。放送日時:2017年5月31日6:30～6:50、18:00～18:20、20:00～20:20)			
FMサルスあおバリューRadio(青葉区役所の広報番組84.01mhz)「なしかちゃんコーナー」で青葉パラウォーク実施中での取材を放送。放送日時:2017年5月24日11時00分～11時20分、再放送18:30～18:50)。			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育・スポーツ政策学会、日本スポーツ法学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本教育行政学会、日本スポーツ産業学会、日本スポーツ社会学会、日本公法学会、日本私法学会、文理シナジー学会、デジタルアーカイブ学会、野球文化学会 等

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2003年4月～現在	日本体育・スポーツ政策学会理事、理事長(2009年4月～2017年3月)	
2006年12月～現在	日本スポーツ法学会理事(～現在)、スポーツ法学教育の在り方検討委員会委員長(2013年10月～2016年12月)、事故判例研究委員会委員長(2013年12月～現在)	
2013年10月～現在	松本市スポーツ推進審議会委員(会長)	
2013年4月～現在	大町市スポーツ推進審議会委員	
2000年4月～現在	日本テニスボール協会評議員	
2008年7月～現在	日本スポーツ仲裁機構仲裁人・調停人候補者	
2008年7月～現在	日本スポーツ法学会理事、スポーツ法学教育の在り方検討委員会委員長(2013年10月～2017年12月)、事故判例研究委員会委員長(2013年12月～現在)	
2016年6月～2017年9月	青葉区フラワーネックレス青葉2017実行委員会委員	
2017年3月～現在に至る	野球文化學會副会長(編集担当)兼学会誌「ベースボールロジー」編集委員会委員長	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
こどもの国ベビーカー親子支援散策マップづくり:昨年7月から学生らと取り組んでいたベビーカー利用者のためのマップが、ようやく完成した。2017年5月3日にマップのお披露目会を開催した。	2017年5月3日	社会福祉法人こどもの国、横浜市青葉区との連携事業
青葉バラウオークの実施	2017年5月20日	横浜市青葉区との連携事業(共同主催)
こどもの国シニア健康マップづくり	2017年7月～2018年5月	社会福祉法人こどもの国、横浜市青葉区との連携事業

大学院工学研究科 (Graduate School of Engineering)

杉本恒美 (すぎもと つねよし) 教授



出生年 : 1964(昭和39)年
 在籍 : 1993(平成5)年4月～
 最終学歴 : 東京工業大学大学院博士課程
 学位 : 博士(工学)
 学位論文 : 放射圧を用いた生体組織の硬さ計測に関する基礎的研究
 専門分野 : 超音波工学、音響工学、生体医用工学
 前職 :
 学内役職等 : 研究推進部副部長(2011～)
 大学院アドミッション委員(2012～)
 環境エネルギー学環 研究推進チームメンバー(2011～)
 留資格 :
 留資格 : 第一種情報処理技術者
 日本超音波医学会「超音波工学Fellow」(1999～)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : Scilab Toolbox Japan Contest 2009, 一般部門 最優秀賞
 建設施工と建設機械シンポジウム2014 論文賞
 建設施工と建設機械シンポジウム2017 優秀論文賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
基礎情報処理	2015年4月～	数値計算システムであるScilabを用いて、実験データの計算処理が行えるようになるためのプログラミング基礎を解説。大学院授業で使用。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「世界中のコンクリート欠陥探査の常識が変わる!？」 -最新 非接触音響探査法のすべて-	2014年9月27日～	学園祭フロンティアセミナーにおける講演、非接触音響探査法に関する最新Topic(参加者、理数科約30名)(2014年より3年連続担当)
4.その他教育活動上特記すべき事項		
「風も無いのに葉っぱが揺れる？」 おもしろ理科教室	2013年～	パラメトリック音源を用いた音響放射圧の実験(2013年より4年連続担当)
「音波に関する実験」 桐蔭高校理数科課題研究	2013年～	パイプを用いた楽器作り(共振)、各種音源特性(指向性)等の実験(2013年より4年連続担当)

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
・農工融合計測 1. 音波振動を用いた植物の健康状態評価に関する研究(基盤C、代表研究者3年目) 2. 植物映像のゆらぎ解析による作物給水ニーズの推定(基盤C、分担研究者2年目) ・非破壊計測 1. 非接触音響探査法の欠陥検知アルゴリズムに関する研究(基盤C、分担研究者3年目) 2. 非接触音響探査を用いたコンクリートの強度評価に関する研究(基盤C、分担研究者1年目) 3. マルチロータ型ヘリコプターを用いた非接触音響探査法に関する研究(若手B、協力研究者1年目) 4. 非接触音響探査法による外壁調査の効率性向上に関する検討(国土交通省 建設技術研究開発助成制度H29.8-H31.3) 5. 軟性容器に対する非接触音響検査手法の適用性に関する検討(合同研究 プロテック㈱ H28.9-H31.8) 6. 非接触音響探査法の航空宇宙部品への適用性検討(合同研究 ㈱IHIエアロスペース H29.4-H30.3) 7. 音響探査法を用いた検査手法の基礎検討その他作業の指導(東電)(奨学寄付金 佐藤工業㈱ H29.8-H30.7) 8. 非接触音響探査法を用いた現地実験およびその指導(本四架橋)(奨学寄付金 佐藤工業㈱ H29.10-H30.9) ・医用計測 1. コロトコフ音波形解析による健康管理指標値の研究(アクアメイトでの計測を継続)					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
音響放射圧を用いた葉および茎の振動計測による植物健康状態の推定に関する研究	共著	2017年6月1日	超音波テクノ Vol.29, No.3	杉本恒美, 中川裕, 佐野元昭	43-47頁
「叩き点検を代替する技術の開発」	共著	2017年6月28日	コンクリート工学 Vol.56, No.6	歌川紀之, 安永守利, 杉本恒美	502-509頁
「音波照射加振とレーザードップラ振動計による土木構造物の非接触・非破壊検査法(前編)」	共著	2017年8月1日	検査技術 Vol.22, No.8	杉本恒美, 杉本和子, 歌川紀之, 黒田千歳, 片倉景義	7-17頁
「音波照射加振とレーザードップラ振動計による土木構造物の非接触・非破壊検査法(後編)」	共著	2017年9月1日	検査技術 Vol.22, No.9	杉本恒美, 杉本和子, 歌川紀之, 黒田千歳, 片倉景義	8-17頁
(学術論文)					
“High-speed noncontact acoustic inspection method for civil engineering structure using multitone burst wave”	共著	2017年6月27日	Jpn. J. Appl. Phys., Vol.56	Tsuneyoshi Sugimoto, Kazuko Sugimoto, Nobuaki Kosuge, Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura	07JC10
遠距離音波照射加振を用いた非接触探査法の欠陥検出アルゴリズム	共著	2017年07月12日	コンクリート工学年次論文集, Vol.39,	杉本恒美, 杉本和子, 川上明彦, 歌川紀之	1849-1854頁
「CCDカメラを用いた葉の固有振動数計測による植物の水ストレス推定」	共著	2017年7月16日	桐蔭論叢 第36号	佐野元昭, 内川千春, 中川裕, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美	197-202頁
「コンクリート構造物のための非接触音響探査法に関する研究—鉄筋腐食によるコンクリートひび割れの検出—」	共著	2017年7月16日	桐蔭論叢, 第36号	杉本和子, 杉本恒美	203-206頁
「音波照射加振を用いた土木構造物のための高速非接触音響探査法に関する研究—マルチトーンパースト波のS/N比に関する検討—」	共著	2017年7月16日	桐蔭論叢, 第36号	小菅信章, 杉本恒美	207-210頁

「コンクリート非破壊計測のための非接触音響探査法に関する研究—長距離計測に関する研究—」	共著	2017年7月16日	桐蔭論叢,第36号	上地樹,小菅信章,杉本和子, 杉本恒美	211-216頁
「小松菜を定植した培養土中の音波伝搬速度と体積含水率の検討」	共著	2017年7月16日	桐蔭論叢 第36号	大平武征, 杉本恒美 , 佐野元昭, 白川貴志, 中川裕, 内川千春	217-222 頁
「植物の葉の固有振動数のモデル化に関する研究(2)」	共著	2017年7月16日	桐蔭論叢 第36号	内川千春, 中川裕, 大平武征, 佐野元昭, 杉本恒美	227-232頁
「植物栽培中の培養土における伝搬音速計測に関する検討(2)」	共著	2017年7月16日	桐蔭論叢 第36号	白川貴志, 大平武征, 中川裕, 佐野元昭, 杉本恒美	233-236頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Non-contact acoustic inspection method for civil engineering structure using air-borne sound and laser Doppler vibrometer (Invited lecture)”	2017年4月19日	OPTICS&PHOTONICS International Congress 2017(OPIC2017)パシフィコ横浜	Tsuneyoshi Sugimoto , Kazuko Sugimoto, Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura		
非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究 -高速計測に関する検討-	2017年6月7日	物理探査学会第136回(平成29年度春季)学術講演会論文集 pp.142-143 (2017.6.7) 早稲田大学国際会議場	早稲田大学国際会議場		
「非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究 -遠距離計測に関する検討-」	2017年6月7日	物理探査学会第136回(平成29年度春季)学術講演会 早稲田大学国際会議場	杉本恒美 , 杉本和子, 上地樹, 川上明彦, 黒田千歳, 歌川紀之		
“The Defect Detection Algorithm that Combined Spectrum Entropy with Vibrational Energy Ratio for acoustic inspection method”	2017年6月28日	3rd Joint Meeting Acoustical Society of America and European Acoustics Association (Acoustics '17 Boston) Hynes Convention Center, Boston, MA	Kazuko Sugimoto, Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura		
“High speed Non-Contact Acoustic Inspection Method using Long Distance Acoustic Irradiation-Induced Vibration”	2017年6月28日	3rd Joint Meeting Acoustical Society of America and European Acoustics Association (Acoustics '17 Boston) Hynes Convention Center, Boston, MA	Tsuneyoshi Sugimoto , Kazuko Sugimoto, Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura		
「複合材料の非接触超音波探傷検査によるはく離評価」	2017年7月13日	先進的非破壊評価合同シンポジウム 東北大学流体科学研究所	今井済, 佐藤明良, 杉本恒美 , 杉本和子, 中川裕, 小菅信章		
“Extraction of healthy part using acoustic characteristics quantities for defect detection by non-contact acoustic inspection method”	2017年9月7日	IEEE International Ultrasonics Symposium 2017 (IEEE IUS 2017) Omni Shoreham Hotel (Washington DC, USA)	Kazuko Sugimoto, Tsuneyoshi Sugimoto , Takeyuki Ohdaira, Itsuki Uechi, Noriyuki Utagawa		

“Long distance measurement over 30m by high-speed noncontact acoustic inspection method using acoustic irradiation induced vibration”	2017年9月8日	IEEE International Ultrasonics Symposium 2017 (IEEE IUS 2017) Omni Shoreham Hotel (Washington DC, USA)	Tsuneyoshi Sugimoto , Kazuko Sugimoto, Itsuki Uechi, Takeyuki Ohdaira, Akihiko Kawakami, Noriyuki Utagawa
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発-吹付けコンクリートへの適用性検討-」	2017年9月11日	土木学会第72回年次学術講演会 九州大学 伊都キャンパス	杉本恒美 , 杉本和子, 金子岳夫, 森岡宏之, 志岐仁成, 中川貴之, 歌川紀之
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発-長距離計測に関する検討(II)-」	2017年9月11日	土木学会第72回年次学術講演会 九州大学 伊都キャンパス	上地樹, 杉本恒美 , 杉本和子, 川上明彦, 歌川紀之
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発-健全部評価に関する検討(II)-」	2017年9月11日	土木学会第72回年次学術講演会 九州大学 伊都キャンパス	杉本和子, 杉本恒美 , 黒田千歳, 歌川紀之
「コンクリート非破壊計測のための非接触音響探査法に関する研究* -凹凸のある吹付けコンクリートにおける打音法との比較検討-」	2017年9月26日	音響秋季研究発表会 愛媛大学城北キャンパス	杉本恒美 , 杉本和子, 上地樹, 小菅信章, 歌川紀之, 黒田千歳, 金子岳夫, 森岡宏之, 志岐仁成, 中川貴之
「コンクリート非破壊計測のための非接触音響探査法に関する研究 -マルチトーンバースト波を用いた高速計測におけるS/N比に関する検討(2)-」	2017年9月26日	音響秋季研究発表会 愛媛大学城北キャンパス	小菅信章, 上地樹, 杉本和子, 杉本恒美 , 歌川紀之
「空中放射音波を用いた非接触欠陥検出法に関する検討 -地下大空洞内の吹付けコンクリートに対する適用性の検討-」	2017年10月5日	日本非破壊検査協会、平成29年度秋季講演大会 福岡国際会議場	杉本恒美 , 杉本和子, 上地樹, 小菅信章, 歌川紀之, 黒田千歳, 金子岳夫, 森岡宏之, 志岐仁成, 中川貴之
「空中放射音波を用いた非接触欠陥検出法に関する検討 -高架橋における30mを超える長距離計測-」	2017年10月5日	日本非破壊検査協会、平成29年度秋季講演大会 福岡国際会議場	上地樹, 杉本恒美 , 杉本和子, 小菅信章, 歌川紀之, 黒田千歳, 川上明彦
「非接触音響探査法によるコンクリート内部欠陥の検出-健全部の評価-」	2017年10月27日	超音波シンポジウム(USE2017) 多賀城文化センター	杉本和子, 杉本恒美 , 歌川紀之, 黒田千歳
「通常のCCDカメラを用いた葉の固有振動数の日周変動測定による植物の水ストレス推定」	2017年10月27日	超音波シンポジウム(USE2017) 多賀城文化センター	佐野元昭, 内川千春, 中川裕, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美
「インフラ点検のための音波照射加振による高速非接触音響探査法 -マルチトーンバースト波を用いた橋梁における検証-」	2017年11月8日	平成29年度 建設施工と建設機械シンポジウム 機械振興会館	杉本恒美 , 杉本和子, 歌川紀之, 川上明彦
“Study on a noncontact acoustic inspection method for concrete non-destructive testing,-Analysis of the S / N ratio for high speed measurement-”	2017年11月11日	12th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Paulownia Hall, Toin Gakuen Academium B2F	Nobuaki Kosuge, Tsuneyoshi Sugimoto

“Study on Noncontact Inspection Method for Concrete Structures, -Evaluation of healthy part for an actual concrete structure-”	2017年11月11日	12th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Paulownia Hall, Toin Gakuen Academium B2F	Kazuko Sugimoto, Nobuaki Kosuge, Itsuki Uechi , Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa , Chiose Kuroda
“Study on Detection of Gas in Soft Beverage Container using Acoustic Irradiation Induced Vibration”	2017年11月11日	12th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Shigeya Kawai, Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on Inspection of Aircraft Parts Using Sound Vibration”	2017年11月11日	12th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on the relation between propagation velocity of sound and volume water content in the culture soil where Komatsuna was planted”	2017年11月11日	12th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Takeyuki Ohdaira, Tsuneyoshi Sugimoto , Motoaki Sano , Takashi Shirakawa, Yutaka Nakagawa, Chiharu Uchikawa
“Propagation velocity in soil using Handheld Sound Source and Sensors (Ⅲ)”	2017年11月11日	12th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Takashi Shirakawa, Takeyuki Ohdaira, Yutaka Nakagawa, Motoaki Sano, Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on the irrigation control using periodic frequency change of a plant leaf”	2017年11月11日	12th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Chiharu Uchikawa , Tsuneyoshi Sugimoto , Motoaki Sano, Takeyuki Ohdaira , Yutaka Nakagawa, Takashi Shirakawa
“Study on non-contact acoustic inspection method for concrete non-destructive inspection, -Study about long distance measurement(Ⅱ)-”	2017年11月11日	12th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Itsuki Uechi , Tsuneyoshi Sugimoto
“Long distance measurement over 30 m using non-contact acoustic inspection method”	2017年11月13日	15th Asia Pacific Conference for Non-Destructive Testing (APCNDT 2017) Marina Bay Sands Convention Centre, Singapore	Tsuneyoshi Sugimoto , Kazuko Sugimoto, Nobuaki Kosuge, Noriyuki Utagawa, Akihiko Kawakami
“Study about the S/N ratio of the multi-tone burst wave for high-speed non-contact acoustic inspection method”	2017年11月13日	15th Asia Pacific Conference for Non-Destructive Testing (APCNDT 2017) Marina Bay Sands Convention Centre, Singapore	Nobuaki Kosuge, Kazuko Sugimoto, Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa

“Evaluation of healthy part of concrete using acoustic characteristics for defect detection by non-contact acoustic inspection method”	2017年11月13日	15th Asia Pacific Conference for Non-Destructive Testing (APCNDT 2017) Marina Bay Sands Convention Centre, Singapore	Kazuko Sugimoto, Tsuneyoshi Sugimoto , Nobuaki Kosuge, Noriyuki Utagawa
「地下大空洞内の吹付けコンクリートに対する非接触音響探査法の適用性検討」	2017年11月30日	トンネル工学研究会 (公社)土木学会	杉本恒美 , 杉本和子, 歌川紀之, 黒田千歳, 金子岳夫, 森岡宏之, 志岐仁成, 中川貴之
「空中放射音波を用いた非接触音響探査法に関する研究 -健全部の統計的評価による欠陥検出と映像化-」	2018年2月19日	超音波&アコースティック・イメージング研究会 東京都立産業技術研究センター本部	杉本和子, 杉本恒美 , 歌川紀之, 黒田千歳
「非接触音響探査法を用いた軟性容器の内部気体量の検出に関する研究」	2018年2月19日	超音波&アコースティック・イメージング研究会 東京都立産業技術研究センター本部	川井重弥, 中川裕 杉本恒美
「音波振動を用いた航空宇宙部品の検査に関する研究」	2018年2月19日	超音波&アコースティック・イメージング研究会 東京都立産業技術研究センター本部	中川裕, 杉本恒美 , 杉本和子, 小菅信章, 今井済, 木村憲志, 佐藤明良
「非接触音響探査法のための欠陥検出アルゴリズム(その2)」	2018年3月16日	安全・安心な社会を築く先進材料・非破壊計測技術シンポジウム 愛媛大学 城北キャンパス 南加記念ホール	杉本和子, 杉本恒美 , 黒田千歳, 歌川紀之
「アルミハニカムパネルに対する非接触音響探査法の適用性検討」	2018年3月16日	安全・安心な社会を築く先進材料・非破壊計測技術シンポジウム 愛媛大学 城北キャンパス 南加記念ホール	杉本恒美 , 中川裕, 杉本和子, 小菅信章, 今井済, 木村憲志, 佐藤明良
「非接触音響探査法を用いた飲食用軟性容器の非破壊検査に関する研究」	2018年3月15日	日本音響学会春季講演発表会 日本工業大学	川井重弥, 中川裕, 杉本恒美
「非接触音響探査法を用いた航空宇宙部品の非破壊検査に関する研究」	2018年3月15日	日本音響学会春季講演発表会 日本工業大学	中川裕, 杉本恒美 , 杉本和子, 小菅信章, 今井済, 佐藤明良
「通常のCCDカメラを用いた葉の固有振動数解析による植物の水ストレス推定2」	2018年3月15日	日本音響学会春季講演発表会 日本工業大学	佐野元昭, 内川千春, 中川裕, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
Non-contact acoustic inspection method for civil engineering structure using air-borne sound and laser Doppler vibrometer (Invited lecture)	2017年4月19日	OPTICS&PHOTONICS International Congress 2017, Room316 LSSE4-2 Invited Lecture 16:00-16:30 Pacifico Yokohama	Tsuneyoshi Sugimoto, Kazuko Sugimoto, Noriyuki Utagawa and Kageyoshi Katakura
「世界中のコンクリート欠陥検査の常識が変わる!? 最新 非接触音響探査法のすべて」	2017年9月23日	2017桐蔭学園フロンティアセミナー	桐蔭学園高等学校
「レーザードップラ振動計と音波照射加振を用いたコンクリート欠陥検査技術(招待講演)」	2018年1月24日	レーザー学会学術講演会第38回年次大会	京都市勧業館みやこめっせ
○その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
非接触検査システム	2017年6月28日	特願2017-126317	出願人:学校法人桐蔭学園、プロテック(株) (杉本恒美, 中川裕, 川井重弥)
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「優秀論文賞」	2017年11月9日	一般社団法人 日本建設機械施工協会 機械振興会館	杉本恒美, 杉本和子, 歌川紀之, 川上明彦
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
奨学寄附金「音響探査法の開発のうち、大型超音波音源の検討」	2016年6月～2017年6月	佐藤工業(株) 寄付金額100万円(直接90万、間接10万)	
奨学寄附金「非接触音響探査法を用いた現地実験およびその指導」	2016年10月～2017年9月	佐藤工業(株) 寄付金額151万円(直接136万、間接15万)	
受託研究「音響探査法を用いた検査手法の基礎検討その他作業の指導」	2016年5月～2017年3月	佐藤工業(株) 受託研究費216万円(間接21.6万)	
共同研究「非接触音響探査法の航空宇宙部品への適用性検討」	2016年8月～2017年3月	(株)IHIエアロスペース 合同研究費178.2万円(直接162万、間接16.2万)	
共同研究「軟性容器に対する非接触音響検査手法の適用性に関する検討」	2016年9月～2019年8月	(株)プロテック 合同研究費1425万円(直接1296万、間接129.6万)	
共同研究「非接触音響探査法による航空宇宙部品への適用性の研究」	2017年4月～2018年3月	(株)IHIエアロスペース 合同研究費196万円(直接178万、間接17.8万)	
奨学寄附金「非接触音響探査法を用いた現地実験およびその指導」	2017年8月～2018年7月	佐藤工業(株) 寄付金額162万円(直接146万、間接16万)	
奨学寄附金「非接触音響探査法を用いた現地実験およびその指導(本四架橋)」	2017年10月～2018年9月	佐藤工業(株) 寄付金額108万円(直接97.2万、間接10.8万)	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
基盤研究(C)「非接触音響探査法の欠陥検知アルゴリズム改善に関する研究」	2015年度～2017年度	文部科学省科研費、研究代表者:杉本和子、分担研究者:杉本恒美 約380万円(間接経費114万)	

基盤研究(C)「音波振動を用いた植物の育成状態評価に関する検討」	2015年度～2017年度	文部科学省科研費、研究代表者:杉本恒美、分担研究者:佐野元昭 約390万円(間接経費117万)
基盤研究(C)「植物映像のゆらぎ解析による作物給水ニーズの推定」	2016年度～2018年度	文部科学省科研費、研究代表者:佐野元昭、分担研究者:杉本恒美 約380万円(間接経費114万)
基盤研究(C)「非接触音響探査を用いたコンクリートの強度評価に関する研究」	2017年度～2019年度	文部科学省科研費、研究代表者:大平武征、分担研究者:杉本恒美、杉本和子 約370万円(間接経費111万)
若手研究(B)「マルチロータ型ヘリコプターを用いた非接触音響探査法に関する研究」	2017年度～2019年度	文部科学省科研費、研究代表者:上地樹、協力研究者:杉本恒美、杉本和子 約310万円(間接経費93万)
国土交通省 建設技術研究開発助成制度「非接触音響探査法による外壁調査の効率性向上に関する検討」	2017年度～2018年度	国土交通省 建設技術研究開発助成制度、研究代表者:杉本恒美、分担研究者:歌川紀之 770万円(間接経費230万)
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
3rd Joint Meeting of the Acoustical Society of America and European Acoustics Association (Acoustics '17 Boston) 出席&口頭発表	2017年6月24日～7月1日	The John B. Hynes Veterans Memorial Convention Center (Boston, MA, USA)
2017 IEEE International Ultrasonics Symposium 出席&口頭発表	2017年9月3日～9月10日	Omni Shoreham Hotel (Washington DC, USA)
15th Asia Pacific Conference for Non-Destructive Testing (APCNDT)出席&口頭発表	2017年11月11日～11月18日	Marina Bay Sands Convention Centre (Singapore)
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「音波照射加振とレーザドップラ振動計による土木構造物の非接触・非破壊検査法(前編)」	2017年8月1日	検査技術 Vol.22, No.8 7-17項
「音波照射加振とレーザドップラ振動計による土木構造物の非接触・非破壊検査法(後編)」	2017年9月1日	検査技術 Vol.22, No.9. 8-17項
(その他特記事項)		
「衝撃弾性波法研究委員会 委員」2016/4/1～2018/3/31		
「日本音響学会2017年春季研究発表会 座長」2017/3/15 以下のセッションの座長を担当した。日本音響学会2017年春季研究発表会 座長 3月15日 第8会場 アコースティックイメージング(計測/可視化/可聴化/イメージング) 9時～10時15分 明治大学生田キャンパス(2017.3.15)		
「超音波シンポジウム運営委員会委員」第38回 超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム(USE2017) 運営委員会委員 2017年5月1日～2018年3月31日		
「超音波研究会専門委員」超音波研究会専門委員 任期は6年(2017年4月1日)		
「国土交通省、平成29年度建設技術研究開発助成制度に採択」国土交通省、平成29年度建設技術研究開発助成制度 政策課題 解決型技術開発公募(一般タイプ) テーマ④ 「効率性を大幅に向上させる維持管理・更新・リサイクルに関する技術」研究課題名: 「非接触音響探査法による外壁調査の効率性向上に関する検討」代表研究者 杉本恒美(桐蔭横浜大学 大学院工学研究科) 分担研究者 歌川紀之(佐藤工業(株)技術研究所) (2017.8.14)		
「日本音響学会2017年秋季研究発表会 座長」日本音響学会2017年秋季研究発表会 座長 9月25日 第2会場 超音波(非破壊評価/材料評価) 11時30分～12時15分 愛媛大学城北キャンパス(2017.9.25)		

「日本非破壊検査協会、平成29年度秋季講演大会 座長」 日本非破壊検査協会、平成29年度秋季講演大会 座長 オーガナイズドセッション「鉄筋コンクリート構造物の検査・点検のための非破壊試験方法(6)」 2017年10月5日 14時50分～16時10分 福岡国際会議場、第4会場(413会議室)
「Presider(Frontier Engineering 1, 12th Toin BME Symposium)」Presider(Frontier Engineering 1, 12th Toin BME Symposium) Tsuneyoshi Sugimoto Poster presentations, Frontier Engineering1 4:45-6:15 Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F 12th Toin International Symposium on Biomedical Engineering (2017.11.11)
「日本音響学会2018年春季研究発表会 座長」 2018年3月14日 日本音響学会2018年春季研究発表会 座長 第10会場 超音波(計測法) 9時15分～10時00分

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本音響学会、日本超音波医学会、日本生体医工学会、IEEE-UFFC、物理探査学会、日本土木学会、日本非破壊検査協会、日本コンクリート工学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1999年7月～現在	超音波工学フェロー(日本超音波医学会認定 EJSUM-69)
2010年5月～現在	超音波シンポジウム運営委員
2010年5月～現在	電子情報通信学会 常任査読委員
2014年3月1日～現在	「日本音響学会 アコースティックイメージング研究委員会 委員」
2014年4月～2018年3月	衝撃弾性波法研究委員会委員
2016年3月31日～2018年3月31日	日本音響学会編集委員会 査読委員
2017年4月～2023年3月	電子情報通信学会 超音波研究会専門委員(任期6年)

星 秋 夫 (ほし あきお) 教授



出 生 年 : 1954(昭和29)年
 在 籍 : 2008(平成20)年4月～
 最 終 学 歴 : 日本体育大学大学院体育学研究科体育学専攻 修了
 学 位 : 医学博士(順天堂大学)、体育学修士(日本体育大学)
 学 位 論 文 : Effects of swimming and weight loading on bone density and mechanical properties of femoral bone in mice
 専 門 分 野 : 環境衛生学、生気象学、健康・スポーツ科学
 前 職 : 日本歯科大学生命歯学部共同利用研究センター准教授
 学 内 役 職 等 : スポーツ科学研究科長(2015～)
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(教育講演)熱中症の語源と定義	2017年8月28日	日本スポーツ健康科学学会 第5回大会	星 秋夫
(口頭発表)安静時における酸化ストレスと呼吸中水素ガスの関連性について	2017年8月28日	日本スポーツ健康科学学会 第5回大会	沼野達博、星 秋夫、樫村修生
(口頭発表)2020年東京パラリンピックにおける屋外競技場のWBGTの予測	2017年8月28日	日本スポーツ健康科学学会 第5回大会	森田恭光、樫村修生、南和広、柏木朋也、星 秋夫
(口頭発表)2017年度熱中症予防指導士認定講座	2017年8月28日	日本スポーツ健康科学学会 第5回大会	坂手誠治、齊藤雄司、小山桂史、廣瀬立郎、島崎あかね、樫村修生、星 秋夫
(口頭発表)東京オリンピックにおける熱中症の危険性	2017年8月29日	日本スポーツ健康科学学会 第5回大会	星 秋夫、樫村修生
(口頭発表)一過性の運動時における酸化ストレスと呼吸中水素ガスの関連性について	2017年10月27日	第56回日本生気象学会大会 (東京)	沼野達博、星 秋夫、樫村修生
(ポスター発表)サチャインオイル事前服用が暑熱暴露下持久的運動時の体温調節反応に与える影響	2017年10月28日	第56回日本生気象学会大会 (東京)	島崎あかね、樫村修生、星 秋夫、前崎祐二、清柳典子
(ポスター発表)2020年東京オリンピックマラソン競技時における選手および観戦者側から見た暑熱暴露のシュミレーション	2017年10月28日	第56回日本生気象学会大会 (東京)	樫村修生、常盤勝美、星 秋夫
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
熱中症予防指導士講習会講師	2017年5月5日	日本スポーツ健康科学学会	桐蔭横浜大学

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
日本衛生学会、日本生気象学会、日本体力医学会、日本スポーツ健康科学学会	
2014年4月～現在	日本生気象学会会長
2013年2月～現在	日本スポーツ健康科学学会会長
2009年4月～現在	日本生気象学会幹事
2013年2月～現在	日本スポーツ健康科学会理事・評議員
1999年4月～現在	日本衛生学会評議員
1999年9月～現在	日本体力医学会評議員
2003年10月～現在	日本生気象学会評議員

桜井 智野風 (さくらい ともお) 教授



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：横浜国立大学大学院教育学研究科保健体育学専攻修了
 学位：博士(運動生理学), 教育学修士
 学位論文：「運動による骨格筋損傷とその治癒過程における一酸化窒素の関与」(博士論文)
 専門分野：運動生理学, スポーツ科学, トレーニング科学
 前職：東京農業大学 生物産業学部 准教授
 学内役職等：大学院スポーツ科学研究科専攻長

 留学：アメリカ・ウィスコンシン州立大学マディソン校キネシオロジー学部 客員研究員(1999～2000)
 資格：小学校教諭一種免許, 中学校教諭一種免許(保健体育), 高校学校教諭専修免許(保健体育), 日本体育協会公認コーチ(陸上競技), 国際陸上競技連盟 レベル I 講師

 非常勤講師：青山学院大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
運動生理学の基礎と発展 (フリースペース)	2002年4月～	運動生理学の教科書として使用.
パソコンで学ぶ元気で生きる健康科学 (三共出版)	2011年4月～	体育実技の教科書として使用.

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
空気中の酸素濃度が筋の損傷や筋肉痛に及ぼす影響を探った。その結果、酸素濃度は筋肉のリカバリーに大きく影響することが分かった。この結果を論文としてまとめ報告した。前年度のエストロゲンが筋の損傷に及ぼす影響についても、雌ラットをモデルとして続行中である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
イギリス・メダリスト育成プロジェクト・世界一流タレント育成に関する今日の科学的知見を検証する	共著	2017年10月	陸上競技研究紀要 13巻	伊藤静夫, 桜井智野風	pp.43-65
常圧低酸素環境下での高強度インターバルトレーニングが血糖値に及ぼす影響	共著	2018年2月	桐蔭スポーツ科学 Vol.1	桜井智野風, 滝野 彩, 出口雅樹, 高木 純	pp.19-24

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
骨格筋への様々な形態の圧刺激が筋内に及ぼす影響	2017年10月	第30回日本トレーニング科学会	出口雅樹, 桜井智野風
肥満が骨格筋損傷および修復に及ぼす影響	2017年10月	第30回日本トレーニング科学会	滝野 彩, 桜井 拓也, 桜井 智野風
方向が異なる跳躍動作による下肢筋動態の特徴	2017年10月	第30回日本トレーニング科学会	横山 智哉, 出口 雅樹, 桜井 智野風
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
講演会講師「カニチョッ筋体操の効果」	2017年7月4日	第13回健康都市連合日本支部総会・大会	網走市市民会館
○その他			
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
連載:カラダづくりのサイエンス	2012年4月～現在	北海道の国保(北海道国民健康保険団体連合会)	
連載:FUTURE RUNNING 未来のスポーツサイエンス	2014年4月～現在	ランニングスタイル(柘出版)	
掲載:どうしてこんなに硬いのか?カラダの仕組みからひも解こう。	2017年7月20日	Tarzan No. 723 (マガジンハウス)	
「超人の科学」フィギュアスケート4回転新時代頂点への戦い	2018年2月7日	読売新聞	
フィギュアスケート選手が空中で回転できるワケ	2018年2月23日	EMIRA (http://emira-t.jp/special/)	
(その他特記事項)			
杏林大学医学部衛生学教室と、肥満と筋損傷治癒の関連性について、動物をモデルとした共同実験を実施(2016年～現在)			
大学院生研究論文指導(2015～16年度:1名, 2017年度～現在:4名)			
健康科学の啓蒙普及を目的としたテレビ出演:日本テレビ「ZIP!」のHATENAVI 内容:「気になる消費カロリー あれって何kcal?」(2017年7月25日)			
陸上競技の強化・普及を目的としたテレビ出演:日本テレビ・関東学生陸上競技対抗選手権大会解説者(2016、2017、2018年度)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会, 日本体力医学会, 日本トレーニング科学会(理事), 日本生理学会, 日本臨床生理学会, 日本発育発達学会, 日本生気象学会, 日本健康医学会, 日本宇宙航空環境医学会, 日本陸上競技学会(理事), 日本スプリント学会, 日本スポーツ健康科学学会(理事), American College of Sports Medicine(アメリカスポーツ医学会)

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2007年4月～現在	日本トレーニング科学会理事	
2012年4月～現在	日本陸上競技学会理事	
2013年4月～現在	日本スポーツ健康科学会理事	
2014年4月～現在	日本生理学会評議員	
2014年4月～現在	日本体力医学会評議員	
2015年4月～現在	日本生気象学会事務局長	
2017年7月29～30日	第25回日本運動生理学会大会 医務局長	
2018年4月～現在	(一社)日本健康増進学術機構 構成員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全国の小学生・中学生対象の陸上競技教室における講師	2014年4月～現在	日本陸上競技連盟普及育成委員会
「かながわパラスポーツコーディネーター養成会」の運営事務局	2016～2017年度	神奈川県

澁倉 崇行 (しぶくら たかゆき) 准教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程(後期課程)心理発達科学専攻修了
 学位：博士(心理学)
 学位論文：「高校運動部員の心理的ストレスに関する研究:部活動ストレスモデルの構築と介入プログラムの作成」(博士論文)
 専門分野：スポーツ心理学
 前職：新潟県立大学人間生活学部准教授
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校・高等学校教諭専修免許状(保健体育),メンタルトレーニング指導士,アンガーマネジメントファシリテーター
 非常勤講師：国士舘大学,尚美学園大学
 受賞・表彰：日本体育学会学会賞(平成26年度)(共著者)

II 研究活動

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
青少年スポーツ活動における保護者の問題行為の発生機序と対処過程(研究代表者)	2015年4月～2019年3月	科学研究費補助金:基盤研究(B), 日本学術振興会

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会, 日本スポーツ心理学会, 日本教育心理学会, 日本健康心理学会, 日本ストレスマネジメント学会, 日本スポーツ産業学会, 日本コーチング学会

法科大学院 (Law School)

江口 眞樹子 (えぐち まきこ) 教授



出生年 : 1958(昭和33)年
在籍 : 2007(平成19)年4月～
最終学歴 : 神戸大学大学院法学研究科博士後期課程
学位 : 法学修士
学位論文 : 企業の社会的責任について—フランス法におけるsociétéとassociationに関する法の歴史的変遷を通じて
専門分野 : 商法、金融商品取引法
前職 : 平成国際大学法学部助教授
学内役職等 : 法科大学院 教務委員長
留学 : ドイツ連邦共和国ミュンヘン大学法学部(1987～1989)
資格 :
非常勤講師 : 平成国際大学大学院法学研究科
受賞・表彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本私法学会、日本経済法学会

大澤 恒夫 (おおさわ つねお) 教授



出生年：1954(昭和29)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程修了
 学位：法学博士
 学位論文：「弁護士業務における対話の理念と技法—法と対話の専門家をめざして」
 専門分野：法的対話論、司法アクセス論、弁護士論、ADR論、(弁護士としての主要業務)IT分野における知的財産法、競争法、企業再建
 前職：
 学内役職等：ミディエーション・交渉研究所センター長 (2014～)
 留学：
 資格：弁護士(1981年～現在)
 非常勤講師：中央大学法科大学院客員教授(裁判外紛争解決)
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
ケースメソッド	2005年4月～	裁判例(特に第1審判決)等により、具体的事実やそこから伺われる現実の複雑さ、法実践での事実の切り出し方、自分自身の取り組みとしてどのように考えるか、などを検討する。
実演、ロールプレイと振り返り	2005年4月～	人と人が話し合うプロセスについて、台詞を用意して行う実演やケースを設定して行うロールプレイを実施し、参加者全員で振り返りを行うことにより、法運用をめぐる実践知の内面化への契機をつかむ。
プレゼンテーションとファシリテーション	2005年4月～	プレゼンテーション(発表)とファシリテーション(議論の支援)について、その技法を理解し、実践してみることを通じて、コミュニケーション力の向上への契機をつかむ。
授業ごとの短時間小レポート課題	2005年4月～	各授業の最後の15～20分程度を使い、その日の授業(または前回の授業)の復習になる事項について、設問を示して(あるいは自由に課題を設定させ)その場で、ミニレポートを書かせることにより、授業内容の理解の促進と短時間での手書き文章力の向上を図る。
学生自身の紛争体験から紛争プロセスを振り返る	2005年4月～	学生自身の紛争体験(大小や種類は問わない)を振り返り、そのプロセスを丁寧に辿ることにより、紛争の発生から解決・克服への過程の中に含まれる重要な実践知に気付くとともに、これからの法律学習への動機付けを高める。
5.その他教育活動上特記すべき事項		
ソフトウェア情報センター「ソフトウェアの知的財産権入門講座」講師	2001年2月～現在	IT関連の法務担当者や若手弁護士等を対象に、ITに関連する知的財産と独占禁止法上の諸問題について解説。
大学間交渉コンペティション審査員	2004年12月～現在	大阪大学・上智大学「平成16年度・特色ある教育支援プログラム(特色GP)」事業(住友グループ広報委員会・日本仲裁人協会等後援)により、国際的に活躍する交渉者の育成を目指して、毎年2日間にわたる模擬仲裁、模擬交渉による競技会が行われ、その審査員を務めている。

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、日本法社会学会、法とコンピュータ学会、仲裁ADR法学会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2005年4月～現在	法とコンピュータ学会理事
2006年4月～現在	司法アクセス学会理事
2005年4月～現在	財団法人ソフトウェア情報センター(SOFTIC)評議員
	ソフトウェア紛争解決センター運営委員
	「司法制度改革と先端テクノロジー」研究会委員
	日本仲裁人協会会員、日弁連業務改革委員会幹事
	インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション審査員

蒲 俊 郎 (かば としろう) 教授



出 生 年 : 1960(昭和35)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 慶應義塾大学法学部法律学科
 学 位 :
 学 位 論 文 :
 専 門 分 野 : 電子商取引(EC)、労働法(使用者側)
 前 職 : 桐蔭横浜大学客員教授
 学 内 役 職 等 : 法務研究科長 (2014～)
 留 学 :
 資 格 : 弁護士(第二東京弁護士会)
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
2.作成した教科書、教材、参考書		
レジュメの配布	2006年4月～	全ての講義においてオリジナルレジュメを作成し配布した(科目によってはプロジェクターを使用し、パワーポイントによる講義を実施)。
4.法律実務教育に関する特記事項		
講演:「企業における労働時間に関わる諸問題について」	2017年6月	株式会社イーウェル 主催
講演:「次世代リーダーにおけるコンプライアンス経営の重要性」	2017年9月	次世代リーダーズキャンプ 2017 主催
講演:「管理者の視点による情報マネジメント～事例に見る情報管理の重要性」	2017年10月	株式会社三菱ケミカルホールディングス 主催
講演:「企業経営におけるコンプライアンスの位置付」	2018年2月	一般社団法人 全国携帯電話販売代理店協会 主催

○著書・論文等

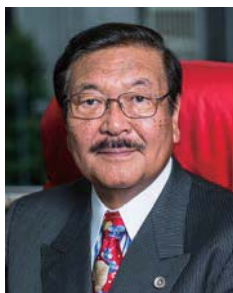
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
おとなのIT法律事件簿 家庭編(インプレスR&D)	単著	2018年3月	インプレスR&D	蒲俊郎	
(学術論文)					
「紛争時の証拠価値を踏まえて電子メールの保存・管理と戦略的活用法」	単著	2017年6月	みずほ総合研究所「BUSINESS TOPICS」	-	21-28頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、情報ネットワーク法学会、経営法曹会議、民事訴訟法学会、司法アクセス学会、日本法律家協会会員

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年3月～現在	ガンホー・オンライン・エンターテイメント株式会社 監査役
2007年8月～現在	株式会社ケイブ 監査役
2013年6月～現在	株式会社ティーガイア 監査役
2014年6月～現在	学校法人桐蔭学園 理事
2015年3月～現在	株式会社ピアラ 監査役
2015年6月～現在	一般財団法人東京都営交通協力会 理事
2017年4月～現在	株式会社J.SCORE 監査役

久保利 英明（くぼり ひであき）教授



出生年：1944(昭和19)年
 在籍：2015(平成27)年4月～
 最終学歴：東京大学法学部卒業
 学位：
 学位論文：
 専門分野：コーポレートガバナンス及びコンプライアンス、M&A、株主総会運営、金融商品取引法、独禁法等企業法務、知的財産権(特にエンターテインメント・ビジネスや通信・放送ビジネス等)

前職：大宮法科大学院大学教授、桐蔭法科大学院客員教授
 学内役職等：
 留学：
 資格：弁護士
 (日比谷パーク法律事務所代表/第二東京弁護士会)

非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
レジュメの配布	2014年4月～	全ての講義でオリジナルのレジュメを配布し、講義内容に合わせた文献等の資料を用意した。
ゲストスピーカーの招聘	2014年4月～	独自の人脈により、第一線で活躍する方々をゲストとして呼び出し、法曹の魅力を伝えた。また、受講者以外にも広く聴講を認め、多くの学生に参加の機会を与えた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
著書： 『破天荒弁護士クボリ伝』	2017年11月	これまでの弁護士人生を書籍にまとめ、講義でもとりあげた。
4.法律実務教育に関する特記事項		
新潟株式懇話会	2017年4月7日	「今年の株主総会と続発する企業不祥事の教訓」
The Women Corporate Directors Foundation (WCD) 日本支部	2017年5月31日	「株主総会対策と企業不祥事」
株式会社商事法務 総会議長セミナー	2017年6月7日	「役員のための総会運営法」
公益社団法人会社役員育成機構(BDTI)	2017年7月3日	「第三者委員会の設置から企業の信頼回復まで」
商事法務《特別企画》	2017年8月29日	「東芝問題を考える～なぜ、この問題は起きたのか、なぜ、ここまでの事態に至ったのか～」
商事法務 トップ・マネジメントセミナー	2017年10月4日	「今求められる取締役の役割と責務」
日本取締役協会 社外取締役懇談会	2017年11月16日	「社会が要請する社外取締役像」
日本弁護士連合会/ 人権と報道特別部会 記者懇談会	2017年12月8日	「議員定数不均衡訴訟の問題」 (最近の判決とメディアの問題点)
季刊『監事』創刊記念 講演会	2018年1月16日	「医療法人・社会福祉法人におけるガバナンスのあり方」

日本取引所自主規制法人 上場会社セミナー	2018年2月19日(東京) 3月1日(大阪)	「不祥事の事前予防と事後対応-社外役員の役割」
商事法務 平成30年株主総会準備対策講座	2018年2月28日(東京) 3月9日(福岡)	「企業不祥事の未然防止と発生後の対応」

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
破天荒弁護士クボリ伝	単	2017年11月	日経BP		
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
第15回 青山学院「会計サミット」	2017年7月12日	「日本的経営とガバナンス(パネリストとして登壇)」	青山学院大学		
第4回桐蔭CRECシンポジウム「ワンランク上の危機管理」	2018年3月14日	第4回桐蔭CRECシンポジウム	桐蔭横浜大学法科大学院 東京キャンパス		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「国家公務員のコンプライアンス」	2017年7月7日	独立行政法人国立印刷局	独立行政法人国立印刷局		
「君は正義のために闘えるかー私の法曹50年ー」	2017年7月7日	金沢大学法科大学院 特別講義	金沢大学法科大学院		
「企業不祥事と弁護士の役割」	2017年7月8日	金沢大学法科大学院 就職支援委員会	ホテル日航金沢		
ワールド・ビジネス・ロー講義「世界と日本のコンプライアンス」	2017年11月24日	一橋大学法科大学院 岡田和樹先生講義 ゲストスピーカー	一橋大学法科大学院		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
神戸製鋼所はあまりにも拙劣だ コンプラ経営の第一人者が語る改ざん問題	2017.10.20掲載	東洋経済オンライン			
私見卓見 「コンプライアンス 認識改めよ」	2017.11.20掲載	日本経済新聞			
論点 「ものづくり」に異変?	2017.11.22掲載	毎日新聞			
「うぬぼれジャパン」が製造業に蔓延 コンプラ専門家・久保利弁護士に聞く品質不正の原因	2017.12.22掲載	BUSINESS INSIDER JAPAN(WEB)			
「トクサイ(特別採用)」は製造業の墮落だ 甦れ! ニッポンの品質	2018.1.10掲載	日経ビジネスオンライン			
論点 名ばかり第三者委 企業の損失	2018.1.18掲載	読売新聞			

夕刊フジ「びいぶる」	2018.2.15号	夕刊フジ
法トーク 「調査委選び、社外役員主導で」	2018.3.19掲載	日本経済新聞
東芝とPwCあらたは市場へ説明責任を果たせ 八田進二先生と対談	2018.3.20掲載	東洋経済オンライン

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
法と経済学会, 租税訴訟学会, 日本法社会学会, 日本内部統制学会, 法とコンピュータ学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2006年9月～現任	金融庁総合政策局(旧名称:総務企画局) 参事(法令等遵守調査室顧問)	
2008年6月～現任	農林中央金庫 経営管理委員	
2011年6月～現任	東京証券取引所グループ(現 日本取引所グループ) 取締役(社外)	
2011年6月～2017年6月	東京証券取引所自主規制法人(現 日本取引所自主規制法人) 外部理事	
2014年6月～現任	ソースネクスト株式会社 取締役(社外)	
2004年4月～2017年5月	NPO法人エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク 理事長	
2017年5月～現任	NPO法人エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク 理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
ロースクールと法曹の未来を創る会 代表	2014年5月～	ロースクールと法曹の未来を創る会
第三者委員会報告書格付け委員会 委員長	2014年4月～	第三者委員会報告書格付け委員会

熊田 彰英 (くまだ あきひで) 教授



出生年：1969(昭和44)年12月25日
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：京都大学法学部
 学位：法学士
 学位論文：
 専門分野：刑事法, 刑事実務, 国際司法, 韓国法制
 前職：法務省大臣官房秘書課(検事)
 学内役職等：
 留学：
 資格：弁護士(のぞみ総合法律事務所)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
実際の事件・実務を意識した教育	2014年4月～	毎回、判例・時事問題のほか、自らが実務で担当した事件等について適宜言及し、現在習得しようとしている理論・知識が将来実務においてどのような形で役立つか、また、いかなる場面で必要か、学生が具体的なイメージを持てるよう適宜工夫している。

II 研究活動

○その他
(その他特記事項)
ドラマ「HERO」リーガルアドバイザー (2014年7月～)
ニュースコメンテーター (2014年7月～)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
第二東京弁護士会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
平成28年4月～	国際委員会

IV 法律実務に関する活動

会の名称	年月日	場所	内容等
弁護士	2014年4月～現在	のぞみ総合法律事務所	司法実務

中 島 肇 (なかじま はじめ) 教授



出 生 年 : 1955(昭和30)年
 在 籍 籍 : 2007(平成19)年4月～
 最 終 学 歴 : 東京大学法学部
 学 位 位 :
 学 位 論 文
 専 門 分 野 : 民法、企業法、倒産法、農業法、医療・福祉法
 前 職 : 東京高等裁判所判事
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2008年～現在	司法試験審査委員(商法)	
	全農福岡パールライス株式会社不適正取引調査委員会・委員長	
	事業再生研究機構(理事長・多比羅誠)会員研究員	
	地方自治法務研究会(座長・交告尚史東大教授)監事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全国銀行協会あっせん委員会小委員長	2011年4月～現在	全国銀行協会
参議院情報後悔苦情審査会委員	2011年4月～現在	参議院事務局
原子力損害賠償紛争審査会委員	2011年4月～現在	文部科学省

Ⅳ法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
	弘済事業株式会社民事再生手続申立代理人(東京地方裁判所)
	国際書房民事再生事件申立代理人(東京地方裁判所)
	破産事件管財人3件(東京地方裁判所)

福井康佐 (ふくい こうすけ) 教授



出生年 : 1961(昭和36)年
在籍 : 2012(平成24)年4月～
最終学歴 : 学習院大学大学院法学研究科法律学専攻博士後期課程
学位 : 博士(法学)
学位論文 : 「国民投票の研究」(博士論文)
専門分野 : 直接民主制・憲法訴訟・選挙運動規制
前職 : 大宮法科大学院教授
学内役職等 : 法務研究科法務専攻長(2012～2014)
留学 :
資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

憲法理論研究会、比較憲法学会

宮島里史 (みやじま さとし) 教授



出生年 : 1951(昭和26)年
在籍 : 1994(平成6)年4月～
最終学歴 : 中央大学大学院博士後期課程終了
学位 : 法学修士(中央大学)
Master of Laws (Northwestern Univ. School of Law)
学位論文 : 弁護権の意味と機能(中央大学)
Waiver of the Sixth Amendment Right to Counsel at the
Pretrial Stages (Northwestern Univ. School of Law)
専門分野 : 憲法、刑事訴訟法、少年法
前職 :
学内役職等 :
留学 : Northwestern Univ. School of Law (U.S.A)
資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本刑法学会、日米法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年2月～現在	第二東京弁護士会懲戒委員会委員

菅谷 貴子 (すがや たかこ) 准教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2010(平成22)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学法学部法律学科
 学位：
 学位論文：
 専門分野：刑事法、労働法、会社商事関係全般等
 前職：
 学内役職等：
 留学：
 資格：弁護士(第二東京弁護士会)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.法律実務教育に関する特記事項		
司法修習委員会		指導全般(模擬裁判立会い等)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、(財)日本法律家協会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2004年4月～現在	(財)金融情報システムセンター(現(公財)金融情報システムセンター) 検討部会委員
2006年5月～現在	(株)キーウォーカー 監査役
2006年6月～現在	(社)全国国民営職業紹介事業協会(現(公社)全国国民営職業紹介事業協会) 理事
2007年6月～現在	(株)フェイス 監査役
2010年3月～現在	(財)楠田育英会(現(一財)楠田育英会) 常務理事

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2010年6月～現在	コロムビアミュージックエンタテインメント(株)(現 日本コロムビア(株)) 監査役
2014年4月～現在	家事調停委員(東京家庭裁判所 所属)
2014年9月～現在	トーセイ・リート投資法人 監督役員
2015年4月～現在	(学)清泉女子大学 評議員
2015年8月～現在	(株)クオレ・シー・キューブ ハラスメント対策委員会 実行委員長
2016年6月～現在	日通商事(株) 監査役
2016年12月～現在	(一財)軽井沢風越学園設立準備財団 評議員
2017年4月～現在	(学)東邦大学 非常勤講師
2017年6月～現在	(一社)日本ゲーミング協会 理事

千葉 理 (ちば おさむ) 准教授



出生年 : 1963(昭和38)年
 在籍 : 2010(平成22)年4月～
 最終学歴 : 東京大学法学部
 学位 :
 学位論文 :
 専門分野 : 会社法・商法
 前職 : 三菱商事株式会社勤務(1987～1999)
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 弁護士(第二東京弁護士会)・曙綜合法律事務所
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.法律実務教育に関する特記事項		
複数の顧問先への会社法等の研修会(買収防衛策及び会社法の改正動向等)に講師として参加した。またいくつかの株主総会指導を行い株主総会に参加した。		
5.その他教育活動上特記すべき事項		
教務委員会委員として教務委員会にまた定期的で開催されるFD研究会に参加し、よりよい法科大学院としての教員の質の向上のタメの議論に参加した。		

III 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年4月～現在	第二東京弁護士会民事介入暴力被害者救済センター運営委員会委員

中野邦保 (なかのくにやす) 准教授



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：名古屋大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：行為基礎論における等価関係破壊の評価
 専門分野：民法
 前職：
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)ソクラテスメソッドによる講義	2005年度～	少人数の講義において、出欠席・評価とを連動しつつ、問答形式で、学生の理解度を確認しながら民法の授業を行っている。

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略					
・私法体系の再編に向けた基礎的研究 本年度は、団体法制の変容という点に目を向け、具体的な裁判例から非常利団体法制のあり方が変容してきており、解釈においても、それを反映させたかたちで議論を展開する必要性を論じるとともに、今後の目指すべき方向について検討を行った。 ・日本民法典財産法編・担保法の改正に向けた立法論的研究 科研の最終年度にあたることから、担保法改正条文のうち、改正担保法案の構成と、抵当権制度の具体的な改正条文をとりまとめ公表できるよう、研究会にて継続的に検討を行った。なお、2018年度には「物権法改正」を中心とした研究会として継続して検討を行うことが予定されている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
加藤雅信先生古稀記念『21世紀民事法学の挑戦』	共著	2018年3月	信山社	加藤新太郎＝太田勝造＝大塚直＝田高寛貴編	「非常利団体法制の変容と展開——団体設立スキームの構想」353-381頁
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
日本民法典財産法・担保法編の改正(課題番号:25245011、代表:加藤雅信)	2013年4月～2018年3月	科学研究費補助金(基盤研究(A)) 研究分担者			
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
「日中における民法改正の動向」シンポジウム(2017年11月24日)にコメンテーターとして参加	2017年11月23日～11月26日	南京大学(中国)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、日本法哲学会

弓削田 博 (ゆげた ひろし) 准教授



出生年 : 1974(昭和49)年1月9日
 在籍 : 2010(平成22)年4月～
 最終学歴 : 明治大学法学部
 学位 : 法学士
 学位論文 :
 専門分野 : 知的財産法, 企業法務, 広告規制法
 前職 :
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 弁護士(2000年登録 小林・弓削田法律事務所)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書 講義レジュメの作成		教科書を使用する科目でもすべてオリジナルレジュメを作成しているが、特に「債権回収と担保」では、教科書を指定せず、講義に耐える自作レジュメを作成し、それのみでの講義を行っている。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本工業所有権法学会, 法とコンピュータ学会, エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク, 全国倒産処理弁護士ネットワーク

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2014年4月～現在	工業所有権審議会臨時委員(特定侵害訴訟代理業務試験委員)

平岩 桃子 (ひらいわ ももこ) 助手



出生年 : 1980(昭和55)年
在籍 : 2011(平成23)年1月～
最終學歷 : 桐蔭横浜大学法科大学院法務研究科博士課程修了
學位 : 法務博士
學位論文 :
専門分野 :
前職 :
学内役職等 : 法科大学院教育助手
留学 :
資格 : 弁護士(城山タワー法律事務所)
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

先端医用工学センター (Biomedical Engineering Center)

奥井理予 (おくい みちよ) 専任講師



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：広島大学大学院医学系研究科博士課程後期修了
 学位：博士(薬学)
 学位論文：ダウン症関連領域からクローニングされたMNB遺伝子の発現解析
 専門分野：分子生物学、細胞生物学
 前職：慶応義塾大学医学部助手
 学内役職等：
 留学：St. Jude Children's Research Hospital (アメリカ) (2008年11月～2010年9月)
 資格：薬剤師免許
 公認スポーツファーマシスト
 非常勤講師：国立大学法人電気通信大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.その他教育活動上特記すべき事項		
公認スポーツファーマシスト	2016年4月1日～	

II 研究活動

○2017年度の研究活動概略			
2017年度は、2015年度に同定した3種類のmicroRNA(miR-X、miR-Y、miR-Z)について、TaqMan microRNA アッセイによる発現解析を行った。シスプラチン、エトポシド、ボルテゾミブ、カンプトテシン、カルボプラチン、5-FUなど、20種類以上の薬剤について調べたが、miR-X、miR-Y、miR-Zすべての発現を誘導する薬剤は見つからなかった。一方、マウス髄芽腫細胞では、ヒストン脱アセチル化酵素の阻害剤であるトリコスタチンA(TSA)により、miR-X、miR-Y、miR-Zの発現量が増加し、olaparibとTSAの併用により細胞増殖が抑制されることを確認した。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(ポスター発表) PARP阻害剤感受性を亢進するmicroRNAの同定とPARP阻害剤併用療法の検討	2018年3月25～3月28日	日本薬学会第138年会(金沢)	奥井理予、Helen R. Russell、Peter J. McKinnon
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金 基盤研究(C) PARP阻害剤感受性を亢進するmicroRNAの同定と新規併用療法の開発	2015年4月～2018年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本薬学会、日本癌学会、日本分子生物学会、アメリカ癌学会(American Association for Cancer Research)	
任期、活動期間等	学会等における役職等
平成28年8月1日～平成29年7月31日	独立行政法人日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員 委嘱
平成29年5月1日～平成29年7月31日	独立行政法人日本学術振興会 卓越研究員候補者選考委員会書面審査員 委嘱

公開講座・セミナー・シンポジウム・イベント等開催

(国際シンポジウム開催)

桐蔭医用工学国際シンポジウム2017(第12回)

The 11th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2017

日時:2017年11月11日(土)9:30~18:15

場所:桐蔭学園アカデミウム

Program

Plenary session —invited speakers—

Session 1 : Bioengineering Human Senses – Developments and Trends

Dr. Christopher Druzgalski

Professor

Department of Electrical Engineering

California State University, Long Beach, U.S.A.

Session 2 : Computer Simulation of Heart : from Cell to beside

Dr. Xin Zhu

Senior Associate Professor

Biomedical Information Technology Lab

The University of Aizu, JAPAN

Session 3 : Love Surface Wave Biosensors

Dr. Piotr Kielczynski

Professor

Institute of Fundamental Technological Research

Polish Academy of Sciences, POLAND

Session 4 : Aqueous Ultrasonic Dispersion with Acoustic Streaming

Dr. Moo Joon Kim

Professor

Department of Physics, Graduate School

Pukyong National University, KOREA

Oral presentation

Presentation 1 : Ms. Rieko AIDA

Graduate Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 2 : Mr. Nobuaki KOSUGE

Graduate Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 3 : Mr. Seiya OZEKI

Graduate Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 4 : Mr. Naoya SHIMAZAKI

Graduate Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 5 : Mr. Ashish KULKARNI

Doctoral Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 6 : Dr. Kazuko SUGIMOTO

Guest Research Engineer / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 7 : Dr. Yoshinori HAYAKAWA

Part Time Lecturer / Faculty of Biomedical Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 8 : Mr. Fumimasa KUBO
Graduate Student / School of Science and Technology, Tokyo Institute of Technology

Presentation 9 : Mr. Naoki KUSUMOTO
Graduate Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 10 : Dr. Koki ABE
Center for Environmental Engineering, Shimizu Corporation

Presentation11 : Dr. Kazunori OKANO
Postdoctoral Research Fellow / Graduate School of Materials Science, Nara Institute of
Science and Technology

Poster presentation

BIOMEDICAL ENGINEERING — 29 posters

CLINICAL ENGINEERING — 22 posters

FRONTIER ENGINEERING — 15 posters

(イベント／学内)

第19回おもしろ理科教室

日時： 2017年8月18日(金)10:00～15:30

場所： 桐蔭横浜大学 法学部棟 他

対象： 小学生以上の児童、生徒およびその保護者 他

実施テーマ

「じゃんぼシャボン玉に挑戦」

「砂で削るメッセージ」

「わくわく実験教室 やってみよう不思議な化学実験PART2！デンプンのりで手品！？」

「生物の光を作ってみよう」

「光の力で絵を描こう！」

「描いて、動かす、プログラミング体験」

「なりきり裁判官」

「礼儀作法」

「防災カルタをやろう！」

「絵はがきに夏休みの思い出を描いてみよう！」

「負の数とゼロの計算の理屈と新そろばん数字」

「「力」を実感してみよう」

「風も吹いていないのに葉っぱがゆれる？」

「さわれない黒いかべ！偏光って何だ？」

「わくわく病院ごっこ」

「ミクロの世界を探険しよう！」

「ミクロのいきものクラフトワークショップ」

「ペットボトルで遊ぼう」

「ブーメランを飛ばそう」

「折り紙飛行機を作って飛ばそう」

「体育館遊園地化計画」

「あなたもチアリーダー」

「桐蔭英語村」(英語で遊ぼう)

「陪審法廷見学」

桐蔭学園中学校(男・女)&中等教育学校 案内コーナー

(イベント／学外)

第2回 花と緑で健康づくり講演会

日時： 2017年5月13日(土) 14時～16時

場所： たまプラーザテラス ゲートプラザ2Fプラーザホール

主催： 青葉区役所福祉保健課健康づくり係・桐蔭横浜大学

内容： 千葉大学大学院園芸学研究科 岩崎寛氏 「花や緑を育て、飾って、楽しく健康になろう！」講演、他

青葉バラウォーク

日時： 2017年5月20日(土) 9時30分～13時

場所： 美しが丘公園～荇子田太陽公園

主催： 青葉区役所福祉保健課健康づくり係・桐蔭横浜大学

内容： ミニ講座(櫻井先生によるウォーキングのコツ)、コース解説、桐蔭の学生と一緒に荇子田太陽公園(バラ公園)目指しウォーキング、交流タイム。

大学で学ぼう生涯学習フェア(第一弾)

日時： 2017年7月8日(土)、9日(日) 11時～16時

場所： 神奈川県立図書館

主催： かながわ大学生涯学習推進協議会(県内68大学と県教育委員会、県立図書館生涯学習サポート課)

内容： 資料提供

かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア

日時： 2017年7月15日(土) 10時～17時30分

場所： そごう横浜店 新都市ホール

主催： かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア実行委員会(県、県教育委員会、参加大学、神奈川科学技術アカデミー、県内25大学・県内3社)

内容： 科学の不思議や理工系の魅力を直接体験できる。各参加大学による実験体験ブース。本学は医用工学部 石河陸生先生に「からだを測る、からだを治す」医療の現場で活躍する臨床検査技師と臨床工学技士の仕事について、実際の医療機器(超音波機器や呼吸器)を使ったデモンストレーションと映像を交えて説明を行った。

中高生のサイエンスキャリアプログラム

日時： 2017年8月1日(火) 10時30分～15時30分

場所： 桐蔭横浜大学 先端医用工学センター

主催： 県立青少年センター

内容： 医用工学部 米坂先生「医療系技術者について」講演。体験学習で「超音波診断装置の体験」濤川先生、「医療機器の操作体験」山内先生が行った。

子ども科学探検隊

日時： 2017年8月18日(金) 10時～15時30分

場所： 桐蔭横浜大学

主催： 県立青少年センター

内容： 小学4年生から6年生が参加し、アカデミウム陪審法廷見学・英語村見学・おもしろ理科教室参加。

大学で学ぼう生涯学習フェア(第二弾)

日時： 2017年9月3日(日) 10時～15時30分

場所： 相模原市立市民・大学交流センター ユニコムプラザさがみはら

主催： かながわ大学生涯学習推進協議会(県内68大学と県教育委員会、県立図書館生涯学習サポート課)

内容： 記念講演 北里大学名誉教授 馬淵清資氏『バナナの皮から広がる生命科学の香り』を講演。

参加大学38校！資料配付・個別相談

ヨコハマ大学まつり

日時： 2017年9月30日(土)・10月1日(日) 9時～18時30分

場所： みなとみらい21地区 クイーンズスクエア

主催： ヨコハマ大学まつり実行委員会(県内28大学)

共催： 大学・都市パートナーシップ協議会、横浜市

協力： 一般社団法人横浜みなとみらい21

内容： 市内参加大学が各団体ステージパフォーマンスを行ったり、教室で講座や実験・体験を行う。

本学はステージパフォーマンスでダンスサークル2団体、音楽部が参加。

大学生と巡るもみじウォーク

日時： 2017年11月23日(祝)

場所： 桐蔭横浜大学～早野聖地公園～桐蔭横浜大学

主催： 青葉区役所福祉保健課健康づくり係・桐蔭横浜大学

内容： ウォーキングをしながらモミジやイチョウ、ケヤキなどの紅葉を楽しみ、さらに学生とのコミュニケーションを計れる企画。

雨天の為、中止

青葉6大学連携講座

日時： 2017年12月10日(日) 13時～14時20分

場所： 青葉区役所4階401会議室

主催： 青葉区区政推進課企画調整係・青葉6大学

内容： 本学はスポーツ科学研究科 櫻井智野風先生「カラダの不調を解消する運動とは？」講演

2017年度前期 地域連携・生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	4月13日～ 7月6日	10:40～ 12:10	12	18,000
02	短歌 実作の楽しみ	佐佐木 朋子 (歌誌「心の花」編集委員)	4月11日～ 7月11日	13:00～ 14:30	12	18,000
03	日本書紀を読む(3)	寺田 恵子 (学習院女子大学非常勤講師)	6月5日～ 7月24日	10:40～ 14:30	12	18,000
04	イスラームとキリスト教の対話	久山 宗彦 (カイロ大学客員教授)	4月12日～ 7月5日	10:40～ 12:10	12	18,000
05	ゼロから始めるスペイン語 -入門編-	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長) 山城 リタ (スペイン語講師)	5月8日～ 7月10日	10:40～ 12:10	10	15,000
06	基礎スペイン語講座 -文化と共に学ぶ-		5月10日～ 7月12日	10:40～ 12:10	10	15,000
07	中級スペイン語		5月10日～ 7月12日	10:40～ 12:10	10	15,000
08	スペイン語会話 -ネイティブの先生と共に学ぶ-	山城 リタ (スペイン語講師)	5月10日～ 7月12日	13:00～ 14:30	10	15,000
09	ゼロから始める中国語 -入門編-	韓 寧 (桐蔭横浜大学准教授)	4月13日～ 7月6日	13:00～ 14:30	12	18,000
10	中級中国語		4月10日～ 6月26日	13:00～ 14:30	12	18,000
11	ゼロから始める韓国語 -入門編-	兪 三善 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月21日～ 7月14日	13:00～ 14:30	12	24,000
12	初級韓国語		4月21日～ 7月14日	14:40～ 16:10	12	24,000
13	中級韓国語		4月21日～ 7月14日	10:40～ 12:10	12	24,000
14	簡単だけれど、お洒落な英語の読み書き -Creative Reading and Writing-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月11日～ 6月27日	13:00～ 14:30	12	18,000
15	英語で歌を歌おう	上山 美恵子 (ソプラノ歌手)	4月10日～ 7月3日	10:40～ 12:10	12	24,000
16	学びなおす英語 -中級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	4月14日～ 7月7日	13:00～ 14:30	12	18,000
17	学びなおす英語 -上級程度-		4月14日～ 7月7日	14:50～ 16:20	12	18,000
18	English is fun! -初級英会話A-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月13日～ 7月6日	13:00～ 14:30	12	18,000
19	Beginners English Conversation -初級英会話B-	メアリー高岡 (元カリタス女子短期大学講師)	4月11日～ 6月20日	13:00～ 14:30	10	15,000
20	You Can Do it in English! -中級英会話A-	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	4月17日～ 7月3日	10:50～ 12:20	12	18,000
21	Broaden Your Horizons!(自分の視野を広げる) -中級英会話B-	アンドリュー・バーク (桐蔭学園講師)	4月20日～ 7月13日	10:50～ 12:20	10	15,000
22	Advanced English Conversation -上級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月13日～ 7月6日	10:40～ 12:10	12	18,000
23	特許翻訳講座⑩ -訳語選択の「なぜ」を考える-	水野 麻子 (特許翻訳者)	7月15日・22日	10:00～ 15:30	6	9,000
24	朗読を楽しむ I	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	4月13日～ 7月6日	10:40～ 12:10	12	18,000
25	朗読を楽しむ II		4月13日～ 7月6日	13:00～ 14:30	12	18,000
26	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう!-(午前クラス)	玄一生 (写真家)	4月11日～ 6月27日	10:40～ 12:10	10	20,000 (保険料等 別途500円)
27	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう!-(午後クラス)		4月11日～ 6月27日	13:00～ 14:30	10	20,000 (保険料等 別途500円)

2017年度前期 地域連携・生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
28	たのしいフルーツアンサンブル (午前クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	4月14日～ 7月7日	10:40～ 12:10	10	20,000
29	たのしいフルーツアンサンブル (午後クラス)		4月14日～ 7月7日	13:00～ 14:30	10	20,000
30	表現を豊かにするワークショップ	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	4月14日～ 7月14日	15:15～ 16:45	12	18,000
31	ちょこっとSALSA!		4月14日～ 7月14日	18:00～ 19:30	12	18,000
32	健康体操 -リズム&ストレッチ-		4月14日～ 7月14日	13:15～ 14:30	12	15,000
33	ゆっくりまなぶ体質改善の薬膳学 -基礎編-	大根田 笑子 (国際中医薬膳師)	4月12日～ 6月28日	13:00～ 14:30	5	7,500

2017年度後期 地域連携・生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	10月5日～ 1月18日	10:40～ 12:10	12	18,000
02	短歌 実作の楽しみ	佐佐木 朋子 (歌誌「心の花」編集委員)	10月10日～ 1月30日	13:00～ 14:30	12	18,000
03	日本書紀を読む(4)	寺田 恵子 (学習院女子大学非常勤講師)	11/6・13・20 2/15・19・22 3/5	10:40～ 14:30	12	18,000
04	イスラームとキリスト教の対話	久山 宗彦 (カイロ大学客員教授)	10月4日～ 1月10日	10:00～ 11:30	12	18,000
05	基礎スペイン語講座 -文化と共に学ぶ-	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	10月11日～ 1月10日	10:40～ 12:10	10	15,000
06	中級スペイン語	山城 リタ (スペイン語講師)	10月11日～ 1月10日	10:40～ 12:10	10	15,000
07	スペイン語会話 -ネイティブの先生と共に学ぶ-	山城 リタ (スペイン語講師)	10月11日～ 1月10日	13:00～ 14:30	10	15,000
08	初級中国語	韓 寧 (桐蔭横浜大学准教授)	10月5日～ 1月11日	13:00～ 14:30	12	18,000
09	中級中国語		10月2日～ 1月15日	13:00～ 14:30	12	18,000
10	初級韓国語	兪 三善 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月6日～ 2月2日	13:00～ 14:30	12	24,000
11	中級韓国語		10月6日～ 2月2日	14:40～ 16:10	12	24,000
12	上級韓国語		10月6日～ 2月2日	10:40～ 12:10	12	24,000
13	簡単だけれど、お洒落な英語の読み書き -Creative Reading and Writing-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月3日～ 1月9日	13:00～ 14:30	12	18,000
14	英語で歌を歌おう	上山 美恵子 (ソプラノ歌手)	10月2日～ 1月15日	10:40～ 12:10	12	24,000
15	学びなおす英語 -中級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	10月6日～ 2月9日	13:00～ 14:30	12	18,000
16	学びなおす英語 -上級程度-		10月6日～ 2月9日	14:40～ 16:10	12	18,000
17	English is fun! -初級英会話A-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月5日～ 1月18日	13:00～ 14:30	12	18,000
18	Beginners English Conversation -初級英会話B-	メアリー高岡 (元カリタス女子短期大学講師)	10月10日～ 1月9日	13:00～ 14:30	12	18,000
19	You Can Do it in English! -中級英会話A-	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園教諭)	10月2日～ 1月16日	10:50～ 12:20	12	18,000
20	Broaden Your Horizons!(自分の視野を広げる) -中級英会話B-	アンドリュー・バーク (桐蔭学園講師)	10月5日～ 2月15日	10:50～ 12:20	9	13,500
21	Advanced English Conversation -上級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月5日～ 1月18日	10:40～ 12:10	12	18,000
22	特許翻訳講座① -特許翻訳と一般技術翻訳の違いを考える-	水野 麻子 (特許翻訳者)	12月16日・ 1月20日	10:00～ 15:30	6	9,000
23	朗読を楽しむ I	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	10月5日～ 1月18日	10:40～ 12:10	12	18,000
24	朗読を楽しむ II		10月5日～ 1月18日	13:00～ 14:30	12	18,000
25	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう!-(午前クラス)	玄一生 (写真家)	10月3日～ 2月13日	10:40～ 12:10	12	24,000 (保険料等 別途500円)
26	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう!-(午後クラス)		10月3日～ 2月13日	13:00～ 14:30	12	24,000 (保険料等 別途500円)
27	たのしいフルートアンサンブル (午前クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	10月6日～ 12月8日	10:40～ 12:10	9	18,000

2017年度後期 地域連携・生涯学習センター講座一覧表

講座 番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
28	たのしいフルーツアンサンブル (午後クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	10月6日～ 12月8日	13:00～ 14:30	9	18,000
29	表現を豊かにするワークショップ	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	10月6日～ 2月16日	15:15～ 16:45	12	18,000
30	ちょこっとSALSA!		10月6日～ 2月16日	18:00～ 19:30	12	18,000
31	健康体操 -リズム&ストレッチ-		10月6日～ 2月16日	13:15～ 14:30	12	15,000
32	ゆっくりまなぶ体質改善の薬膳学 -基礎編-	大根田 笑子 (国際中医薬膳師)	10月11日・25日 11月 8日・22日	13:00～ 14:30	4	6,000

桐蔭横浜大学学術交流レポート2017

2019年2月発行

発行人：佐藤宣践

発行所：桐蔭横浜大学

編集：桐蔭横浜大学 学長室

〒225-8503

横浜市青葉区鉄町1614

TEL. 045(972)5881(代)

<http://toin.ac.jp/univ/>
